

分布調査報告書（35）

2009

山形県教育委員会

分布調査報告書（35）

平成 21 年 3 月

山形県教育委員会

序

本書は、山形県教育委員会が平成 19 年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

平成 17 年度から施行された第 5 次山形県教育振興計画は、「いのち」「まなび」「かかわり」を主要なテーマとして実践されておりますが、埋蔵文化財の保存と活用については文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知徹底・普及に務めることなどが大きな柱とされております。そのため、本県では毎年実施している分布調査によって得られた成果を年度毎に「分布調査報告書」としてまとめると共に、それらの情報を基として遺跡所在地の更新とその周知を図っているところです。

このように、遺跡詳細分布調査は、既に知られている埋蔵文化財包蔵地及び未発見のままとなっている包蔵地等と、県内各地で計画される各種の開発計画との調整を図るために行っているものですが、調査の結果、新たな遺跡の発見や範囲の変更、あるいは削除など年々新たな情報が追加されて来ています。

本書の刊行は、こうした新しい埋蔵文化財に関するデータを提供し、遺跡の保護や保全に資することを目的としていますので、関係各位におかれましては開発計画の策定にあたって積極的にこれらの新情報を御活用いただければ幸いと思っております。

平成 21 年 3 月

山形県教育委員会

教育長 山口 常夫

例　言

1 本書は平成 19 年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成 20 年度以降の開発に係る農林土木事業関係遺跡他を対象として実施した遺跡詳細分布調査（県内遺跡発掘調査）の報告書である。

2 本書の作成は山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室の石井浩幸（平成 19 年度）、及び山形県教育庁文化遺産課の阿部明彦、小嶋康広、丸吉繁一（平成 20 年度）の 3 名が担当した。

3 第Ⅰ章に平成 19 年度の調査遺跡一覧、第Ⅱ章に個々の調査概要を掲載した。また、第Ⅲ章では記録保存調査の結果を報告し、第Ⅳ章でこれらの調査結果を纏めるとともに、平成 19 年度に国等の機関や市町村教育委員会、地権者から通知または届出のあった新規発見遺跡の一覧を掲載した。なお、平成 19 年度までの新規発見遺跡、登録抹消遺跡、範囲・位置の変更については本書の発行をもって周知されたものとする。

4 掲図の縮尺は不統一であり、図毎にスケールを示した。断面図類は 20 分の 1 を基本としたが、一部 40 分の 1 も採用した。遺跡地図は国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 の地図を使用している。なお、第Ⅱ章-2 及び第Ⅲ章では、これを縮小して使用した。使用地図の図幅一覧は巻末に記した通りである。

5 掲図及び文中の記号は以下の通りである。

Tないし TT は試掘溝（トレンチ）、TP と口は試掘坑を表している。また、調査概要図中の赤色部分は遺構・遺物が検出されたことを示し、黒色部分は遺構・遺物が未検出であることを示す。また、遺跡位置図の赤色部分は遺跡の範囲や調査の対象地を示している。

本文中、あるいは掲図中の英字記号は、以下に記す遺構の性格と対応している。

S T - 竪穴住居跡	S B - 建物跡	S K - 土壙	S D - 溝跡	E B - 掘り方
E P - 柱穴	S X - 性格不明遺構			

6 図版の遺物縮尺は任意である。

7 調査にあたっては、関係機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者の御協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

目 次

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1

II 調査の概要

1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡	4
(2) 県土木事業関係遺跡	4
(3) 県教育庁関係遺跡	6
(4) 住宅公社関係遺跡	8
(5) 国土交通省関係遺跡	8
(6) 農林水産省関係遺跡	8

2 試掘調査の概要

(1) 植ノ山2遺跡	26
(2) 植ノ山3遺跡	27
(3) 植ノ山遺跡可能性地	28
(4) 下大曾根遺跡	32
(5) 鶯畑新田遺跡	36
(6) 新町遺跡	40
(7) 南台遺跡	41
(8) 下九野本地区遺跡可能性地2	42
(9) 下九野本地区遺跡可能性地3	43
(10) 小平4遺跡	48
(11) 天童市古閥地区遺跡可能性地2	52
(12) 山元遺跡隣接遺跡可能性地	56
(13) 飛田市飛鳥遺跡可能性地2	60
(14) 白山遺跡可能性地	64
(15) 船止遺跡	66
(16) 山形城三の丸(春日町)	68
(17) 三沢b遺跡	72
(18) 山形城三の丸(旅籠町)	74
(19) 西原遺跡	78
(20) 家の廻り遺跡	82
(21) 東北中央道遺跡可能性地12	86
(22) 米沢南陽道路 IC予定地	90
(23) 水窪遺跡	92

III 記録保存・立会調査の概要

(1) 下大曾根遺跡	96
(2) 莢田2遺跡	108
(3) 山形元屋敷遺跡	117
(4) 下反田2遺跡	119
(5) 下叶水遺跡	123
(6) 高瀬山遺跡	128

IV まとめ

1 調査遺跡について	
2 新規登録遺跡及び記載事項変更遺跡、登録抹消遺跡	
(1) 県教育委員会が発見し登録した遺跡	131
(2) 国等の機関、市町村教育委員会からの通知、地権者からの届出 により登録した遺跡	131
(3) 範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡	131

抄 錄

遺跡地名表 挿図・図版目次

遺跡地名表	位置図・図版 1 県農林事業関係遺跡	10
遺跡地名表	位置図・図版 2 県農林事業関係遺跡	11
遺跡地名表	位置図・図版 3 県農林・県病院局関係遺跡	12
遺跡地名表	位置図・図版 4 県農林・県土木事業関係遺跡	13
遺跡地名表	位置図・図版 5 県土木事業関係遺跡	14
遺跡地名表	位置図・図版 6 県土木事業関係遺跡	15
遺跡地名表	位置図・図版 7 県土木事業関係遺跡	16
遺跡地名表	位置図・図版 8 県土木事業関係遺跡	17
遺跡地名表	位置図・図版 9 県土木・国土交通省事業関係遺跡	18
遺跡地名表	位置図・図版 10 県土木事業関係遺跡	19
遺跡地名表	位置図・図版 11 県土木・県教育委員会事業関係遺跡	20
遺跡地名表	位置図・図版 12 県企業局他関係遺跡	21
遺跡地名表	位置図・図版 13 県土木・国土交通省事業関係遺跡	22
遺跡地名表	位置図・図版 14 國土交通省関係遺跡	23
遺跡地名表	位置図・図版 15 國土交通省・農林水産省関係遺跡	24
遺跡地名表	位置図・図版 16 農林水産省・市町村関係遺跡	25

挿 図 目 次

第 1 図 植ノ山 2 遺跡調査概要図	26	第 35 図 西原遺跡調査断面図	80
第 2 図 植ノ山 3 遺跡調査概要図	27	第 36 図 家の堀り遺跡調査概要図	82
第 3 図 植ノ山遺跡可能性地調査概要図	28	第 37 図 家の堀り遺跡調査平面図 断面図	83
第 4 図 植ノ山遺跡可能性地調査平面図	29	第 38 図 東北中央道遺跡可能性地 12 調査概要図	86
第 5 図 植ノ山遺跡可能性地調査断面図	30	第 39 図 東北中央道遺跡可能性地 12 調査平面図	87
第 6 図 下大曾根遺跡調査概要図	32	第 40 図 東北中央道遺跡可能性地 12 調査断面図	88
第 7 図 下大曾根遺跡調査断面図	33	第 41 図 米沢南陽道路 IC 予定地調査概要図	90
第 8 図 鶴畑新田遺跡調査概要図 断面図	37	第 42 図 米沢南陽道路 IC 予定地調査断面図	91
第 9 図 鶴畑新田遺跡調査断面図	38	第 43 図 水窪遺跡調査概要図	93
第 10 図 新町遺跡調査概要図	40	第 44 図 水窪遺跡調査平面図 断面図	94
第 11 図 南台遺跡調査概要図	41	第 45 図 下大曾根遺跡調査概要図	97
第 12 図 下九野本地區遺跡可能性地 2 調査概要図	42	第 46 図 下大曾根遺跡調査平面図 (1)	99
第 13 図 下九野本地區遺跡可能性地 3 調査平面図 断面図	44	第 47 図 下大曾根遺跡調査平面図 断面図 (1)	100
第 14 図 小平 4 遺跡調査概要図	48	第 48 図 下大曾根遺跡調査平面図 (2)	101
第 15 図 小平 4 遺跡調査平面図 断面図	49	第 49 図 下大曾根遺跡調査平面図 断面図 (2)	102
第 16 図 小平 4 遺跡調査断面図	50	第 50 図 下大曾根遺跡調査平面図 断面図 (3)	103
第 17 図 天童市小閑地区遺跡可能性地 2 調査概要図	52	第 51 図 下大曾根遺跡調査断面図 (3)	104
第 18 図 天童市小閑地区遺跡可能性地 2 調査平面図 断面図	53	第 52 図 下大曾根遺跡出土遺物実測図	105
第 19 図 山元遺跡隣接遺跡可能性地調査概要図	56	第 53 図 薩田 2 遺跡調査概要図	109
第 20 図 山元遺跡隣接遺跡可能性地調査平面図 断面図	57	第 54 図 薩田 2 遺跡調査平面図	110
第 21 図 酒田市飛鳥遺跡可能性地 2 調査概要図	60	第 55 図 薩田 2 遺跡調査平面図 断面図 (1)	111
第 22 図 酒田市飛鳥遺跡可能性地 2 調査平面図 断面図	61	第 56 国 薩田 2 遺跡調査平面図 断面図 (2)	112
第 23 図 鶴岡市白山遺跡可能性地調査概要図	64	第 57 国 薩田 2 遺跡調査平面図 断面図 (3)	113
第 24 国 鶴岡市白山遺跡可能性地調査断面図	65	第 58 国 薩田 2 遺跡出土遺物実測図	114
第 25 国 船止遺跡調査概要図	66	第 59 国 山形元厘敷遺跡調査概要図	117
第 26 国 船止遺跡調査断面図	67	第 60 国 山形元厘敷遺跡調査断面図	118
第 27 国 山形城三ノ丸調査概要図 平面図 断面図	69	第 61 国 下反田 2 遺跡調査概要図	119
第 28 国 山形城三ノ丸調査断面図	70	第 62 国 下反田 2 遺跡調査平面図 断面図	120
第 29 国 三沢 b 遺跡調査概要図	72	第 63 国 下反田 2 遺跡出土遺物実測図	122
第 30 国 三沢 b 遺跡調査断面図	73	第 64 国 下叶水遺跡調査概要図	123
第 31 国 山形城三ノ丸調査概要図	75	第 65 国 下叶水遺跡調査平面図	124
第 32 国 山形城三ノ丸調査平面図 断面図	76	第 66 国 下叶水遺跡調査平面図 断面図	125
第 33 国 西原遺跡調査概要図	78	第 67 国 下叶水遺跡出土遺物実測図	126
第 34 国 西原遺跡調査平面図 断面図	79	第 68 国 高瀬山遺跡調査概要図	129

図版目次

図版 1 植ノ山遺跡可能性地	29	図版 26 西原遺跡	81
図版 2 植ノ山3遺跡 植ノ山遺跡可能性地	31	図版 27 家の廻り遺跡	84
図版 3 下大曾根遺跡	32	図版 28 家の廻り遺跡	85
図版 4 下大曾根遺跡	35	図版 29 東北中央道遺跡可能性地 12	89
図版 5 鷺畑新田遺跡	36	図版 30 米沢南陽道路 IC 予定地	91
図版 6 鷺畑新田遺跡	39	図版 31 水産遺跡	92
図版 7 下九野本地区遺跡可能性地 3	43	図版 32 水産遺跡	93
図版 8 新町遺跡 南台遺跡	45	図版 33 水産遺跡	95
図版 9 新橋遺跡 可能性地 2 遠藤屋敷遺跡	46	図版 34 下大曾根遺跡	97
図版 10 下九野本地区遺跡可能性地 2・3 新町遺跡	47	図版 35 下大曾根遺跡	98
図版 11 小平4遺跡	50	図版 36 下大曾根遺跡	101
図版 12 小平4遺跡	51	図版 37 下大曾根遺跡	104
図版 13 天童市小閑地区遺跡可能性地 2	52	図版 38 下大曾根遺跡	106
図版 14 天童市小閑地区遺跡可能性地 2	55	図版 39 下大曾根遺跡	107
図版 15 山元遺跡隣接遺跡可能性地	58	図版 40 莘田2遺跡	114
図版 16 山元遺跡隣接遺跡可能性地	59	図版 41 莘田2遺跡	115
図版 17 酒田市飛鳥遺跡可能性地 2	62	図版 42 莘田2遺跡	116
図版 18 酒田市飛鳥遺跡可能性地 2	63	図版 43 山形元里敷遺跡	118
図版 19 鶴岡市白山遺跡可能性地	65	図版 44 下反田2遺跡	120
図版 20 船止遺跡	66	図版 45 下反田2遺跡	121
図版 21 山形城三ノ丸	71	図版 46 下反田2遺跡	122
図版 22 三沢 b 遺跡	73	図版 47 下叶水遺跡	125
図版 23 山形城三ノ丸	75	図版 48 下叶水遺跡	126
図版 24 山形城三ノ丸	77	図版 49 下叶水遺跡	127
図版 25 西原遺跡	79	図版 50 高瀬山遺跡	128

附表目次

表-1 平成19年度分布調査遺跡一覧	2
表-2 平成19年度県内遺跡分布・試掘調査工程表	3
表-3 掘載遺跡位置図使用図幅一覧（2万5千分の1）	131

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的と方法

本調査は、平成 19 年度以降に予定されている開発計画に先行して、埋蔵文化財包蔵地の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格などの内容を明らかにして開発計画との調整を計りながら、遺跡の保護保全を目的としている。また、件数的には少ないながら、今年度までの調査結果に基づいて記録保存を目的とする小規模な発掘調査ないしは工事立会などの調査も併せて本事業の中で実施している。このように、遺跡詳細調査は、その目的や方法によって以下の四つに区分できる。

(1) A調査 現地確認調査・表面調査

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査 試掘調査

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握して開発計画との調整をとて遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査 記録保存のための発掘調査

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や開発事業にかかる面積が狭い場合や接する程度等の場合に必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準じている。

(4) 立会調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では毎年 5 ~ 6 月に開発関係機関に今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて 7 月上旬に聞き取りを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について打合せを行っている。そしてこの結果に基づいて必要に応じた分布調査を行い、事業との調整を図っている。その他、開発関係機関から提出された事業計画に基づく分布調査も隨時行っている。

平成 19 年度の調査は、表-1・2 に示した各遺跡の調査を平成 19 年 4 月から平成 20 年 3 月まで表-3 の工程で行うとともに、事業予定区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も併せて実施している。

なお平成 19 年度に県教育委員会が新たに発見した遺跡（平成 19 年度登録遺跡）範囲等を訂正した遺跡、登録を抹消した遺跡はIV章のまとめに示した。

II 調査の概要

1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	不明	未確認	新庄市昭和	不明	丘陵 (145m)	牧草地
2	散布地	後沢遺跡	金山町大字漆野字春木	縄文	段丘 (155m)	山林 荒地
3	散布地	杉の木山	天童市下山口字杉の木山	縄文	山麓 (135m)	山林 荒蕪地
4	城館跡	道地山館	鶴岡市大字道地	中世	山麓 (24m)	宅地 畑地
5	城館跡	長崎館	鶴岡市大字長崎	中世	平地 (9m)	宅地 畑地
6	集落跡	下大曾根	鮎川村大字石名坂字下大曾根	平安	平地 (58m)	水田
7	集落跡	蘿田2	鮎川村大字石名坂字蘿田	平安・中世	平地 (59m)	水田 町道
8	不明	未確認	鮎川村大字庭月	不明	平地 (50m)	水田 畑地
9	城館跡	桑郷南館	南陽市大字梨郷字館の壇り	中世	平地 (20m)	水田
10	集落跡	鷺畑新田	鶴岡市大字添川字鷺畑新田	弥生・奈良 平安	平地 (17m)	水田
11	散布地	小平4	酒田市大字一条字小平他	縄文・奈良 平安	山腹 (71m)	山林
12	散布地	丑ヶ沢	酒田市大字一条字丑ヶ沢	縄文	山腹 (66m)	山林
13	散布地	山岸	寒河江市寒河江長岡山	縄文	山頂 (140m)	宅地 畑地
14	散布地	自姓寺	新庄市本合海字自姓寺	縄文	段丘 (92m)	畑地 宅地
15	散布地	本合海上野	新庄市本合海字上野	日石器	段丘 (60m)	畑地 宅地
16	散布地	本合海上野2	新庄市本合海字上野	縄文	段丘 (65m)	畑地 樹園地
17	散布地	本合海地区可能性地1	新庄市本合海字上野	縄文	段丘 (63m)	畑地

(2) 県土木事業関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
18	不明	可能性地	上山市藤吾	不明	平地 (185m)	宅地 畑地
19	散布地	県道天童大江線 可能性地1	天童市大字小関	平安・中世	平地 (95m)	水田 道路
20	散布地	県道天童大江線 可能性地2	天童市大字小関	不明	平地 (94m)	水田 道路
21	散布地	蔵増宮田	天童市大字蔵増字宮田	古墳	平地 (92m)	水田 農道

遺跡概要	出土遺物	備考
調査地は鰐馬岡川右岸の標高221mの丘陵に位置する。一帯は山林・牧草地となっている。広い範囲で遺存されるため分布調査を実施したが遺構遺物は検出されなかった。	なし	
牧草地造成にあたり、事業予定地やその周辺を踏査した。中田泰木川と後沢川による何段丘縁辺で遺物散布を確認した。縄文時代の集落跡が存在する可能性がある。	なし	
原崎沼の西側山麓斜面に位置する。踏査したが遺物は採集されなかつた。用水路の改修工事のため、遺跡への影響は少ないと判断された。	なし	
茨新田の西側に連なる砂丘上に位置する。標高18m。『飯』地名が残され、伝承も伝わる。圓墳整備の事業区域外であることがわかつた。	なし	
長崎地区集落の南に陣跡とする部分が鉢跡として登録されている。江戸時代の記録に「鉢跡」という地名が残されている。伝承はなく、現況からも跡形は認められない。	なし	
鶴川左岸の低位段丘の縁辺、標高50mを測る。圓墳整備に伴なう確認調査による新規発見された。遺跡は東西100m南北200mの広がりを持つ。最北部分の立会調査を実施。	須恵器 土師器	平成19年度新規登録 平成19年度立会調査実施
鶴川左岸の低位段丘の縁辺、標高59mを測る。用水路部分の立会調査を実施。多数の柱穴とともに赤燒土器や須恵器、珠洲系陶器など出土した。	須恵器 土師器 珠洲系陶器	平成18年度登録 平成19年度立会調査実施 範囲変更
健川左岸の低位段丘上の一帯について、表面調査を実施した。一帯は庭園や観音の正面に広がる水田地帯で広い範囲を踏査したが遺跡は確認されなかつた。	なし	
越上川右岸、標高20mの平地に位置する。以前の圓墳整備により土塁や堤防は残されていない。地図図や航空写真より位置と範囲がわかつてゐる。	なし	範囲修正
道跡は別馬丘陵の西側の平地、標高17mに位置する。圓墳整備に伴なう試掘調査を実施した。弥生土器や須恵器・土師器が出土。遺跡は確認されなかつた。	弥生土器 須恵器 土師器	平成19年度新規登録
出羽丘陵の南端、標高71mの山腹に位置する。農道工事跡線に沿って試掘調査を実施し、小平4遺跡と証を挟んだ所から縄文時代の立会調査が出土した。	なし	平成15年山形県埋蔵文化財センター発掘調査実施
長岡山の南側鞍部に位置する。薬用植物園温室ハウスの解体工事での立会調査を実施した。盛土され、コンクリート基礎の引き抜きのみの影響はないと判断された。	なし	
本合海上野段丘の東端、標高92mに位置する。縄文時代の遺跡として登録されており、表面調査では土器片や石器片が採集された。事業区域外である。	縄文土器 石器片	
本合海上野段丘の東端、標高95mに位置する。旧石器時代の遺跡として登録されている。	なし	
段丘西側縁辺に広範囲に遺物が散布する。縄文時代の集落跡が存在するとみられる。事業区域に一部架かっている。	縄文土器 石器片	平成19年度新規登録
段丘北西側縁辺の狭い範囲に遺物が散布する。縄文時代の土器・石器が採集された。事業区域に一部架かっている。	縄文土器 石器片	

遺跡概要	出土遺物	備考
泉川と思川に挟まれた河谷低地にあたり、標高185mを測る。一帯は旧七ヶ宿朝倉に面した市街地で、周知の遺跡はない。可能性地はやや離れた場所で遺跡・宅地となっている。	なし	
天童市街地の西方2km、標高95mの平地に位置する。道路拡幅工事による表面調査を実施。須恵器、土師器、陶器などを採集した。	赤燒土器 陶磁器	
天童市街地の西方2km、標高94mの平地に位置する。水田入口部分から石器を採集した。盛土の可能性もある。試掘調査を実施している。	石器	
天童市街地の西方2km、標高97mの平地に位置する。耕転した水田面から土師器片を採集した。古墳時代の集落が存在する可能性がある。	土師器	平成19年度新規登録

22	散布地	五十沢公園	尾花沢市下五十沢	調文	段丘 (110m)	畠地 宅地
23	集落跡	山元	天童市大字山元字寄際	平安	平地 (115m)	畠地 樹園地
24	散布地	国道287号米沢北バイパス可能性地1	米沢市大字庭田町	中世	平地 (230m)	水田
25	散布地	国道287号米沢北バイパス可能性地2	米沢市大字庭田町	不明	平地 (227m)	水田
26	城館跡	井上館	川西町大字中小松	中世	平地 (222m)	宅地
27	散布地	潜清水b 他	米沢市大字口田沢字物見峠	調文	段丘 (290m)	道路 山林 畠地
28	集落跡	上新田B	米沢市大字上新田字上馬橋	平安	段丘 (230m)	水田 畠地
29	集落跡	中川原	米沢市大字上新田字中川原	奈良・平安	段丘 (225m)	水田 畠地
30	不明	県道酒田松山線可能性地2	酒田市大字飛鳥字泉興野	平安	平地 (8m)	水田
31	不明	県道湯田川大山線可能性地	鶴岡市大字白山	不明	平地 (15m)	水田
32	城館跡	鮎貝城	白鷹町大字鮎貝	中世	段丘 (195m)	寺社地
33	城館跡	天童古城	天童市北目	中世	山頂 (160m)	山林
34	集落跡	間木の内遺跡	尾花沢市大字鶴子字間木の内	調文	段丘 (280m)	畠地
35	城館跡	幡烟櫓	東根市大字猪野沢字幡烟	中世	段丘 (219m)	畠地 宅地
36	城館跡	堅苦沢館	鶴岡市堅苦沢字湖の上	中世	山頂 (108m)	山林
37	城館跡	由良館	鶴岡市由良字道田	中世	山頂 (48m)	山林
38	城館跡	十二館	鶴岡市堅苦沢字平畠	中世	山頂 (55m)	山林
39	集落跡	船止	酒田市大字漆曾根字船止	平安	平地 (3m)	水田 道路
40	集落跡	山形元屋敷	山形市片谷地字元屋敷	古墳・奈良 平安	平地 (120m)	水田
41	集落跡	高瀬山	寒河江市寒河江高瀬山	旧石器～ 中世	段丘 (113m)	荒蕪地 樹園地
42	城館跡	山形城三ノ丸	山形市春日町	近世	扇状地 (123m)	宅地

(3) 県教育庁関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
43	城館跡	亀ヶ崎城	酒田市亀ヶ崎	中世・近世	平地 (3m)	宅地

(4) 県企業局関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
44	城館跡	豊能館	朝日町大字宮宿字豊能館	中世	山頂 (89m)	公園

遺跡は葛川左岸の段丘上に立地する。道路拡幅工事に伴い、立会調査を実施した。遺構遺物の検出はなく、遺跡の範囲外と考えられる。	なし	
県道新築工事に伴い山元遺跡隣接地の試掘調査を実施した。平成18年度の試掘地点の南側の隣接地を調査したが遺構遺物は確認されなかった。	なし	
米沢南郷道米沢ICの北西300mの平地に位置する。水田面から陶磁器片や土師器片を探集した。古代・中世の遺跡が存在する可能性がある。試掘調査が必要である。	青磁 磁器	
米沢南郷道米沢ICの北1kmの平地に位置する。大吉瀬跡が近くに位置し、遺跡が広がっている可能性がある。試掘調査が必要である。	なし	大吉瀬跡
主要地方道高畠川西線の道路改良工事に伴い、遺跡との位置関係を調査した。路線が井上館の隣接地を通るため、試掘調査が必要である。	なし	
国道121号の歩道設置工事に伴い、現地確認を行なった。現道の東側に歩道を設置するもので盛土した箇面を利用しての工事であり、遺跡への影響はないと考えられる。	なし	
県道米沢浅川高畠線歩道設置工事に伴い、現地確認を行なった。箇面部分、宅地部分への設置であるため慎重工事での対応となる。	なし	
県道米沢浅川高畠線歩道設置工事に伴い、現地確認を行なった。狭い範囲ながら畑地があり遺構の存在が予想されるため、立会調査が必要となる。	なし	
平成18年度に試掘調査を実施した東興野1遺跡の西側に位置する。遺物が採集された地点を中心に試掘調査を実施した。遺構は確認されなかつた。	なし	
県道湯田川大山線整備事業に伴い踏査で土器片や石器類された地点について試掘調査を実施した。泥炭地帯になっており遺構遺物は検出されなかつた。	なし	
越上左岸の標高195mの段丘上に築かれ。土壇や水堀、虎口などが残されている。段丘崖が急傾斜のため、崩落対策工事が計画されている。最悪を保証した工法が求められる。	なし	中世城館一覧402-004
大畠の市街地の中央に位置する。崖面の砂防防止工事に伴い、南側斜面の工事予定箇所を調査した。表面で確認できる曲輪や平坦への影響はない判断した。	なし	中世城館一覧210-040
遺跡は升生川左岸の張り出した段丘上に立地する。突端部分の畠地から縄文土器や石器片が採集された。低い面の水田部分は畠地といわれているとみられる。	縄文土器 石器片	
猪野沢川左岸の段丘縁、標高219mのところに位置する。砂防事業により踏査した。現在、畠地や宅地となっており、橋の構造ははっきりとはわかっていない。	なし	中世城館一覧211-003
小野小学校南東の山崩に立地。砂防事業に伴い立会調査した。埋堤足地から断続的に検出する遺構・遺物は確認できなかつた。	なし	中世城館一覧203-064 立会調査
由良小学校の南側丘陵に位置する。急傾斜地崩落防止工事に伴い、北西側曲輪付近の工事の立会調査を実施した。遺構・遺物、敷地層などは認められなかつた。	なし	中世城館一覧203-040 立会調査
堅磐次の東、標高75mの十二体の山頂に位置する。砂防工事に伴い立会調査を実施した。傾斜の曲輪には影響はない判断された。	なし	中世城館一覧203-039 立会調査
新井田川の堰防壁、標高8mを衝て。新井田川河川改修に伴い、道路試験部分について試掘調査を実施した。遺構遺物は確認されなかつた。	磁器	
須川に架かる橋脚工事に伴い、基礎部分の立会調査を実施した。2ヶ所の調査区からは遺構は確認されなかつた。土師器片が採集されたが、流れ込みの可能性が高い。	なし	立会調査
総合公園整備に伴い、立会調査を数回にわたり実施した。広範囲にわたる調査により縄文時代から古代にかけての遺構遺物が多點検出された。	縄文土器 須恵器 土師器他	立会調査
県道東原村木沢線道路整備に伴い、試掘調査を実施した。3ノ丸の縄構と思われるラインが確認された。部分的に家庭の基礎コンクリートにより搅乱を受けている。	陶磁器類	中世城館一覧201-002

遺跡概要	出土遺物	備考
旧校舎の解体工事の立会調査を実施した。以前の工事により150cmほど削離されており、基礎コンクリートなどにより遺構は確認できなかつた。	なし	中世城館一覧204-008 立会調査

遺跡概要	出土遺物	備考
宮宿の豊慶神社に隣接する公園の水道管設工事に伴い立会調査を実施した。以前高校敷地だったこともあり、ゴミ捨て場や遺物基盤が検出された。遺構遺物は確認されなかつた。	なし	中世城館一覧323-015 立会調査

(5) 住宅公社関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
45	不明	山形ニュータウン可能性地19	山形市松原	不明	山頂 (215m)	山林 荒蕪地

(6) 山形警察関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
46	集落跡	三沢 b	米沢市三沢字白旗	縄文	段丘 (292m)	畑地 宅地

(7) 國土交通省関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
47	城館跡	山形城三ノ丸	山形市旅籠町	近世	扇状地 (137m)	宅地
48	城館跡	間沢館	西川町間沢字東 他	中世	段丘 (209m)	宅地 道路
49	城館跡	中山城	上山市中山	中世	山頂 (290m)	山林 荒蕪地 宅地
50	不明	未確認	高畠町大字深沼	不明	平地 (210m)	荒蕪地
51	不明	東北中央道 可能性地 1.2	大石田町大字今宿字小山	縄文 平安	台地 (90m)	荒蕪地
52	散布地	西原	尾花沢市大字尾花沢字西原	縄文	段丘 (80m)	畑地 山林
53	散布地	家の廻り	大石田町大字今宿字家廻	縄文	段丘 (85m)	畑地 山林
54	集落跡	下反田 2	山形市反田	古墳	段丘 (99m)	荒蕪地
55	不明	未確認	鶴岡市小岩川	不明	山間 (3~50m)	山林 畑地
56	不明	未確認	庄内町肝煎字丑の沢	不明	山間 (124m)	山林 畑地
57	不明	未確認	小国町 新原	不明	山間 (172m)	山林 畑地
58	集落跡	下叶水	小国町大字叶水字下叶水	縄文	段丘 (260m)	荒蕪地

(8) 農林水産省関係

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
59	集落跡	水産	米沢市三沢字曰ヶ森	縄文	段丘 (382m)	荒蕪地
47	城館跡	天神前中館	米沢市大字藤泉字天神前	中世	平地 (233m)	水田
48	城館跡	渡北館	米沢市大字藤泉字渡北	中世	平地 (232m)	水田
49	城館跡	東江股堀の内館	米沢市大字東江股字堀の内	中世	平地 (233m)	水田

遺跡概要	出土遺物	備考
山形みはらしの丘ニュータウン計画地のほぼ中央に位置する小丘陵上に4ヶ所の試掘トレンチを設定し、調査したが遺構遺物は確認されなかった。	なし	

遺跡概要	出土遺物	備考
開根駐在所新築工事に伴い、建設予定地の試掘調査を実施した。8ヶ所の試掘坑により調査したが遺構遺物は確認されなかった。	土器片	

遺跡概要	出土遺物	備考
国道112号西城改良による道路拡幅工事に伴い、三ノ丸の測量ラインの内側部分の試掘調査を実施した。基礎コンクリートにより埋没を受けていたが、古代から中世の遺構遺物が検出された。	須恵器 土器類 陶磁器	中世城館一覧201-002
国道112号間沢地区の歩道拡幅工事に伴い工事予定期の現状踏査と立会調査を実施した。大半が宅地となっており、地表面下は復元された状況を示した。	なし	中世城館一覧322-010
中世からの山城である中山城の北東麓に設置した排水施設設置部分について立会調査を行った。施工予定期の土表を削下げ、遺構・遺物の確認を行ったが、何ら確認できなかった。		平成17・18年山形県埋蔵文化財センター発掘調査実績
米沢南陽道路高畠IC予定期への盛土工事に伴い、予定期箇所にて試掘調査を実施した。3ヶ所のトレンチからはいずれも遺構遺物は検出されず、遺跡は確認されなかった。	なし	立会調査
東北中央道建設に伴い試掘調査を実施した。蘿気川左岸の丘陵部に位置する。風倒木痕が確認されたが、遺構遺物は検出されなかつた。	石器片 須恵器	
東北中央道建設に伴い試掘調査を実施した。時期不明な土表が敷き廻されたが遺物は表土で採集された石器片のみであった。	石器片	平成11年度登録
東北中央道建設に伴い試掘調査を実施した。五十沢川右岸の段丘上に位置する。以前の耕地整備により大半が削平されていた。段丘突破部からおとし穴が検出された。	縄文土器 石器片	平成11年度登録
須賀川工事に伴い掘削される部分について立会調査を実施した。護岸工事箇所の地点から不明瞭ながら古墳時代の堅穴住跡が検出された。	土師器	立会調査
日本海沿岸東北自動車道建設に伴う小岩川地区表面調査を実施した。国道7号までの接続部分を踏査したが遺跡は確認されなかつた。	なし	
糸ノ沢砂防ダムに伴う遺跡所在有無の現地確認を行なった。ダムと工事道路予定期は両川の氾濫原であり、遺跡が存在する可能性は無いと判断された。	なし	
荒川支流の洪川新原砂防堰堤工事の予定期域を踏査した。沢の氾濫原にあたり遺跡が存在する可能性はほとんどないと判断された。	なし	
道路脇のコンクリート壁の撤去に伴い立会調査を実施した。壁に沿った調査区から縄文時代後期の住居跡や土器とともに土器や石器が検出された。	縄文土器 石器類	立会調査

遺跡概要	出土遺物	備考
水路ダムの東側縁に位置する。土取り工事に伴い塗跡縁辺部の試掘を実施した。遺物の散布が認められたが、遺構遺物は検出されなかつた。より東側に塗跡が位置すると見られる。	縄文土器 石器片	
送水路工事に伴い現地確認を行なった。現在、水田となっており、館跡は確認できない。館跡に近接するところもあるが、なしだ。	なし	米沢市遺跡地図(1-463)
米沢市衛地の北方約3km、標高230mの平地に立地する。送水路部分の立会調査を実施した。館跡の主体は調査区域の南側にあり、遺跡のエリア外と考えられる。	なし	米沢市遺跡地図(1-461) 立会調査
送水路工事に伴い現地確認を行なった。館跡に近接するところもあるため、慎重工事を指示した。	なし	米沢市遺跡地図(1-453)



後沢遺跡



春木 牧草地予定地試掘調査風景 N ~



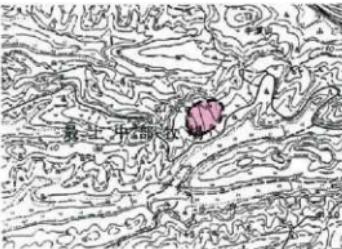
春木 後草地予定地試掘トレンチ E ~



後沢遺跡近景



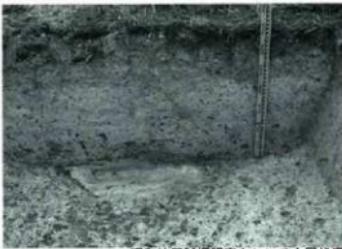
後沢遺跡採集土器



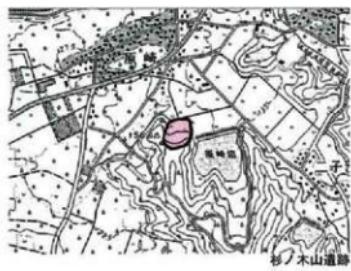
工コ昭和地区 B 調査対象地区



昭和地区試掘調査状況 S ~



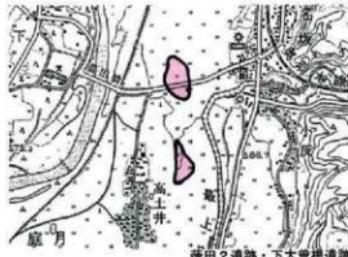
昭和地区試掘調査トレンチ土層状況



杉ノ木山道路 A 調査



西郷北部は場空地地区 A 調査 N~



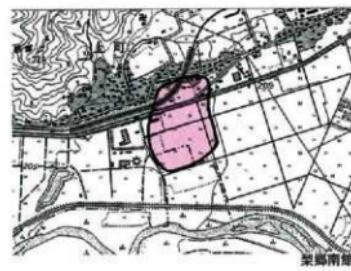
篠田 2 道路・下大曾根遺跡



篠田 2 道路打合せ状況 N~



鶴川左岸地区 II 期地区近景 N~



柴野南端



梨郷南端近景 S~



蒼畠新田道跡



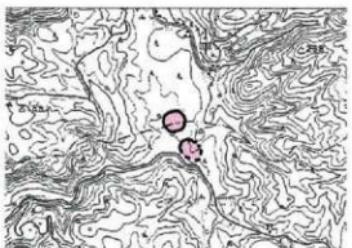
蒼畠地区分布調査打合せ状況



蒼畠新田道跡近景 N ~



蒼畠新田道跡探査遺物



小平4道跡・丑ヶ沢道跡



小平4道跡現地打合せ状況 N ~



山岸道跡



山岸道跡立会い調査風景 N ~



本合海上野2遺跡



本合海上野2遺跡遠景 NE ~



本合海上野2遺跡採集遺物



本合海地区遺跡可能性地近景 S ~



本合海地区遺跡可能性地採集遺物



小間可能性地 1



小間可能性地 1 近景 SE ~



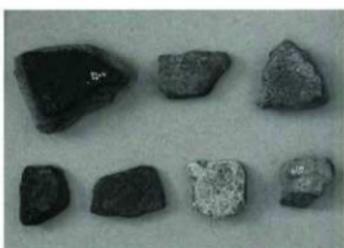
小間可能性地 1 採集遺物



小間可能性地2出土遺物



蔵増宮田遺跡近景 N~



蔵増宮田遺跡採集遺物



五十沢公園遺跡



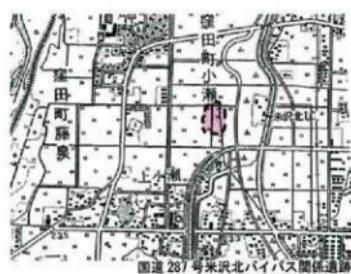
五十沢公園遺跡近景 N~



山元遺跡隣接地遺跡可能性地



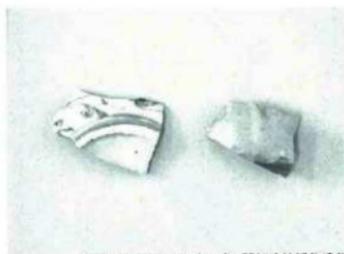
山元遺跡隣接地遺跡可能性地 N~



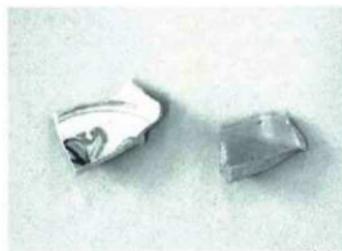
国道 287 号米沢北バイパス関係遺跡



国道 287 号米沢北バイパス関係遺跡近景 N~



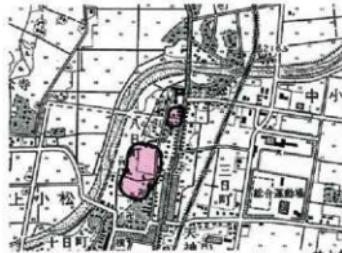
国道 287 号米沢北バイパス関係遺跡採集遺物



同左内面



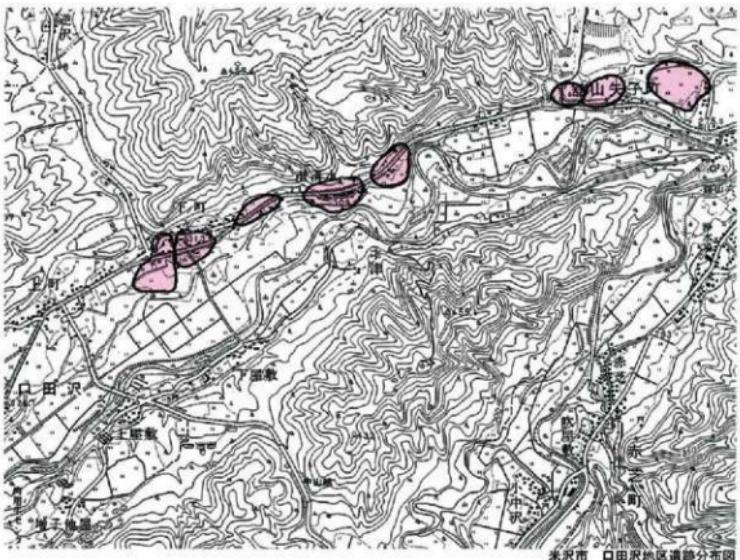
国道 287 号森バイパス関係遺跡近景 N~



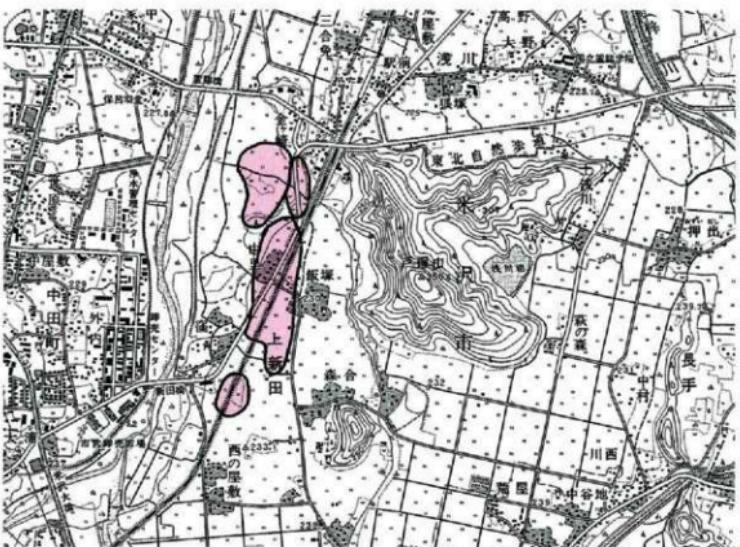
井上館近景 E~



口田沢遺跡近景 N~



米沢市 口田沢地区道路分布図



米沢市 戸塙山地区(上新田b遺跡他)遺跡分布図



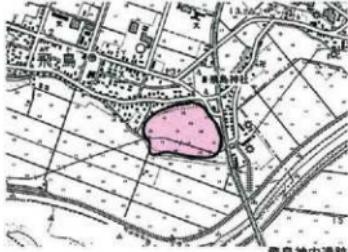
上新田 b 遺跡近景 W~



飛鳥バイパス関係遺跡可能性地 2



飛鳥バイパス古跡跡打合せ状況



飛鳥神内遺跡



飛鳥神内遺跡近景 SW~



飛鳥神内遺跡採集遺物



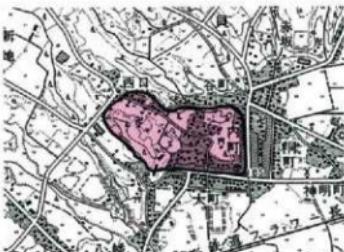
湯田川大山線関係白山林可能性地



湯田川大山線関係白山林可能性地近景 E~



助作道跡現地確認 S ~



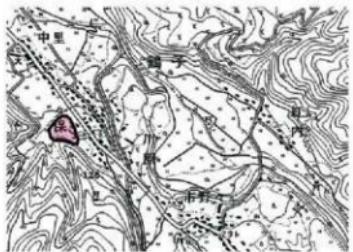
鶴貝城急傾斜地確認 S ~



鶴貝城本丸堀跡確認 E ~



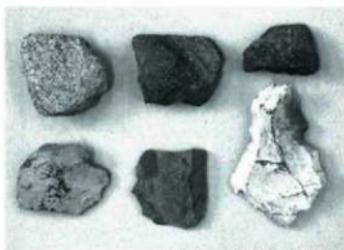
天竜古城近景 S ~



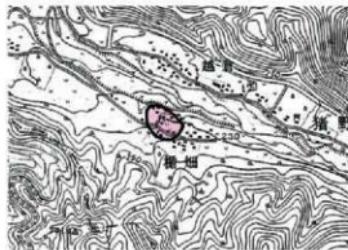
鶴子 間木の内遺跡



鶴子 間木の内遺跡遠景 N ~



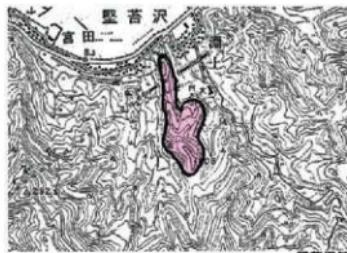
鶴子 間木の内遺跡採集遺物



黒川遺跡



黒川遺跡近景 N~



黒川沢遺跡



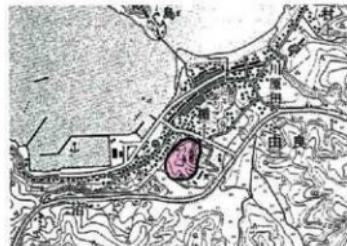
黒川沢遺跡工事立会い状況 E~



黒川沢遺跡確認トレンチ N~



由良遺跡近景 NW~



由良遺跡



由良館確認状況 NW ~



広野ポンプ場予定地踏査状況 EN ~



船止遺跡試掘確認地点 S ~



最上地区砂防関係遺跡踏査状況 SW ~



最上地区砂防関係遺跡踏査状況 S ~



亀ヶ崎跡



亀ヶ崎跡工事立会い状況 E ~



遺跡地名表 位置図・図版 1 2 (県企業局他県警遺跡)



山形城三の丸（旅篭町周辺）



山形城三の丸（旅篭町周辺）調査地点近景 E～



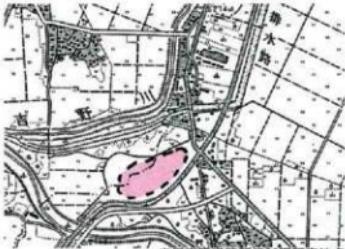
山形城三の丸（春日町周辺）



山形城三の丸（春日町周辺）調査状況 II～



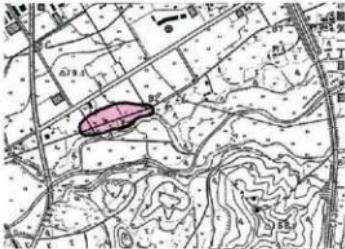
山形城三の丸（春日町周辺）調査トレンチ E～



米沢南陽道路関係試掘調査地点



米沢南陽道路関係試掘調査地点近景 S～



西原遺跡・可能性地 12



西原道跡近景 S ~



家の通り道跡



家の通り道跡打合せ状況



日本海沿岸東北自動車道関係小岩川地区分布調査



小岩川地区分布調査対象地点 E ~



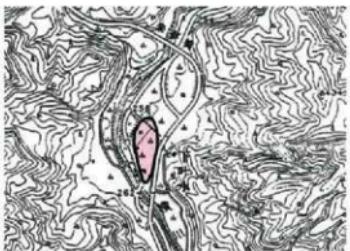
小岩川地区分布調査対象地点 SW ~



小国町砂防ダム関係道路分布調査対象地 EH ~



丑ノ沢地区砂防ダム関係道路分布調査対象地 II ~



下叶水道跡



下叶水道跡工事立会い地点近景 S～



間沢隧道



間沢隧道工事立会い状況 E～



間沢隧道工事立会い状況 E～



渡北隧道



渡北隧道工事立会い状況 E～



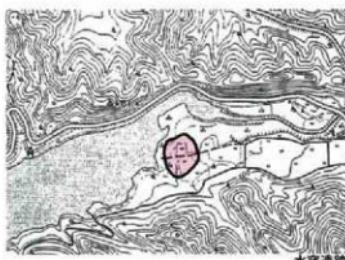
渡北隧道工事立会いトレンチ II～



灌田送水路工事予定地近景 S~



沼尻放水路改修予定地近景 S~



水庫道路



水庫道路近景 SW~



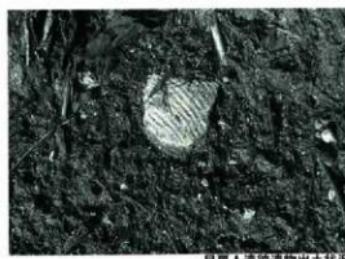
早房 A 遺跡



早房 A 遺跡近景 NW~



早房 A 遺跡近景 SE~



早房 A 遺跡遺物出土状況

2 試掘調査の概要

(1) 植ノ山2遺跡 (平成15年登録)

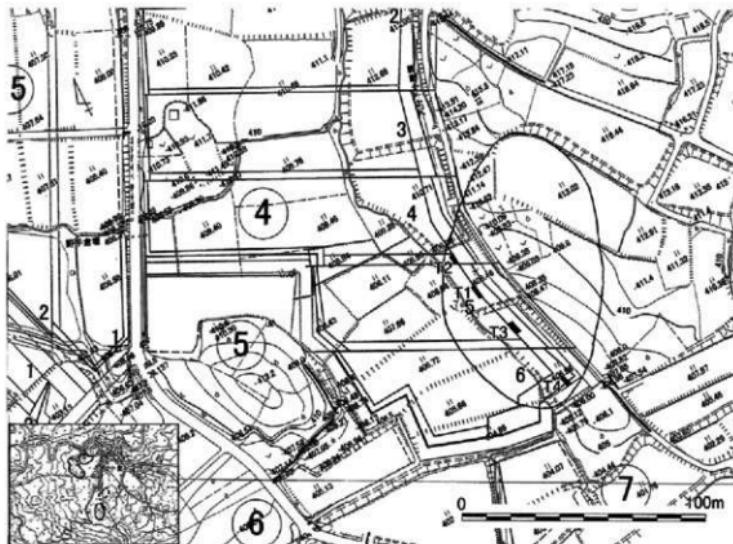
所 在 地 上山市小倉
調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一
調 査 期 日 平成19年 10月23日 24日
起 因 事 業 農地環境整備事業（小倉地区）
遺 跡 環 境 標高415mの藏王山西腹に位置し、緩やかな傾斜平坦地となっており、水田・畑地が広がる。火山性の転石が多数存在している。
試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ5ヶ所を設定。
試 掘 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 掘 面 積 85.5 m²
検 出 遺 構 時期不明のピット
出 土 遺 物 なし
所 見 旧小倉分校の南側水田を調査対象とした。T9とT10の北側から土色の変化とピット状の落ち込みを確認したが、稲杭や礫痕跡と見られた。いずれのトレンチからも遺物の出土はない。しかし、分校西の斜面畑地からは縄文時代の遺物が採集されており、今回は除外地となった丘陵の高まり部分が遺跡の主体と考えられる。



第1図 植ノ山2遺跡調査板要図

(2) 植ノ山3遺跡 (平成15年登録)

所 在 地 上山市小倉
調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一
調 査 期 日 平成19年10月23日 24日
起 因 事 業 農地環境整備事業（小倉地区）
遺 跡 環 境 標高415mの藏王山西腹に位置し、緩やかな傾斜平坦地となっており、水田・畑地が広がる。火山性の転石が多数存在している。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所を設定。
試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を実施。
試 挖 面 積 27 m²
所 見 遺跡範囲と推定した中でも、東側の畑地や樹園地から遺物が採集されていた。今回は西側の水田を対象として調査を実施している。T1～T4のいずれのトレンチでも以前の造成工事による切土・盛土の状況が窺え、大規模に削平された部分が見受けられた。遺構・遺物の発見はない。また、現地表面下30cm前後から巨礫が多数出土し、さらにその下には灰色粘質シルト層が続く。従って、この部分は、以前の造成で破壊されたか、遺跡の範囲外と考えられる。



第2図 植ノ山3遺跡調査概要図

(3) 植ノ山遺跡可能性地

所在地 上山市小倉

調査員 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年10月23日・24日

起因事業 農地環境整備事業（小倉地区）

遺跡環境 標高415mの藏王山西腹に位置し、緩やかな傾斜平坦地に水田・畑地が広がっている。所々に火山性の転石が見られる。

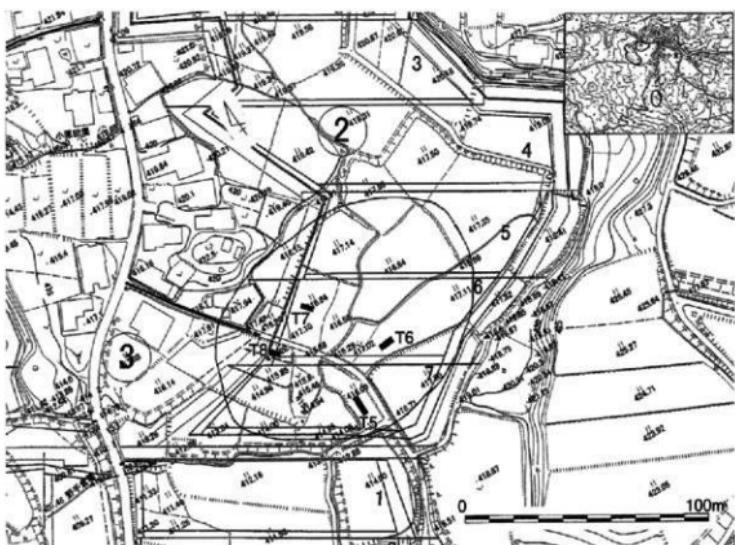
試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ4ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

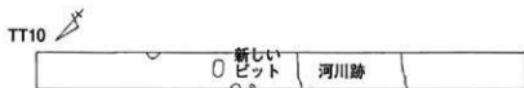
試掘面積 33 m²

遺構遺物 なし。

所見 可能性地範囲の中央で遺物を探集しているため、周辺に4箇所の試掘トレンチを入れて遺構・遺物の確認を行った。調査区域は大きな沢の鞍部に当っていることから、埋積する土層が厚いと予測された。予想通りT6・T7では、黒色の泥炭質土壤が厚く堆積している状況が窺われ、下部には未分解の泥炭層が確かめられた。T8では、地山までが浅く、ここでは多数の巨礫が検出された。遺構・遺物の検出はない。



第3図 植ノ山遺跡可能性地調査概要図



第4図 植ノ山遺跡可能性地調査平面図



植ノ山可能性地 TT9 N ~



植ノ山可能性地 TT10 S ~

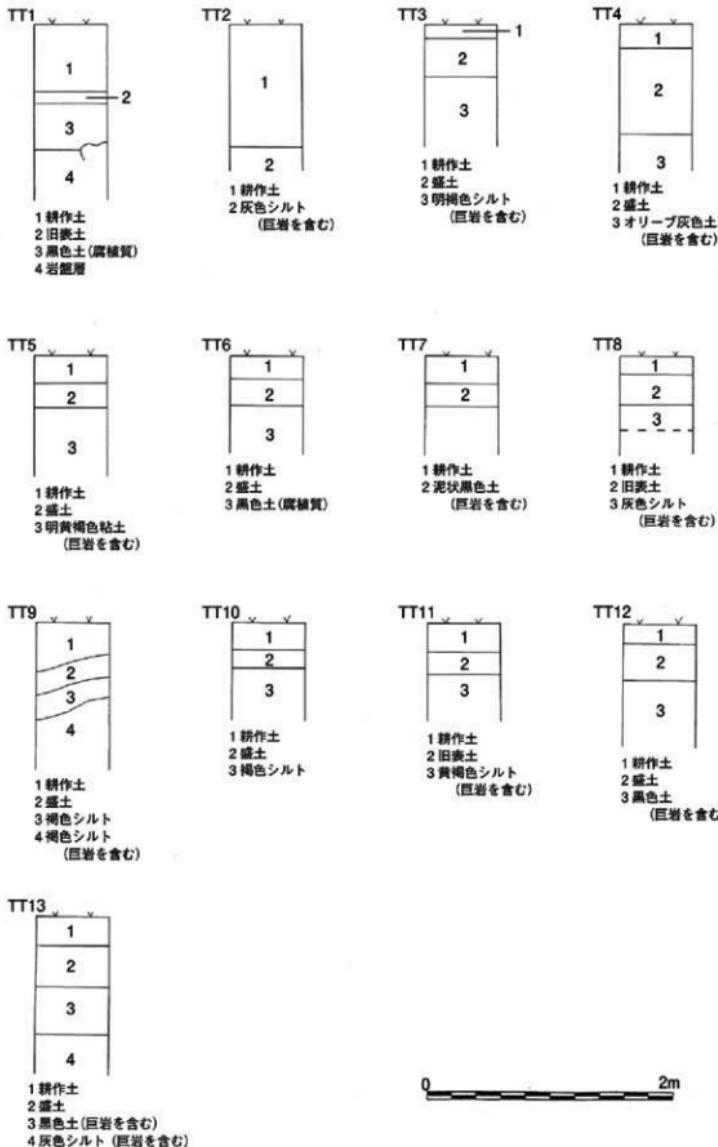


植ノ山可能性地 TT9 断面 N ~



植ノ山可能性地 TT11 N ~

図版1 植ノ山遺跡可能性地



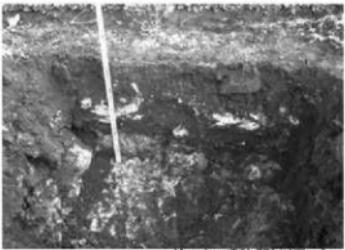
第5図 植ノ山遺跡可能性地調査断面図



植ノ山3遺跡近景 S～



植ノ山3遺跡試掘状況 N～



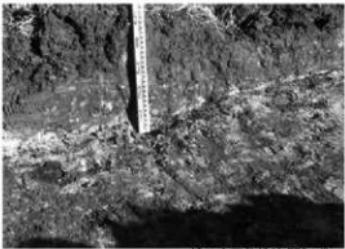
植ノ山3遺跡 TT2 断面 S～



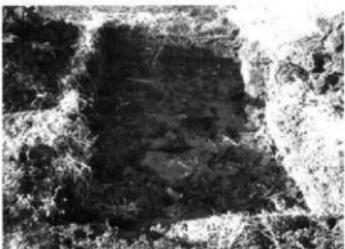
植ノ山3遺跡 TT3 断面 S～



植ノ山可能性地試掘状況 E～



植ノ山可能性地 T18 W～



植ノ山可能性地 T15 S～

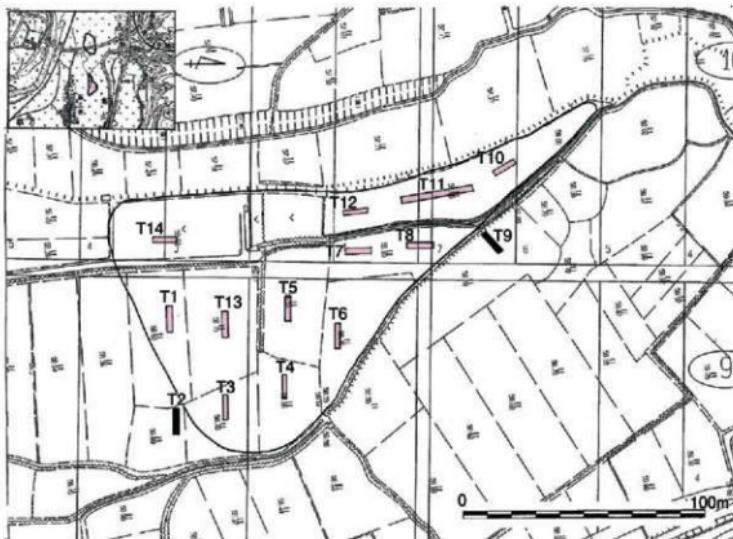


植ノ山可能性地 T15 拡大 S～

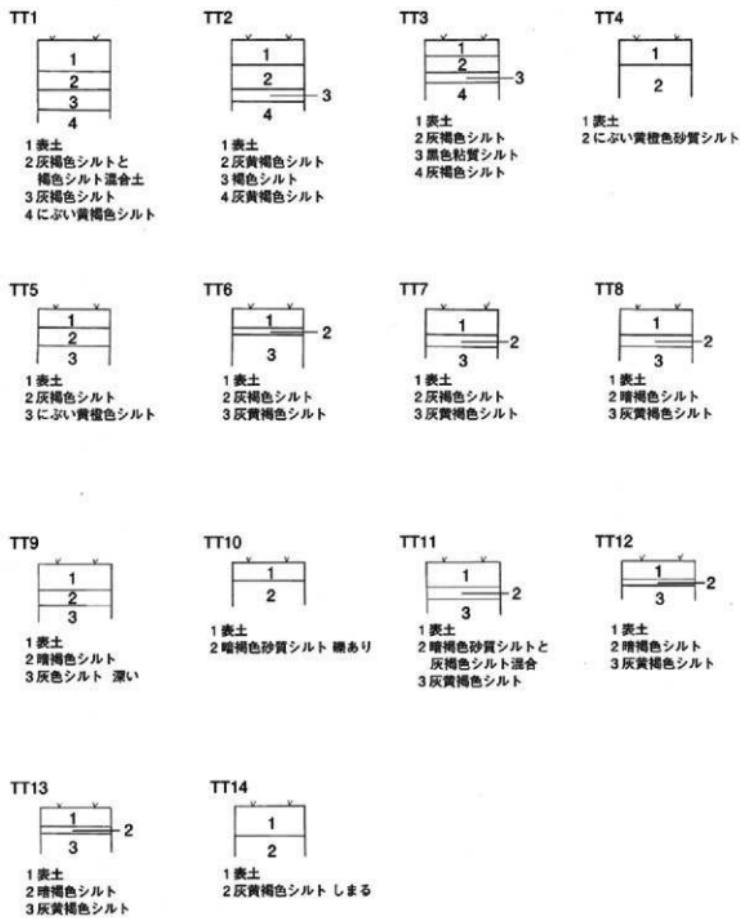
図版2 植ノ山3遺跡 植ノ山遺跡可能性地

(4) 下大曾根遺跡 (平成 19 年度新規登録)

所 在 地 鮎川村大字石名坂字下大曾根
調 査 員 阿部明彦 石井浩幸
調 査 期 日 平成 19 年 6 月 6 日
起 因 事 業 経営体育成基整備事業（鮎川左岸地区）
遺 蹤 環 境 鮎川と内川による河間の微高地。鮎川による河岸段丘となっている。標高 58m。地目は水田・畑地となっている。西側に旧河道が明瞭に残る。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ 14 ヶ所を設定した。
試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 挖 面 積 160 m²
検 出 遺 構 T 5 ~ T 14 で柱穴・土壤を検出。
出 土 遺 物 須恵器の壺・壺・壺の破片、赤焼土器坏片、内黒土師器の坏片
時 代 平安時代（10 世紀）
所 見 調査トレンチの大半から遺構と遺物が検出された。過去の造成工事により地山面の状況は均一でない。西側は段丘崖となる。遺跡は出土土器類から平安時代が主体で、集落跡と想定される。規模は東西 100m、南北 200m ほどの広がりが推定できる。



第 6 図 下大曾根遺跡調査概要図



0 2m

第7図 下大曾根遺跡調査断面図



下大曾根遺跡近景 E ~



下大曾根遺跡近景 S ~

図版3 下大曾根遺跡



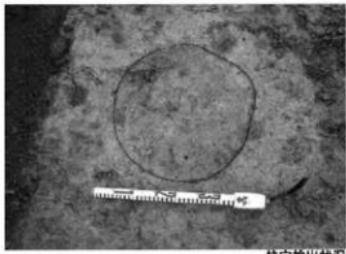
下大曾根遺跡試掘風景 EN ~



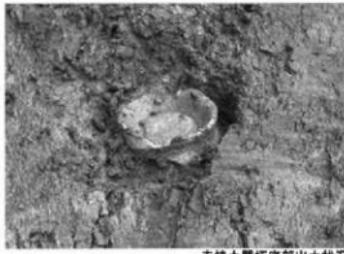
土層堆積狀況



TT 8 土壤核出狀況



柱穴檢出狀況



赤燒土器底出土狀況

圖版 4 下大曾根遺跡

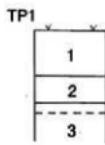
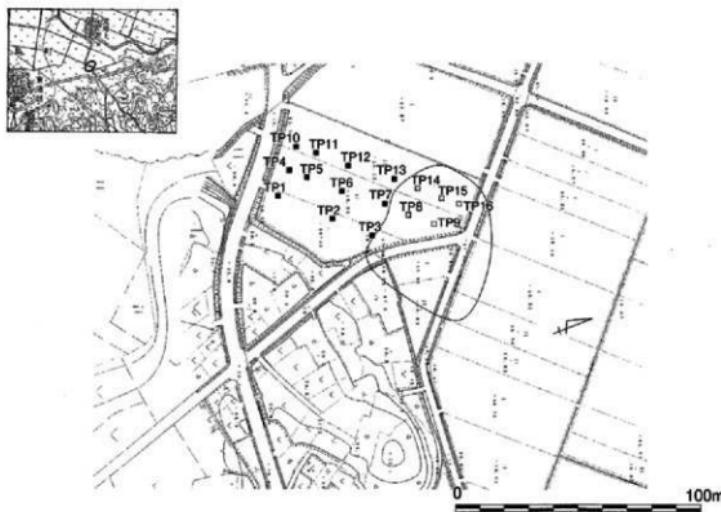
(5) 鶯畑新田遺跡（平成 19 年度新規登録）

所 在 地 鶴岡市大字添川字鶯畑新田
調 査 員 阿部明彦 石井浩幸
調 査 期 日 平成 19 年 10 月 12 日
起 因 事 業 経営体育成基整備事業（鶯畑地区）
遺 跡 環 境 遺跡は山麓の平地に位置し標高 16m を測る。西側に京田川が北に向かって流れ、西向きの緩やかに傾斜する平坦地に立地している。
・ 試 挖 区 事業予定地内に試掘ビット 16 ヶ所を設定。
試 挖 方 法 人力で試掘調査を行った。
試 挖 面 積 16 m²
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 須恵器片、土師器片、弥生土器。
時 代 弥生時代、奈良・平安時代
所 見 調査地区一帯は以前の圃場整備により、切土・盛土が行われており、高い部分は地山の粘土層まで切られる状況が確認された。遺物は、北側の農道周辺から限定的に出土している。なお、南側は泥炭層が分布しており、湿地帯の状況を示していた。

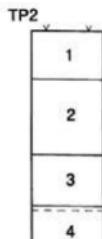


鶯畑新田遺跡近景と鶯畑古墳 NW ~

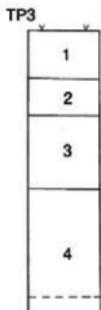
図版 5 鶯畑新田遺跡



1 10YR3/4 喀褐色土 表土
2 10YR2/3 黑褐色腐植土
3 10YR6/8 明褐色粘質土



1 10YR3/4 喀褐色土 表土
2 10YR2/3 黑褐色腐植土
3 10YR2/1 泥炭
4 10YR6/1 暗灰色粘質シルト

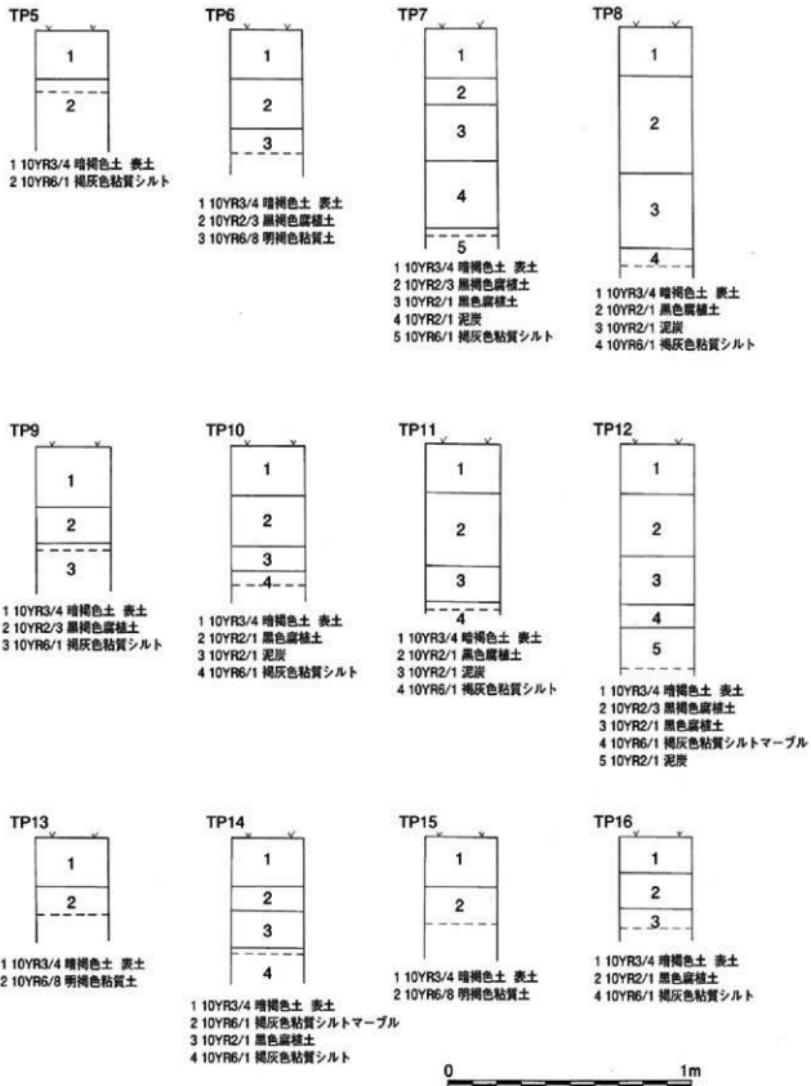


1 10YR3/4 喀褐色土 表土
2 10YR2/3 黑褐色腐植土
3 10YR2/1 黑色腐植土
4 10YR2/1 泥炭
5 10YR6/1 暗灰色粘質シルト

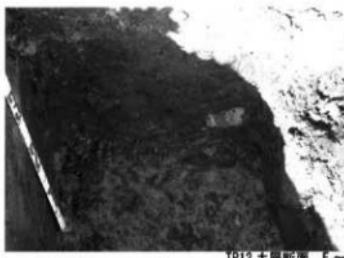
1 10YR3/4 喀褐色土 表土
2 10YR2/3 黑褐色腐植土
3 10YR2/1 黑色腐植土
4 10YR2/1 泥炭

0 1m

第8図 蜂須新田遺跡調査概要図・断面図



第9図 蘭畠新田遺跡調査断面図



出土弥生土器（天王山式）



出土土師器・赤燒土器



出土須恵器



出土須恵器蓋

(6) 新町遺跡 (平成 18 年度新規登録)

所 在 地 長井市九野本

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 10 月 31 日 11 月 1 日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業 (下九野本地区)

遺 蹤 環 境 最上川左岸の平坦部に位置する。標高 212m。東向きに緩やかに傾斜する平坦地で水田が広がる。

試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ 3ヶ所を設定した。

試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。

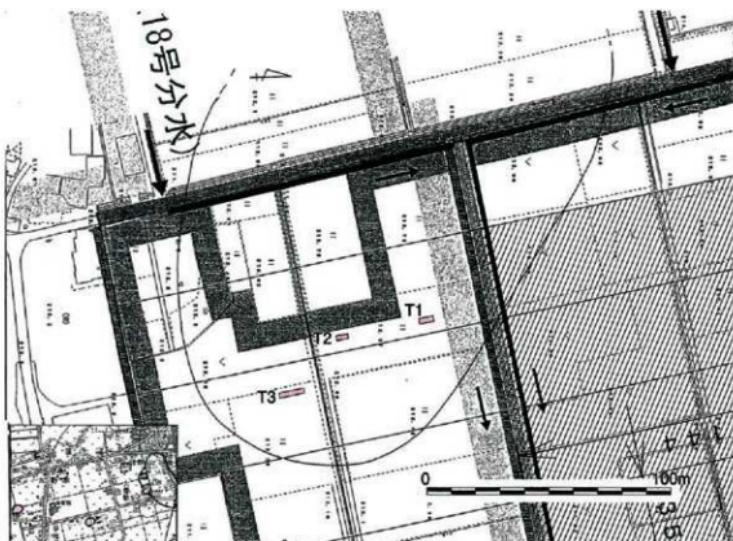
試 挖 面 積 24 m²

検 出 遺 槽 柱穴跡 (時期不明)

出 土 遺 物 縄文土器片、石器片

時 代 縄文時代後期

所 見 T1・T2より縄文土器・石器片が出土した。また時期不明のピットも確認している。T3では小さいピットが検出された。土器は後期から晩期のものとみられるが、いずれも小片である。なお、新橋遺跡の西隣には周知の登の越遺跡がある。



第 10 図 新町遺跡調査概要図

(7) 南台遺跡（長井市遺跡台帳）

所 在 地 長井市九野本

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 11 月 1 日

起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業（長井市九野本地地区）

遺 蹤 環 境 最上川左岸の平坦部に位置する。標高 212m。東向きに緩やかに傾斜する平坦地で水田が広がる。

試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ 1ヶ所を設定した。

試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。

試 挖 面 積 12 m²

検 出 遺 構 時期不明のピット 1基

出 土 遺 物 なし

時 代 不明

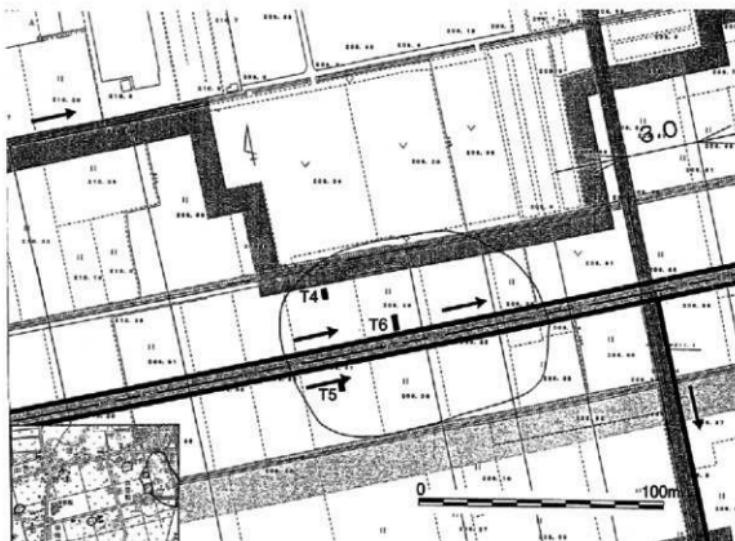
所 見 T11 から時期不明のピットが検出された。他のトレンチからは遺構・遺物の検出はない。東側 30mほど離れた市道改良工事に伴う市教委による調査では縄文時代と古代の住居跡が検出されている。



第 11 図 南台遺跡調査概要図

(8) 下九野本地区遺跡可能性地 2

所 在 地 長井市下九野本
調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一
調 査 期 日 平成 19 年 10 月 31 日
起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業（長井市九野本地区）
遺 跡 環 境 最上川左岸の平坦部に位置する。標高 212m。東向きに緩やかに傾斜する平坦地で水田が広がる。
試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ 3ヶ所を設定。
試 掘 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 掘 面 積 13.2 m²
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 なし
時 代 不明
所 見 遺跡可能性地範囲の中央で遺物（陶磁器）を採集したことから、南側の事業予定地内に試掘トレンチを入れて遺構・遺物の確認を行った。いずれのトレンチも厚さ 50cm 以上に及ぶ泥炭層が見られ、下層の粘質シルトからは著しい湧水があった。



第 12 図 下九野本地区遺跡可能性地 2 調査概要図

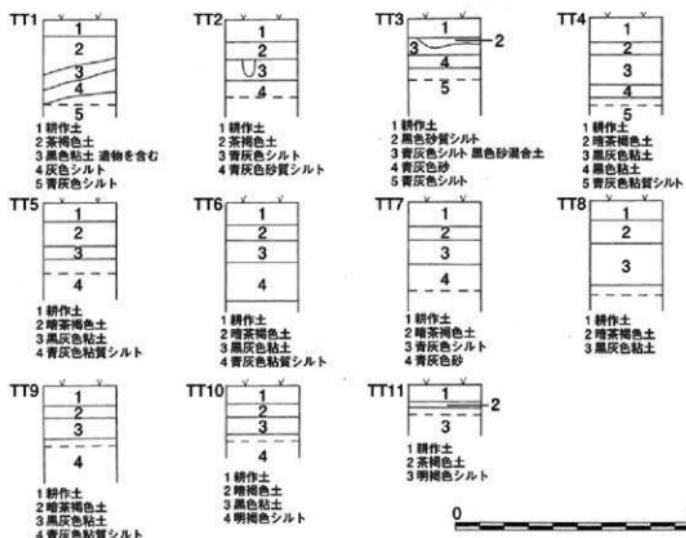
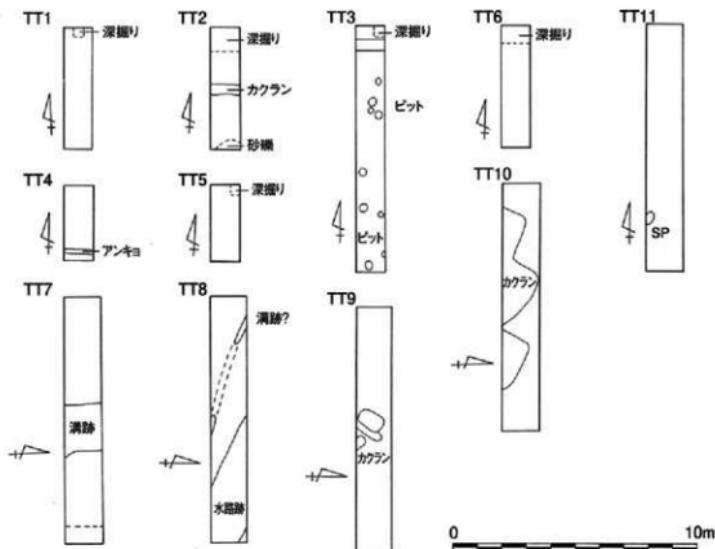
(9) 下九野本地区遺跡可能性地 3

所 在 地 長井市九野本
調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一
調 査 期 日 平成 19 年 11 月 1 日
起 因 事 業 経営体育成基盤整備事業（九野本地区）
遺 跡 環 境 最上川左岸の平坦部に位置し、標高 212m である。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ 4ヶ所を設定した。
試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 挖 面 積 36 m²
検 出 遺 構 溝跡
出 土 遺 物 なし
時 代 不明
所 見 中世の屋敷跡（館跡）の可能性があるため、水田の割に沿って 4箇所のトレンチを入れたところ T7 から 幅 1.5m ほどの溝跡を検出した。T8～T10 では遺構・遺物共に認めなかった。調査対象地は字名が「館野」であり、付近には北側に「館の内」、「東館野」などの「館」が付く地名が残る。現在の小間家の屋敷周りが館跡と考えられる。



可能性地 3 近景 ES ~

図版 7 下九野本地区遺跡可能性地 3



第13図 下九野本地区遺跡可能性地3調査平面図・断面図



新町遺跡近景 N~



南台遺跡近景 E~

図版8 新町遺跡、南台遺跡



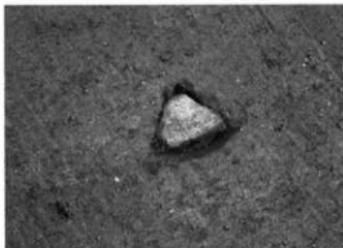
新橋遺跡近景 N ~



新橋遺跡調査状況



T 3 近景 ES ~



T 3 内土器出土状況



可能性地 2 土層断面



試走調査の現地打合せ状況



遠藤屋敷遺跡検出ピット



遠藤屋敷遺跡 III W ~

図版 9 新橋遺跡、可能性地 2 遠藤屋敷遺跡



下九野本可能性地2近景 E~



下九野本可能性地2 TT 2 N~



下九野本可能性地2 TT 1 N~



下九野本可能性地3 TT 7 溝跡換出状況 N~



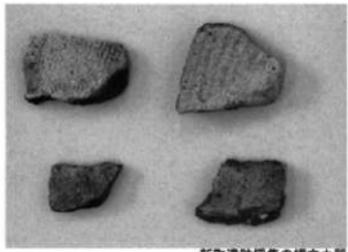
下九野本可能性地3 TT 7 溝跡断面 S~



下九野本可能性地3 TT 9 換出遺構 E~



下九野本可能性地3 TT 9 断面 E~

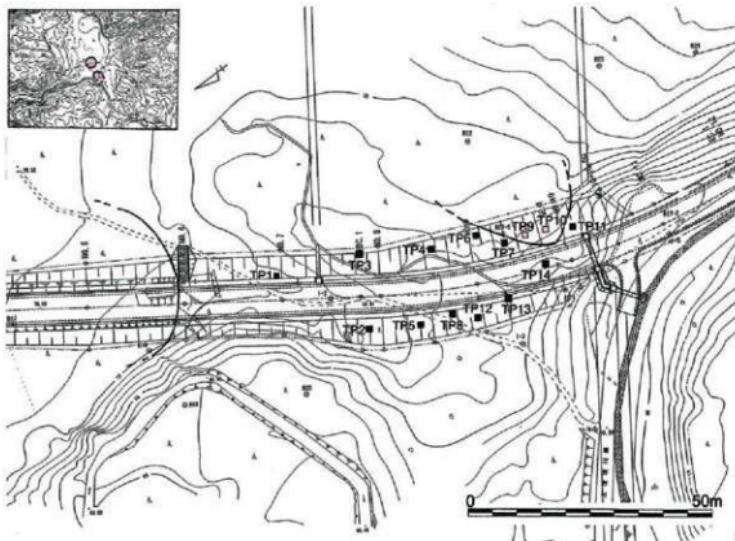


新町遺跡採集の縄文土器

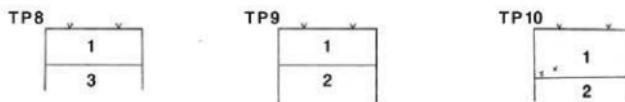
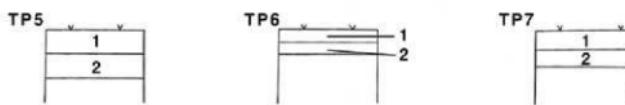
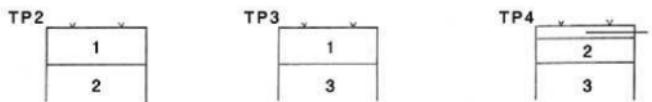
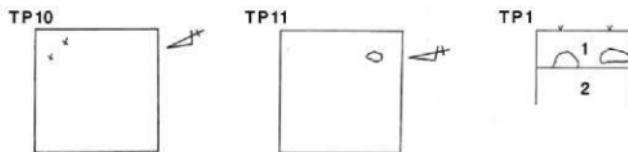
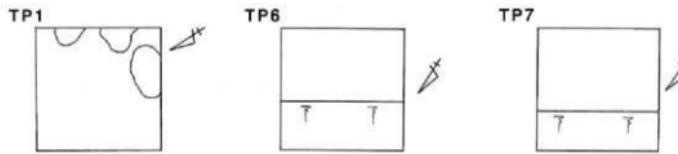
図版10 下九野本可能性地2 下九野本可能性地3 新田遺跡

(10) 小平4遺跡（平成14年度登録）

所在 地 酒田市市条字小平
調査員 阿部明彦 石井浩幸
調査期日 平成19年6月26日
起因事業 広域農道整備事業（鮑海中央地区）
遺跡環境 遺跡は標高71mの山腹に位置し、台地状に張出した平坦地となっている。
試掘区 事業予定地内に試掘ピット14ヶ所を設定。
試掘方法 重機+人力で試掘調査を行った。
試掘面積 14 m²
検出遺構 なし
出土遺物 繩文土器
時代 繩文時代（中期）
所見 14ヶ所の試掘坑のうちTP9、TP10の2ヶ所から縄文時代の遺物が出土した。試掘の状況や地形的な広がりから小平4遺跡は南西の尾根方向には伸びていないことがわかった。また沢を挟んだ別地点から縄文時代の土器片が出土したことから新たなる遺跡（丑ノ沢遺跡）が存在すると判明した。



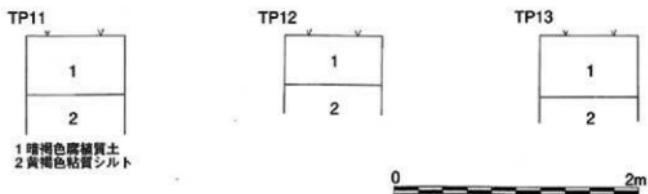
第14図 小平4遺跡調査概要図



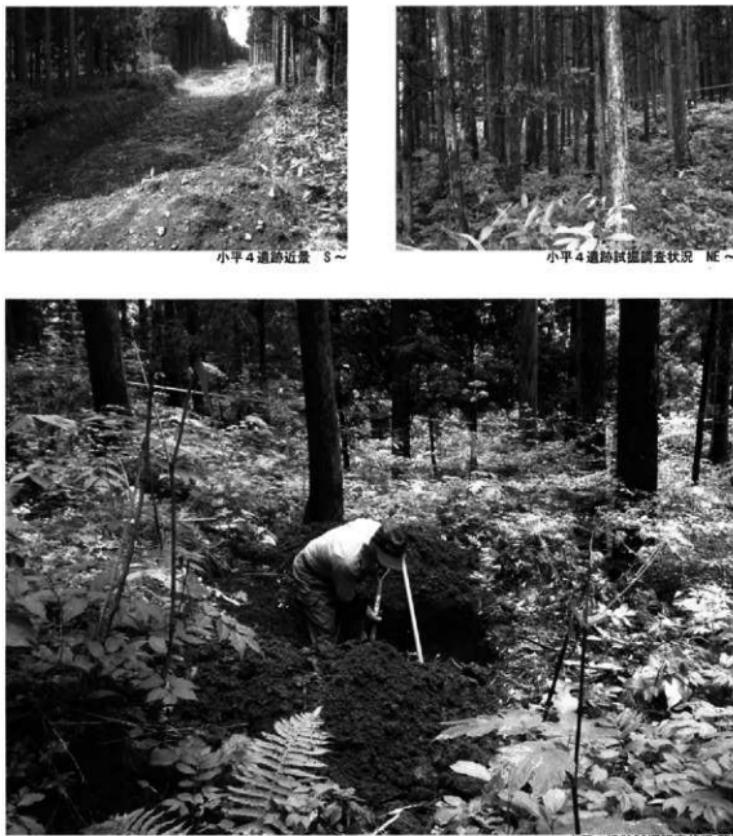
1 噴褐色腐植質土
2 黄褐色粘質シルト
3 棕色シルト



第15図 小平遺跡調査平面図・断面図



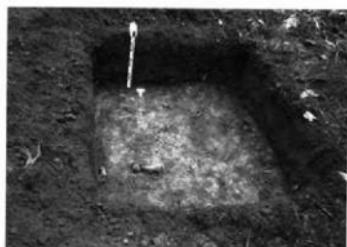
第16図 小平4遺跡調査断面図



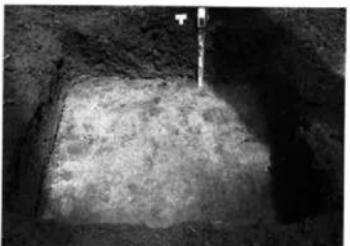
図版11 小平4遺跡



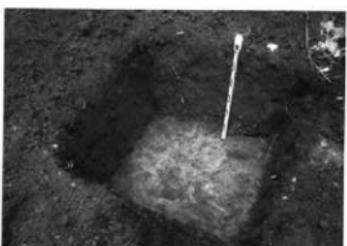
小平 4 遺跡 TP3



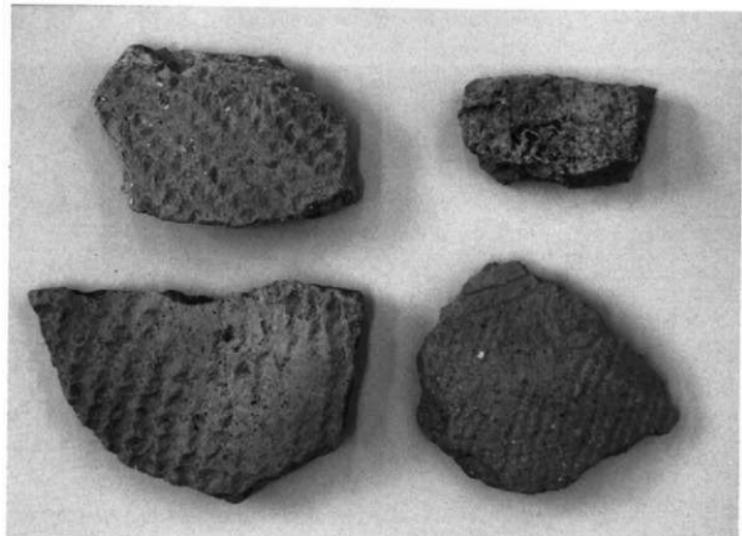
小平 4 遺跡 TP9



小平 4 遺跡 TP6



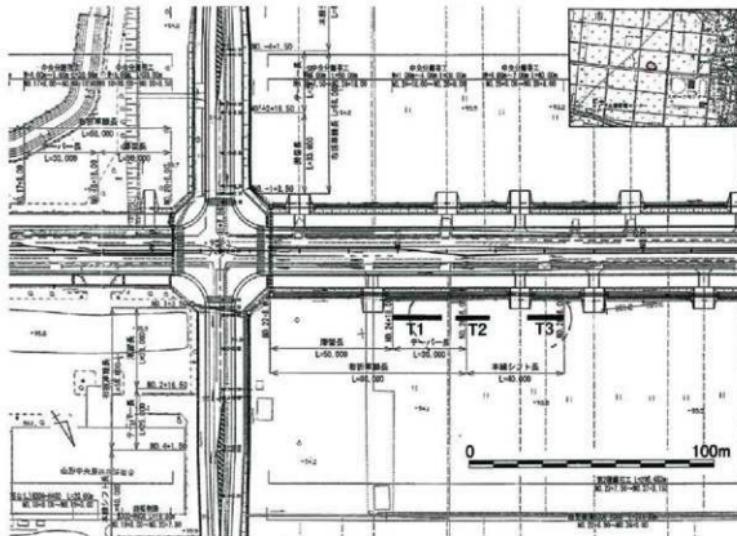
小平 4 遺跡 TP10



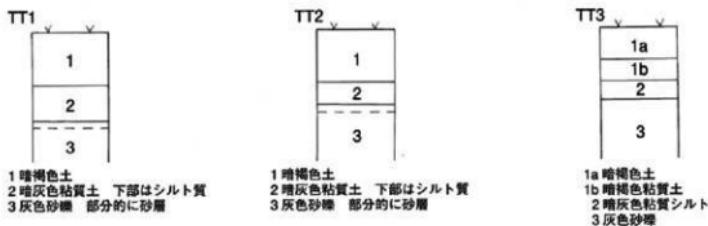
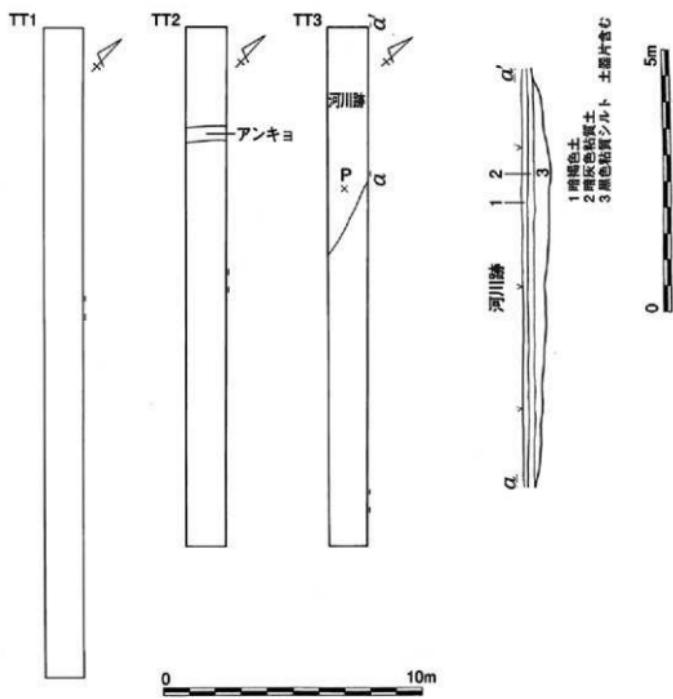
小平 4 遺跡出土土器

(11) 天童市小関地区遺跡可能性地 2

所 在 地 天童市小関
調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一
調 査 期 日 平成 19 年 12 月 12 日
起 因 事 業 主要地方道天童大江線拡幅工事
遺 跡 環 境 天童市の市街の西方近郊、標高 97m の平野部に立地する。緩やかに西北方向に傾斜する。地目は水田になっている。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレーンチ 3ヶ所を設定。
試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 挖 面 積 97.5 m²
検 出 遺 構 小河川跡
出 土 遺 物 小河川跡から土器片が出土
時 代 不明
所 見 3本のトレーンチからは遺構は検出されなかった。旧河道から出土した土器片は、流れ込みの可能性が高く、より南東側に遺跡が存在すると考えられる。堆積層に見る表土下の厚い砂疊層からは生活に適した環境ではなかったことが窺える。



図版 17 天童市小関地区遺跡可能性地 2 調査概要図



0 1m

第18図 天童市小關地区遺跡可能性地2調査平面図・断面図



県道天童大江線小關地区可能性地 2 N ~



県道天童大江線小關地区可能性地 2 E ~

図版 1 3 天童市小關地区遺跡可能性地 2



県道天童大江線小関地区可能性地2試掘状況 E～



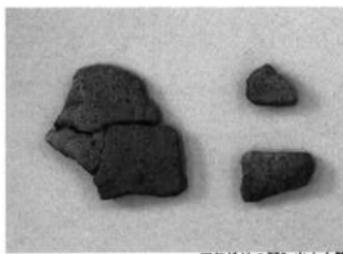
可能性地2試掘状況 F～



可能性地2T12 係群 S～



可能性地2T13 S～



可能性地2T13 出土器

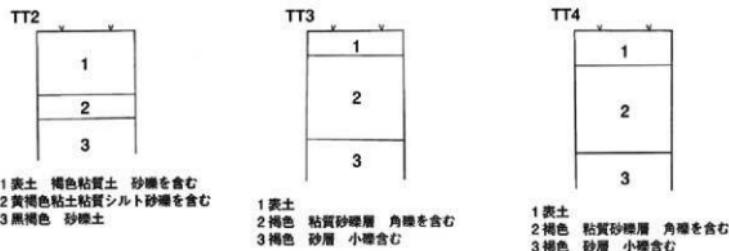
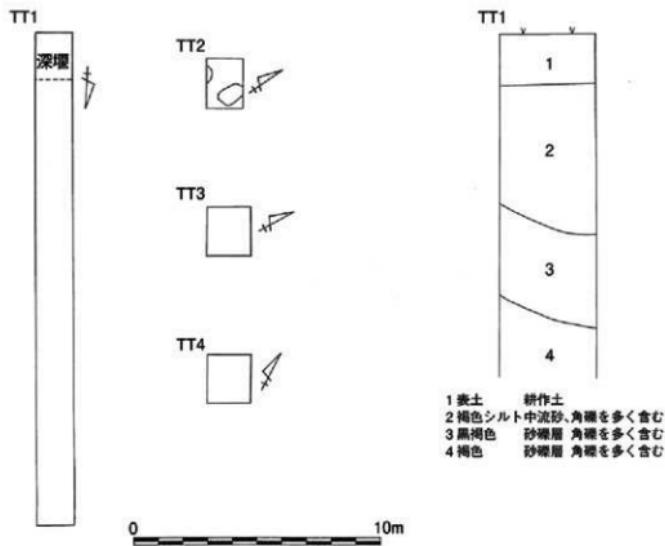
図版14 天童市小関地区遺跡可能性地2

(12) 山元遺跡隣接遺跡可能性地

所 在 地 天童市山元
調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一
調 査 期 日 平成 19 年 12 月 20 日
起 因 事 業 一般県道荒谷原崎線臨時道路整備事業
遺 跡 環 境 天童市の市街地の東方、標高 117m の山麓傾斜地に立地する。緩やかに西北方向に傾斜する。地目は畠地・宅地になっている。
試 堀 区 事業予定地内に試掘トレーンチ 4ヶ所を設定。
試 堀 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 堀 面 積 39 m²
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 TT 1・TT 3 から近代以降の陶磁器出土
時 代 不明
所 見 調査対象地に設定した 4 本のトレーンチからは遺構は検出されなかった。表土内から出土した陶磁器片は、近代以降の可能性が高い。なお、表土下の砂礫層を深掘りしたが、厚く続いていること、扇状地堆積によるものと考えられた。



第19図 山元遺跡隣接遺跡可能性地調査概要図



0 1m

第20図 山元遺跡隣接遺跡可能性地調査平面図・断面図



山元遺跡隣接地 TT1 試掘状況 N~



山元遺跡隣接地 TT1 N~

図版 15 山元遺跡隣接遺跡可能性地



山元道路隣接地 TT 3 調査状況 S ~



山元道路隣接地 TT2 土層断面 N ~



山元道路隣接地 TT 3 NE ~



山元道路隣接地 TT4 S ~

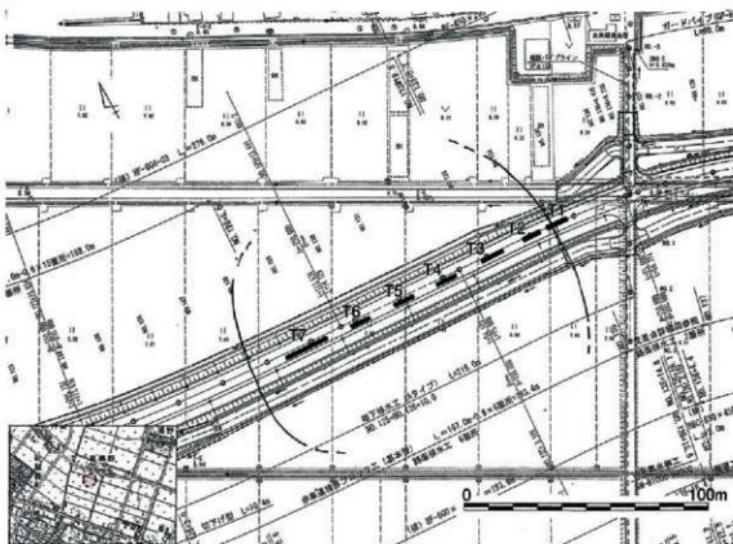


山元道路隣接地 TT4 W ~

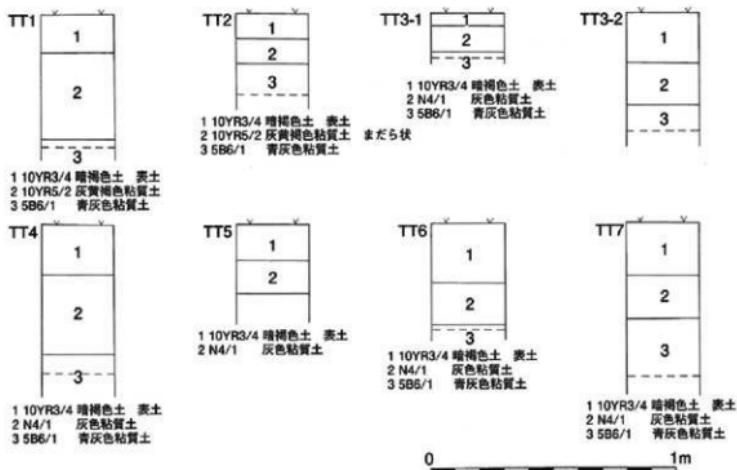
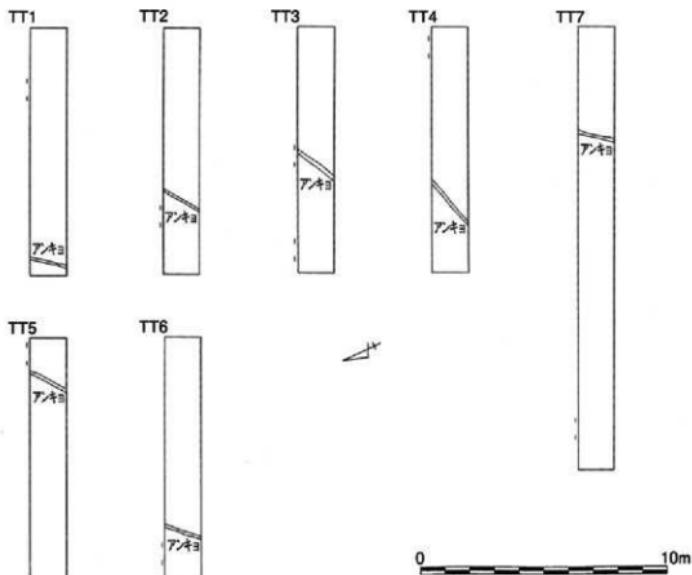
図版 1 6 山元道路隣接地調査可能地

(13) 酒田市飛鳥遺跡可能性地2

所 在 地 酒田市飛島字泉興野
調 査 員 阿部明彦 石井浩幸
調 査 期 日 平成 19 年 10 月 11 日
起 因 事 業 主要地方道酒田松山線飛鳥バイパス建設事業
遺 跡 環 境 標高 9 m の最上川右岸段丘上の平坦面。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ 7ヶ所を設定した。
試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 挖 面 積 120 m²
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 赤焼土器片 7点
時 代 平安時代
所 見 調査地点周辺は、泉興野の集落に近接した所で若干高い地形面となっている。80年代の圃場整備により、高い部分は切り土されたと見られ、水田耕作土下は地山となる青灰色の泥質粘土層が厚く堆積する状況が窺えた。道路計画路線に沿って約 100m にわたり試掘を行ったが遺構は確認できなかった。



第21図 酒田市飛島遺跡可能性地2調査概要図



第22図 酒田市飛島遺跡可能性地2調査平面図・断面図



図版 17 国道 345 号飛島バイパス関係遺跡可能性地 2 試掘状況 Ⅱ ~



図版 17 国道 345 号飛島バイパス関係遺跡可能性地 2 試掘状況 Ⅲ ~

図版 17 酒田市飛島遺跡可能性地 2



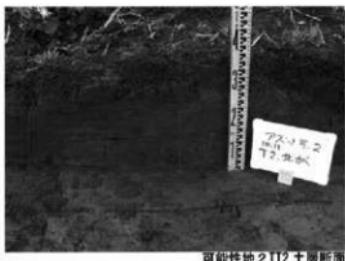
国道345号飛鳥バイパス関係道路可能性地2TT2 試掘状況 W~



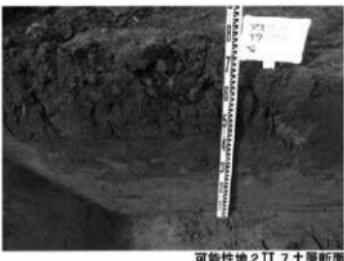
可能性地2TT3 試掘状況 E~



可能性地2TT7 試掘状況 E~



可能性地2TT2 土層断面



可能性地2TT7 土層断面

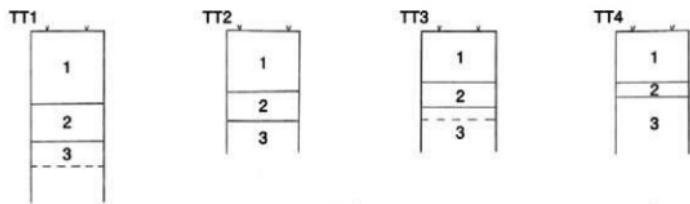
図版18 酒田市飛島遺跡可能性地2

(14) 鶴岡市白山遺跡可能性地

所在 地 鶴岡市白山
調査 員 阿部明彦 石井浩幸
調査 期 日 平成 19 年 12 月 12 日
起因 事 業 特定道路整備事業（一般県道湯田川大山線）
遺 跡 環 境 鶴岡市の市街地の西方、標高 15m の平野部に立地する。地目は水田・畑地になつてゐる。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレーンチ 4ヶ所を設定した。
試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行つた。
試 挖 面 積 105 m²
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 表土から近代以降の陶磁器が出土
所 見 4 本のトレーンチからは遺構・遺物は検出されなかつた。いずれのトレーンチも 1 層の耕作土、2 層のシルト層、そして 3 層以下に厚い泥炭層が堆積する状況が確認された。従つて、当該地は旧河道ないしは低湿地と考えられ、集落を営み得る環境ではなかつたと判断される。



第23図 鶴岡市白山遺跡可能性地調査概要図



1 表土 耕作土
2 灰色シルト 細砂混じり
3 泥炭 未分解の腐食物が多い



第24図 鶴岡市白山遺跡可能性地調査断面図



白山可能性地 T11 E ~



白山可能性地調査状況 E ~



白山可能性地 T12 W ~

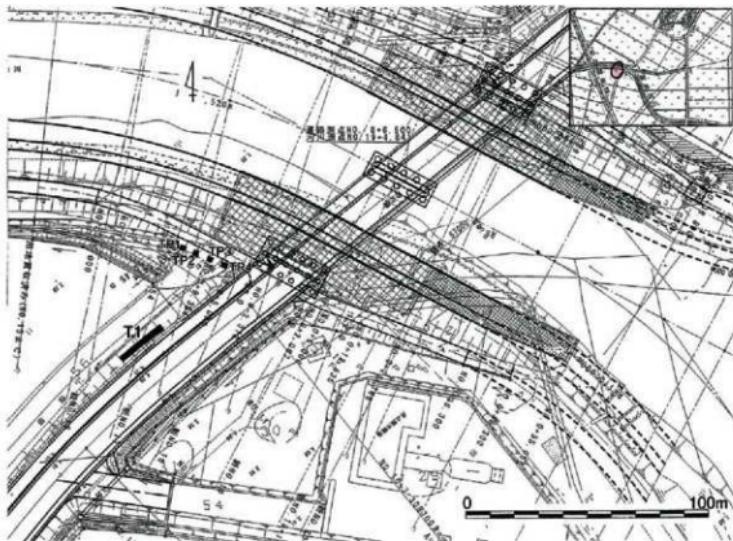


白山可能性地 T12 土層 S ~

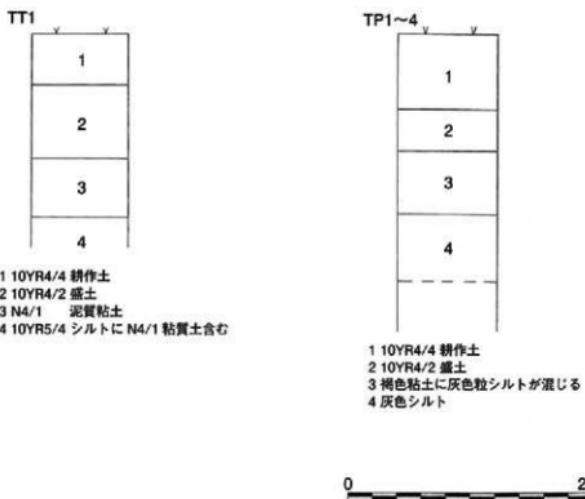
因版19 鶴岡市白山遺跡可能性地

(15) 船止遺跡

所 在 地 酒田市漆曾根字船止
調 査 員 阿部明彦 石井浩幸
調 査 期 日 平成 19 年 11 月 7 日
起 因 事 業 水害対策河川整備事業（新井田川基幹河川改修）
遺 跡 環 境 新井田川の河岸、標高 8 m に立地する。地目は水田・荒地になっている。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレーンチ 1ヶ所、試掘ピット 4ヶ所を設定した。
試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 挖 面 積 14.5 m²
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 盛土から近代以降の陶磁器・ガラスくずが出土
時 代 平安時代・鎌倉時代
所 見 調査トレーンチからは、遺構・遺物共に検出されていない。また、土層の状態は、以前の堤防工事等による掘削や盛土の所為か擾乱された様子が顕著であった。このようなことから、遺跡の広がりを道路北側部分には確認できなかった。当初における遺跡の範囲も道路部分を境界と推定しており、中心はより西側にあると考えられる。



第25図 船上遺跡調査概要図



第26図 船上遺跡調査断面図



図版20 船上遺跡

(16) 山形城三ノ丸 (201-002)

所 在 地 山形市春日町

調 査 員 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 8 月 29 日

起 因 事 業 都市計画道路事業（東原・村木沢線拡幅）

遺 跡 環 境 市街地にあたり、宅地・商店・畠地になっている。三の丸土壘・堀跡部分に位置するが現況では確認できない。

試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ 3ヶ所を設定した。

試 掘 方 法 計画区域について、重機による調査トレンチを入れた後、壁面と底面を精査し、堆積土層の状況確認と遺構・遺物の検出を行った。検出後、トレンチ位置や遺構について平面図を作成し、個々に付いても写真や平面図等の記録をとった。

試 掘 面 積 31.5 m²

検 出 遺 構 堀跡と思われる落ち込み等

出 土 遺 物 盛土・表土から陶磁器片が出土

時 代 近世

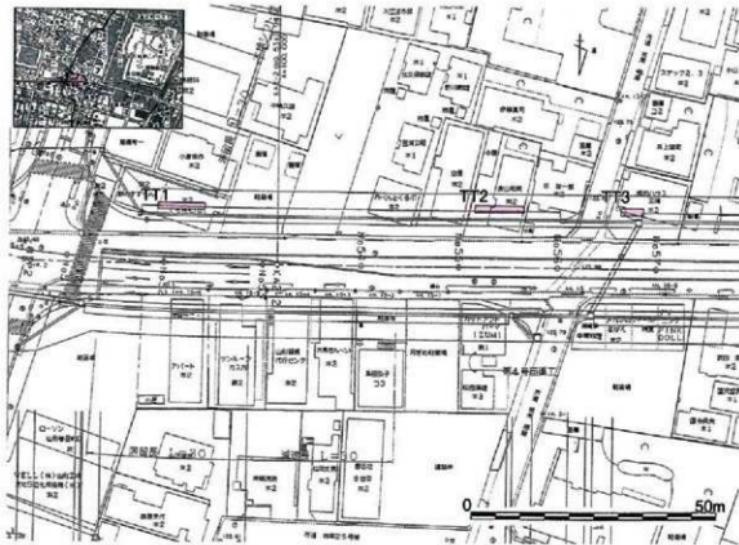
所 見 県道拡幅予定地に 3 本の試掘トレンチを設定した。以前の発掘調査では、黒色粘土層の直下で遺構確認を行なっているため、まず堆積層の状態を把握することとした。

TT 1 からは住宅などの基礎による擾乱が見られたが、現表土下約 70 cm に黒色粘土層、その下に褐色の砂質シルト層からなる旧地山面が確認された。擾乱を受けているがこの地山面は良好に遺存していると見て取れた。黒色粘土層の上からは陶器片が出土している。

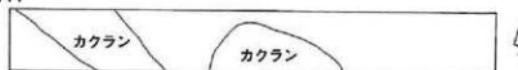
TT 2 は土壘・堀跡が位置すると思われた地点で、盛土以下 7 層までの自然な堆積層が見られた。8 層が黒色粘土層で、TT 1 の 6 層に相当している。また、TT 2 の西側では大きな落ち込みが認められた。ボーリング調査の結果、黒泥状の堆積物が下に存在することが窺え、三の丸の堀跡本体の可能性が高いと判断された。遺物の出土はない。

TT 3 は、市道を挟んだ西側に位置し、三の丸堀跡の外側と考えられる地点にあたっている。試掘の結果、表土下 80 cm の所で 3 層とした黒色粘土層を確認した。3 層下で精査したが遺構は発見されなかった。TT 3 では、1 層の盛土内から陶磁器片が多く出土している。

以上の結果、TT 2 は東側が土壘部分、西側が堀の入口部分と見られ、三の丸の堀は TT 2 の西側から市道部分にかけて存在すると考えられる。堀幅は約 10m と推測できる。堀の深さは確認していない。TT 1 のある三の丸内部は、後世の擾乱によるところが多いものの、部分的に遺構が残されていると判断される。



TT1



0 4m

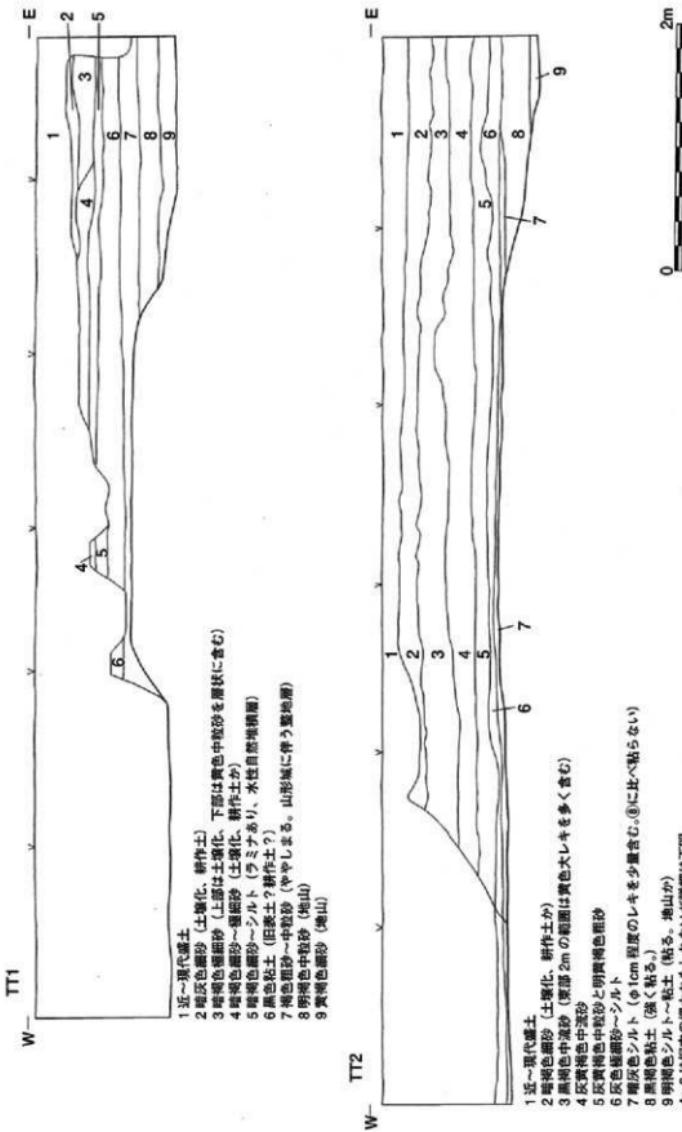
TT3



- 1 近～現代盛土（2層に分かれる）
- 2 喰灰色細砂～極細砂
- 3 黒色粘土（強く粘る）
- 4 喰灰色粘土（強く粘る）
- 5 灰白色細砂～中粒砂（地山）

0 2m

第27図 山形城三ノ丸調査概要図 平面・断面図



第28図 山形城三ノ丸調査断面図



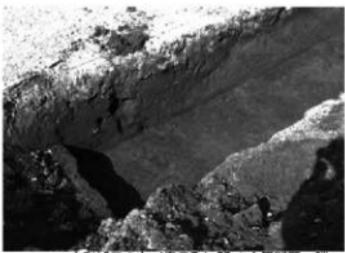
山形城三の丸（春日町）TT1 W～



山形城三の丸（春日町）調査状況 TT1 E～



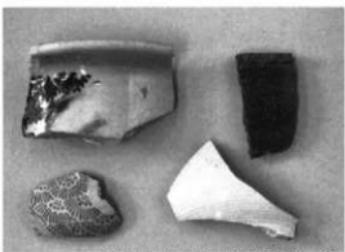
山形城三の丸（春日町）TT1 土層断面



山形城三の丸（春日町）TT3 土層断面 SW～



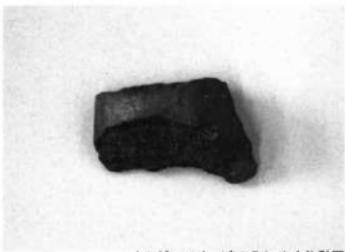
山形城三の丸（春日町）TT4 土層断面 N～



山形城三の丸（春日町）出土陶磁器（1）



山形城三の丸（春日町）出土陶磁器（2）



山形城三の丸（春日町）出土施釉瓦

(17) 三沢 b 遺跡

所 在 地 米沢市大字三沢字白旗

調 査 員 石井浩幸

調 査 期 日 平成 19 年 7 月 27 日

起 因 事 件 米沢警察署関根駐在所新築工事

遺 跡 環 境 遺跡は標高 295m の段丘上に位置し、南側に舌状に張り出した狭い平坦地となっている。東に羽黒川が北に向かって流れている。

試 挖 区 事業予定地内に試掘ビット 8ヶ所を設定した。

試 挖 方 法 人力のみで試掘調査を行った。

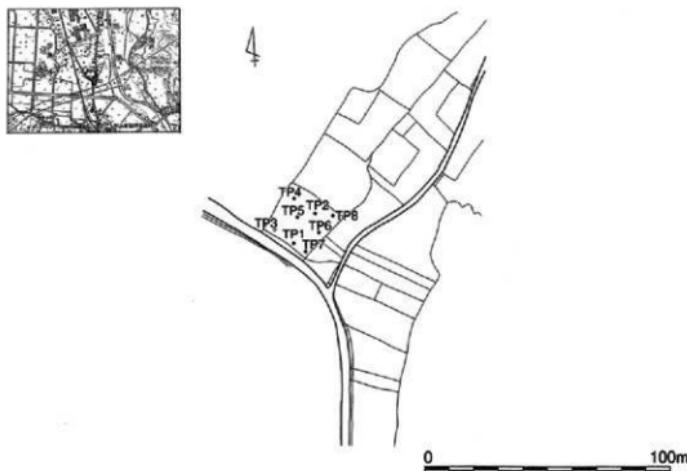
試 挖 面 積 8 m²

検 出 遺 構 なし

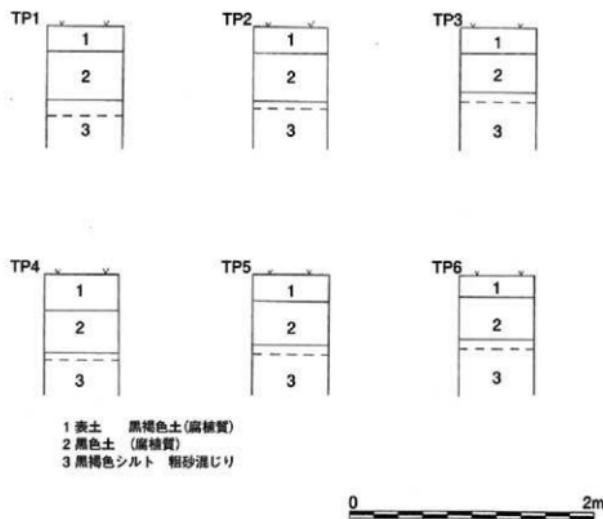
出 土 遺 物 TP 3 から縄文土器片が 1 点出土

時 代 縄文時代

所 見 TP 3 より 1 点ながら縄文時代の土器片が出土した。しかし、他の試掘坑では遺構・遺物共に認めることができなかった。遺物の存在から、今回の調査地点周辺に遺跡の存在が考えられるが、その主体的部分は不詳である。



第 29 図 三沢 b 遺跡調査概要図



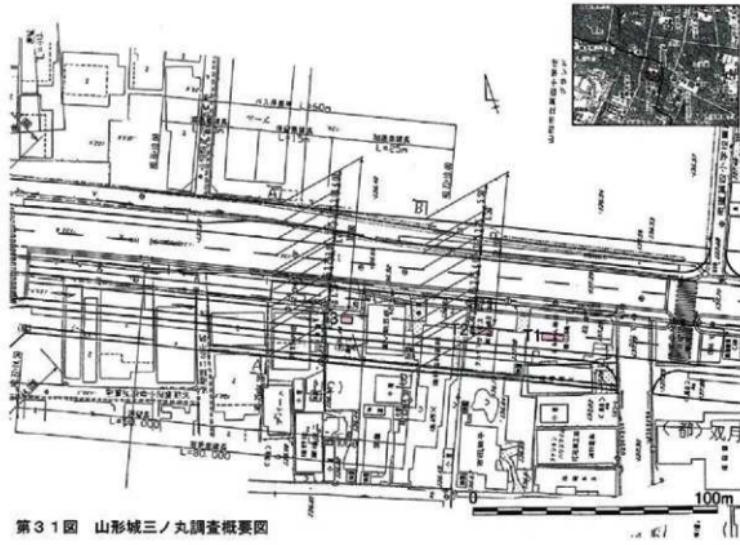
第30図 三沢 b 遺跡調査断面図



図版22 三沢 b 遺跡

(18) 山形城三ノ丸 (201-002)

所 在 地 山形市旅籠町
調 査 員 阿部明彦 石井浩幸
伊藤邦弘 (埋蔵文化財センター) 高桑 登 (埋蔵文化財センター)
調 査 期 日 平成 19 年 11 月 14 日
起 因 事 業 一般国道 112 号 隅城改良 (旅籠町改良工事)
遺 踪 環 境 市街地にあたり、宅地・商店・畠地になっている。三の丸内部に位置するが現況では土塁や堀跡は確認できない。
試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ 3ヶ所を設定。
試 挖 方 法 計画区域について、重機によりトレンチを入れた後、壁面と底面を精査し、堆積土層の状況と、遺構・遺物の存在を確認した。その後、トレンチ位置と検出遺構を平面図に記載し、個々に付いての情報も併せて記録した。
試 挖 面 積 25.5 m²
検 出 遺 構 溝跡、土壙、柱穴
出 土 遺 物 土師器、須恵器、赤焼土器、近世陶磁器
時 代 奈良・平安時代、中世、近世
所 見 国道 112 号線拡幅工事予定地内を対象に 3 本の試掘トレンチを設定して調査を行った結果、T 1 では住宅などの基礎やごみ捨て穴による搅乱が見られたが、現表土の約 80 cm 下に黒褐色シルト層、その下に暗褐色砂質シルトの旧地山面が確認された。上部は搅乱を受けているが、地山面は良好に遺存している。また、3 層上面では土壙やピットなどの遺構が検出できた。なお、2 層の黒褐色シルト層下部からは土師器・須恵器・陶磁器片が確認される。
T 2 では盛土以下 4 層までは自然による堆積層と考えられた。2 層が黒褐色シルト層で、T 1 の 2 層に相当している。3 層上面では大きな落ち込みや土壙・ピットが検出された。また、2 層中からは陶磁器類・須恵器片・土師器片が出土している。
T 3 は、調査予定地の西側に位置し、試掘の結果、表土下に層厚 70 cm ほどの暗褐色砂質シルト層 (3 層) が検出される。この層の中位で面的精査を行ったが遺構は発見されなかった。なお、2 層中から多くの陶磁器片などの遺物がまとまって出土している。
試掘の結果、T 1・T 2・T 3 では、3 層上面で中世以前の遺構が検出できることが判明した。そこからは、古代・中世・近世以降の遺物が混在的に検出され、時期的に複合するエリアと想定できる。このように、試掘調査を実施した当該部分の三の丸域内は、後世の搅乱が多いものの、盛土や表土下には良好に遺構が残されている部分も多いと判断され、中世、あるいは古代においても集落などの立地していた地点と捉えられる。

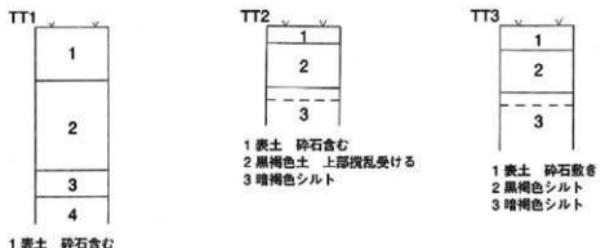
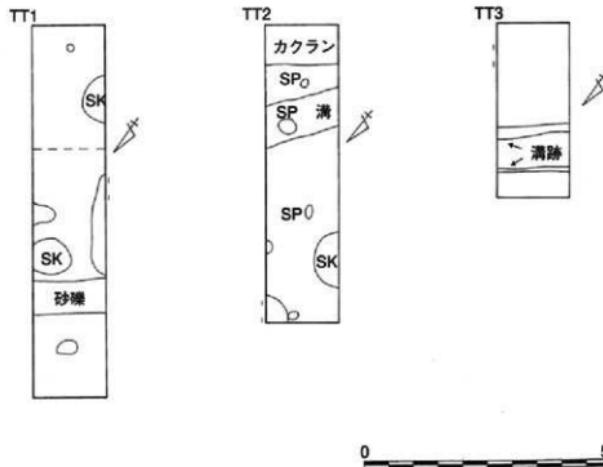


第31図 山形城三ノ丸調査概要図



山形城三の丸（旅籠町）試掘状況 E~

図版23 山形城三ノ丸



1 表土 碎石含む
2 黒褐色土 上部搅乱受ける
3 嗜褐色シルト
4 暗褐色砂質シルト

0 2m

第32図 山形城三ノ丸調査平面図・断面図



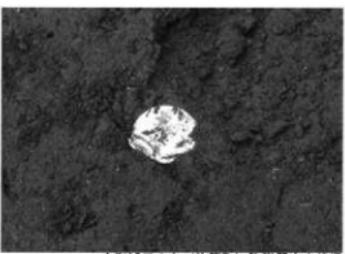
山形城三の丸（旅籠町）TT 1 調査状況 E～



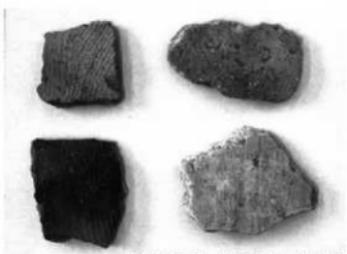
山形城三の丸（旅籠町）TT 2 調査状況 E～



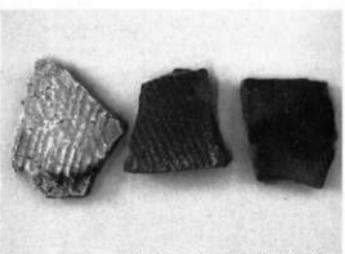
山形城三の丸（旅籠町）TT 1 遺構検出状況 E～



山形城三の丸（旅籠町）陶磁器出土状況



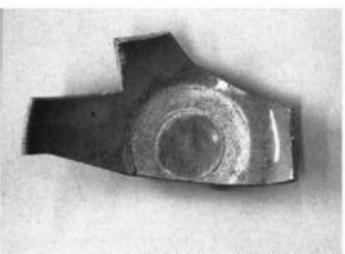
山形城三の丸（旅籠町）出土土師器



山形城三の丸（旅籠町）出土須恵器



山形城三の丸（旅籠町）出土陶磁器

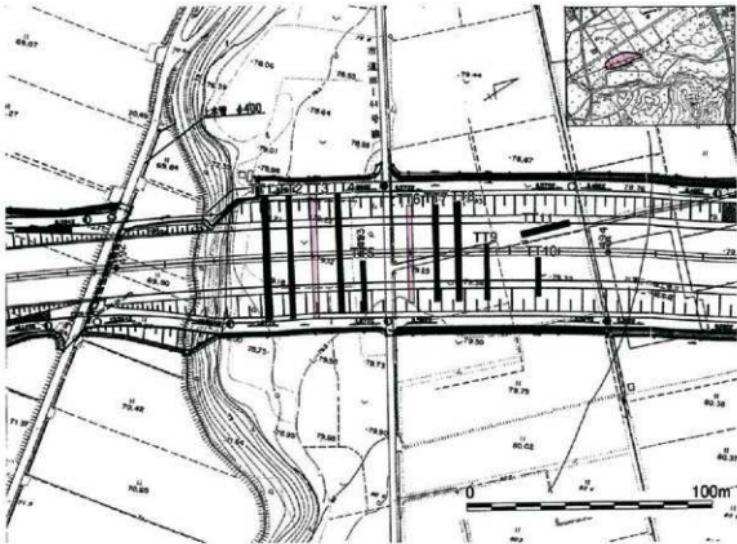


山形城三の丸（旅籠町）出土磁器

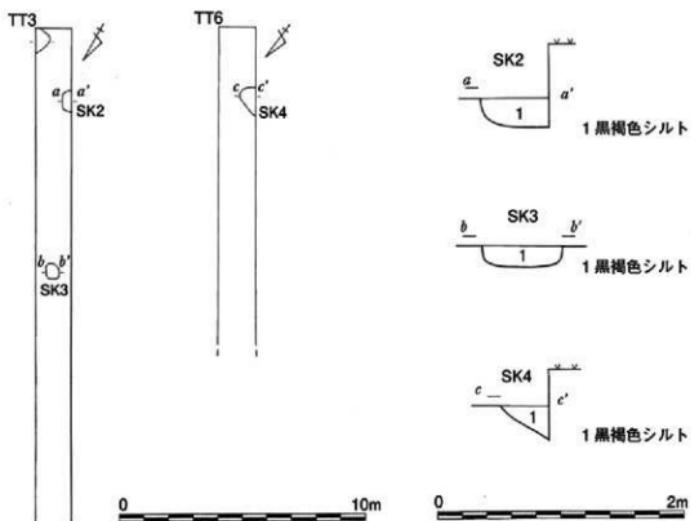
図版 24 山形城三ノ丸

(19) 西原遺跡（平成 11 年度登録）

所 在 地 尾花沢市大字尾花沢字西原
調 査 員 阿部明彦 石井浩幸
調 査 期 日 平成 19 年 5 月 15 日
起 因 事 業 東北中央自動車道（東根尾花沢間）
遺 跡 環 境 脇川右岸の段丘上に位置し、西 1 km ほどで最上川と合流する。
試 掘 区 事業予定地内に試掘トレンチ 11 ヶ所を設定した。
試 掘 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。
試 掘 面 積 638 m²
検 出 遺 構 時期不明の土壌
出 土 遺 物 繩文土器片（採集品）
時 代 繩文時代
所 見 試掘調査の結果、設定した 11 本のトレンチの内 TT3 の東端と TT6 の東端で時期不明の土壌を確認した。しかし、その他のトレンチでは遺構・遺物共に確認されなかつた。遺跡の北側は以前の圃場整備により大きく改変されたと考えられる。なお、計画路線の東側から土器片 1 点を採集している。



第 33 図 西原遺跡調査概要図

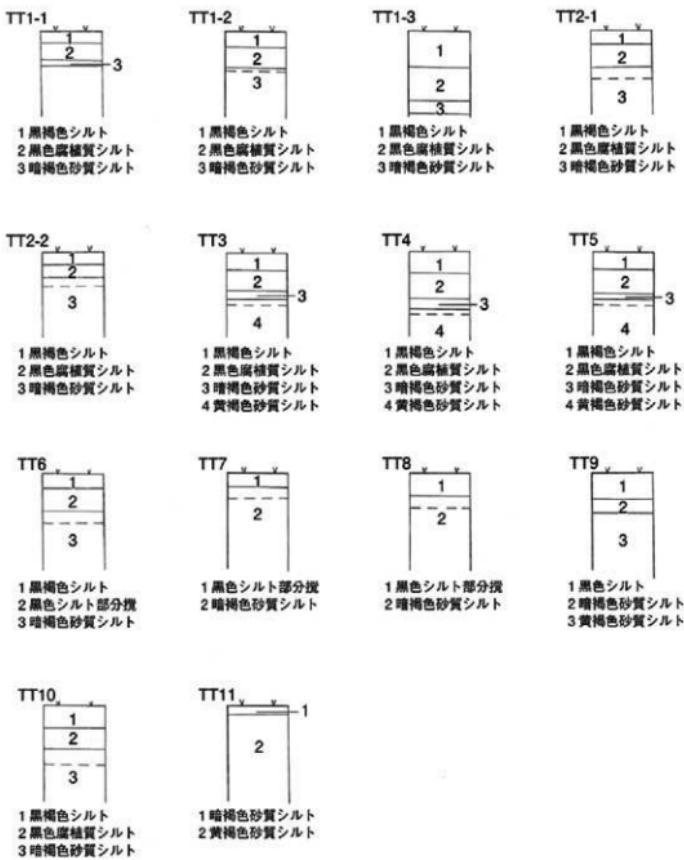


第34図 西原遺跡調査平面図・断面図



西原道路近景 S~

図版25 西原遺跡



0 2m

第35図 西原遺跡調査断面図



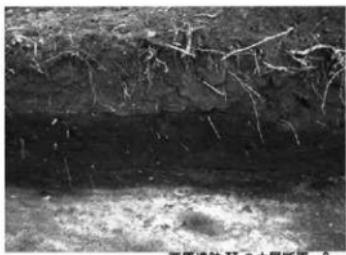
西原遺跡試掘状況 E ~



西原遺跡 TT 2 E ~



西原遺跡 TT 4 E ~



西原遺跡 TT 2 土層断面 S ~



西原遺跡土層断面 TT 8 S ~

図版 26 西原遺跡

(20) 家の通り遺跡 (平成 11 年度登録)

所 在 地 尾花沢市大字五十沢字家廻

調査員 阿部明彦 石井浩幸

調査期日 平成 19 年 5 月 17 日 18 日

起因事業 東北中央自動車道（東根尾花沢間）

遺跡環境 五十沢川右岸の段丘に立地し、最上川との合流点からは 2 km ほど上流に位置する。東に隣接して縄文後期を主体とする横内遺跡が所在する。

試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ 9ヶ所、試掘ピット 6ヶ所を設定した。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

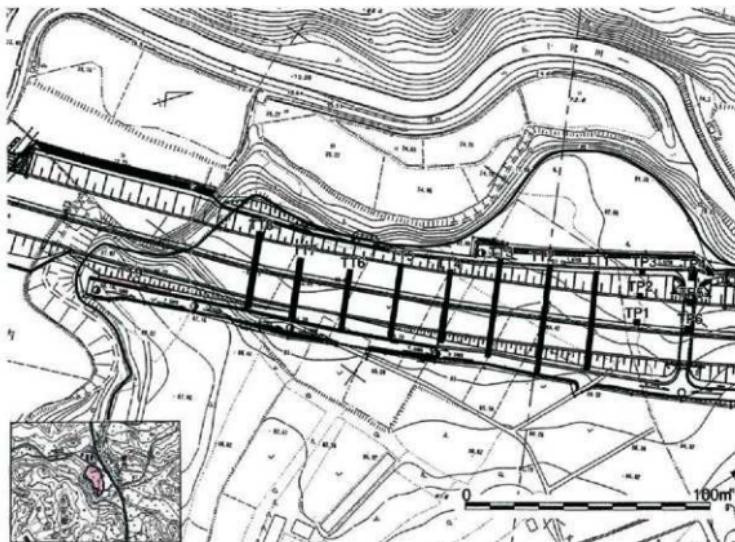
試掘面積 441 m²

検出遺構 落し穴 1 基

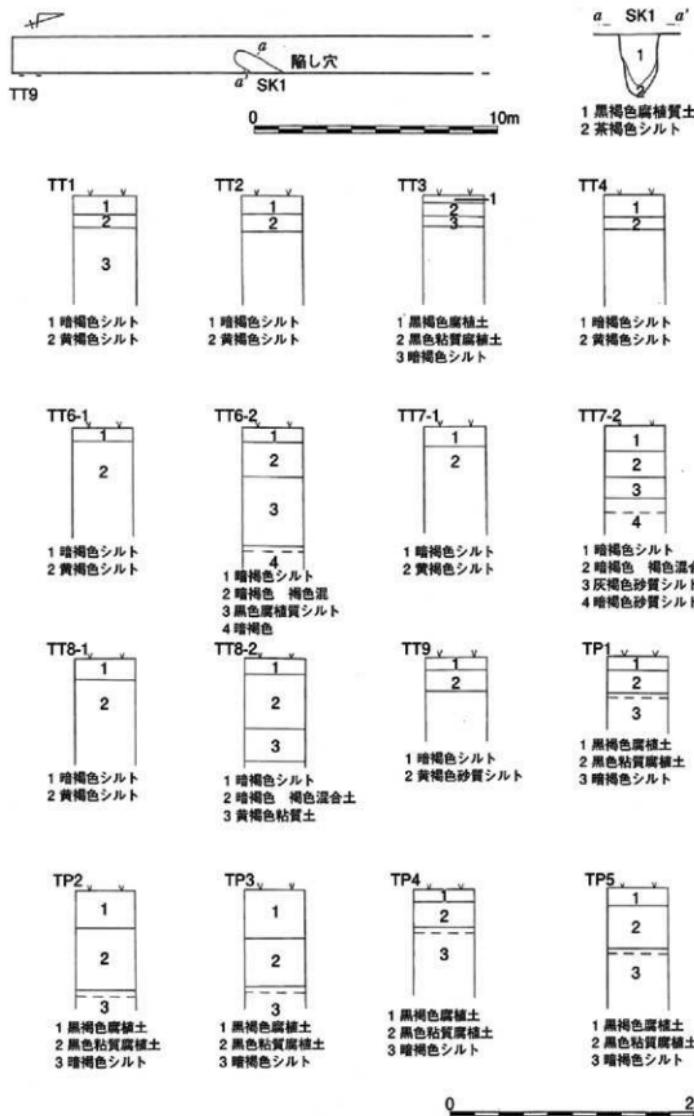
出土遺物 縄文土器片・石器片

時代 縄文時代

所見 TT9 から落とし穴 1 基を確認した。南東側の高台から石器 3 点、土器片 2 点を表探したが、試掘による遺物の出土はない。この高台は以前、重機により削平されたと見られ、表土下に地山の黄褐色粘土層がすぐ検出された。その他の TT1-TT8 の 8 本のトレンチでも遺構・遺物は確認されなかった。



第 36 図 家の通り遺跡調査概要図





家の通り遺跡近景 N～



家の通り遺跡試掘状況 ES～

図版27 家の通り遺跡



家の通り遺跡 TT 9 S ~



家の通り遺跡 TT 5 ES ~



家の通り遺跡 TT 7 ES ~



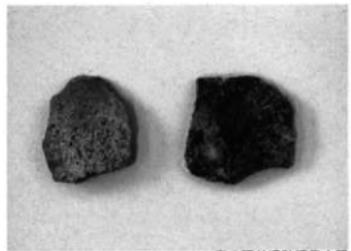
家の通り遺跡 TT 3 S ~



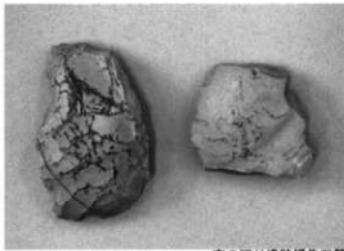
家の通り遺跡 TP 4 E ~



家の通り遺跡 TT 9 検出土壙 S ~



家の通り遺跡採集土器



家の通り遺跡採集石器

図版 28 家の通り遺跡

(21) 東北中央道(東根尾花沢間) 遺跡可能性地 12

所 在 地 大石田町大字今宿

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

伊藤邦弘(山形県埋蔵文化財センター) 氏家信行(山形県埋蔵文化財センター)

調査期日 平成 19 年 11 月 20 日 21 日

起因事業 東北中央自動車道(東根尾花沢間)

遺跡環境 薩川と五十沢川に挟まれた山麓平坦地。

試掘区 事業予定地内に試掘トレンチ 8ヶ所を設定。

試掘方法 重機と人力で試掘調査を行った。

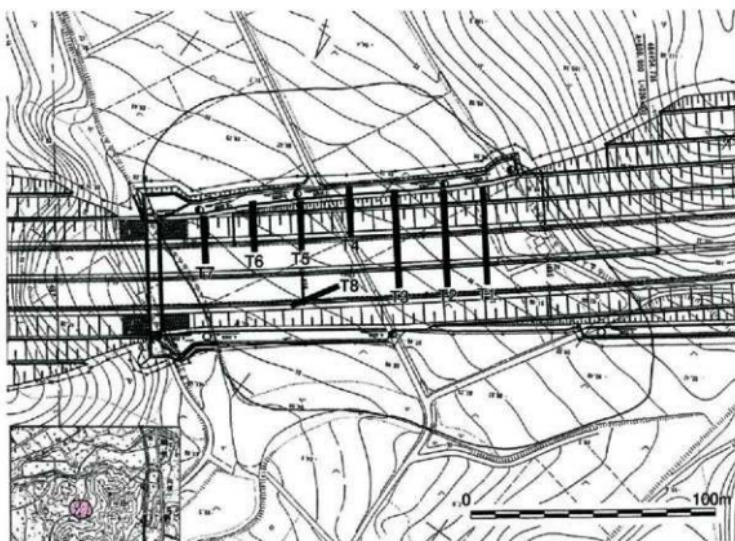
試掘面積 330 m²

検出遺構 風倒木痕

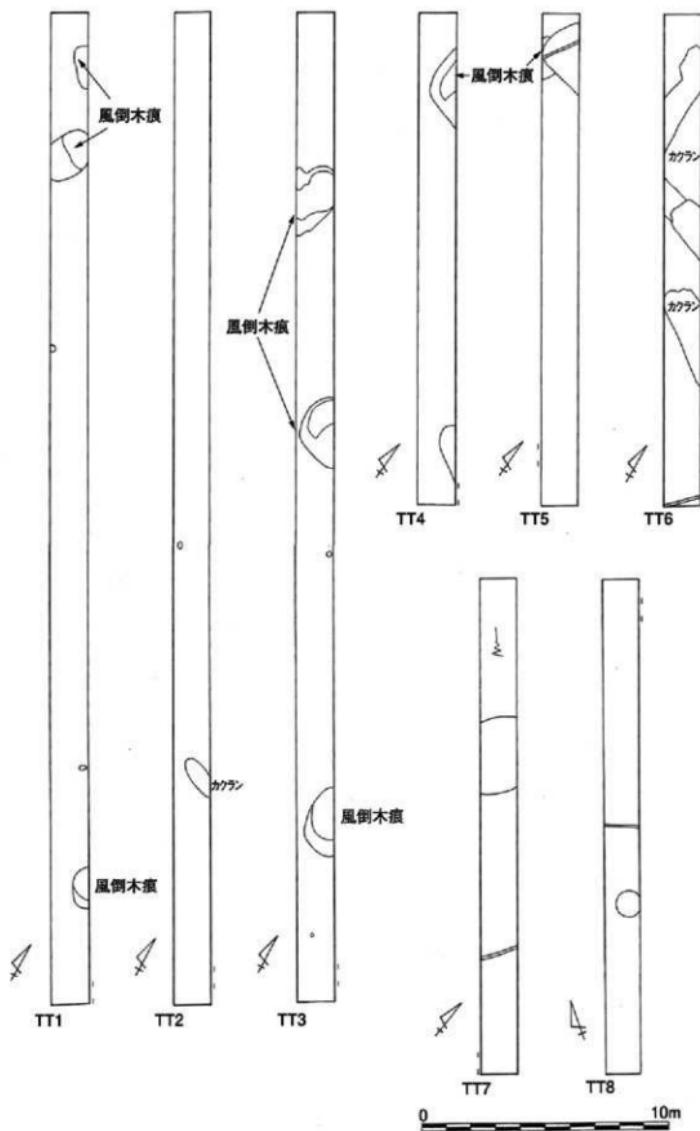
出土遺物 なし

時代 不明

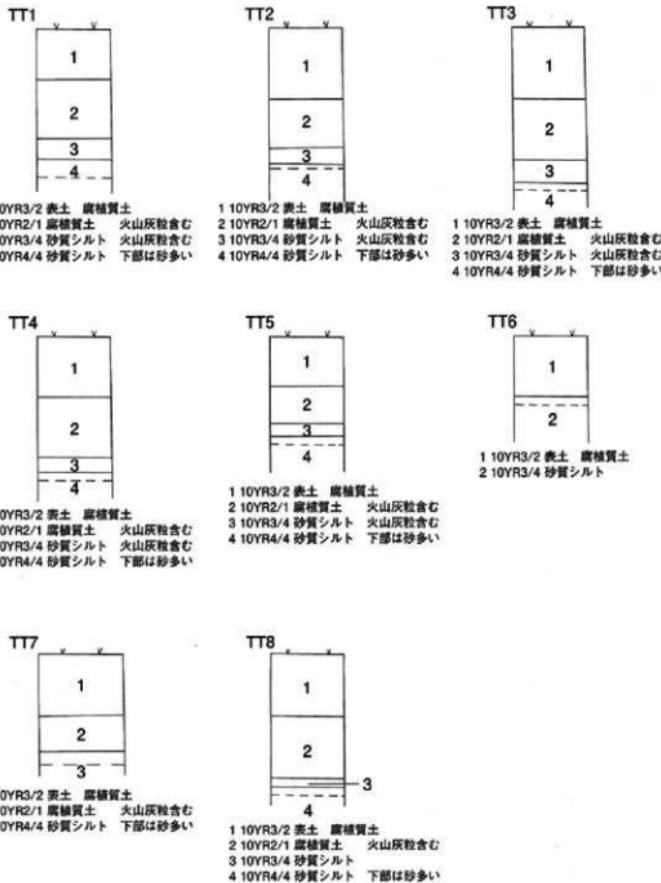
所見 付近一帯は以前の畑地造成によって、重機により削平・整地されたとみられる。南側の丘陵下は表土が厚く、さらに厚い黒ボク土が堆積していた。試掘の結果、8ヶ所のトレンチからは明確な遺構の検出はなく、樹木の搅乱や後世の搅乱が目立った。



第38図 東北中央道遺跡可能性地12調査概要図



第39図 東北中央道遺跡可能性地12調査平面図



第40図 東北中央道遺跡可能性地12調査断面図



東北中央高速道可能性地 12 近景 青 ~



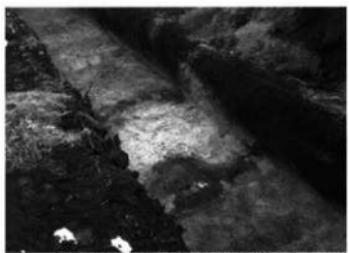
東北中央高速道可能性地 12 調査状況 ES ~



東北中央高速道可能性地 12 調査状況 S ~



東北中央高速道可能性地 12TT 1 NS ~



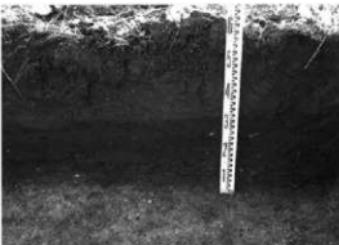
東北中央高速道可能性地風倒木跡検出状況 (1)



東北中央高速道可能性地風倒木跡検出状況 (2)



東北中央高速道可能性地 12TT 8 S ~



東北中央高速道可能性地 11 3 土層断面 S ~

図版 29 東北中央道遺跡可能性地 12

(22) 米沢南陽道路 IC 予定地

所 在 地 高皇町深沼

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調 査 期 日 平成 20 年 1 月 18 日

起 因 事 業 米沢南陽道路（南陽高畠 IC 予定地）盛土工事

遺 跡 環 境 赤湯の市街地の南方約 3 km に位置し、高速道路計画用地となっている。

付近は全体に盛土がなされている

試 挖 区 事業予定地内に試掘トレーニチ 3ヶ所を設定。

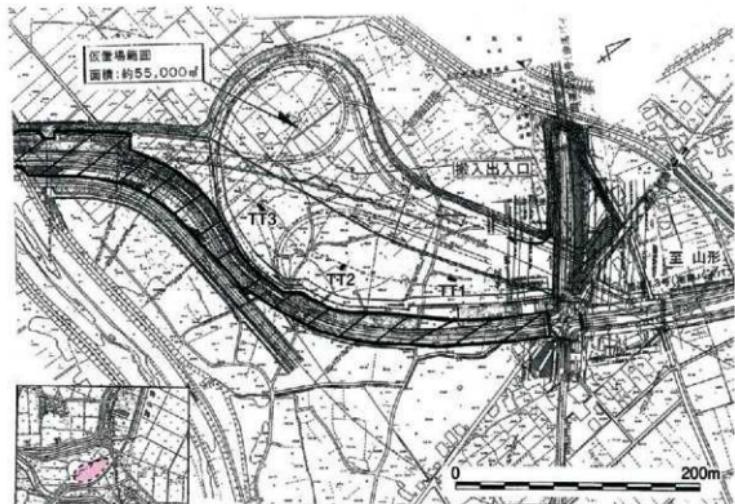
試 挖 方 法 重機+人力で試掘調査を行った。

試 挖 面 積 45 m²

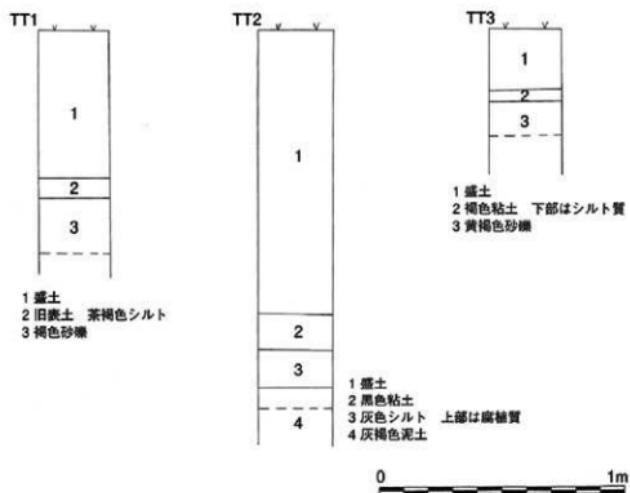
検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

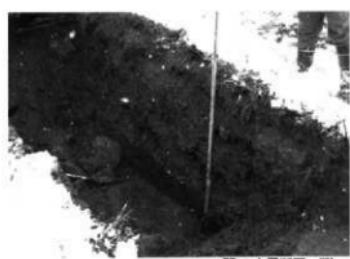
所 見 TT1 では約 120cm、TT2 では、約 2 m の盛土が見られた。TT3 からは盛土以下 3 層までは 80 cm ほどの堆積層で、地山は褐色の砂礫層であった。これら TT1～TT3 のいずれのトレーニチからも遺構・遺物は確認されなかったことから、遺跡の存在はないと判断された。



第41図 米沢南陽道路 IC 予定地調査概要図



第42図 米沢南陽道路 IC 予定地調査断面図



図版30 米沢南陽道路 IC 予定地

(23) 水産遺跡

所在 地 米沢市水産

調査 員 阿部明彦 石井浩幸

伊藤邦弘（山形県埋蔵文化財センター） 須賀井新人（山形県埋蔵文化財センター）

調査 期 日 平成 19 年 9 月 13 日

起 因 事 業 用水供給事業（水産ダム改修工事）

遺 跡 環 境 鬼面川の上流域にあたり、標高 390m のダム湖の縁辺に位置する。

試 挖 区 事業予定地内に試掘トレンチ 6ヶ所設定した。

試 挖 方 法 重機と人力で試掘調査を行った。

試 挖 面 積 121.5 m²

検 出 遺 構 性格不明の落ち込み、近代の歴跡

出 土 遺 物 縄文土器・石器片（採集品）

時 代 縄文時代

所 見 土取り予定地部分について 6ヶ所のトレンチを設定した。その結果、明確に縄文時代と判別できる遺構は確認できなかった。また、いずれのトレンチからも遺物は出土していない。なお、湖岸の南西側縁辺からは縄文土器や石器が採集できる。



水産ダム近景 ES ~



調査風景

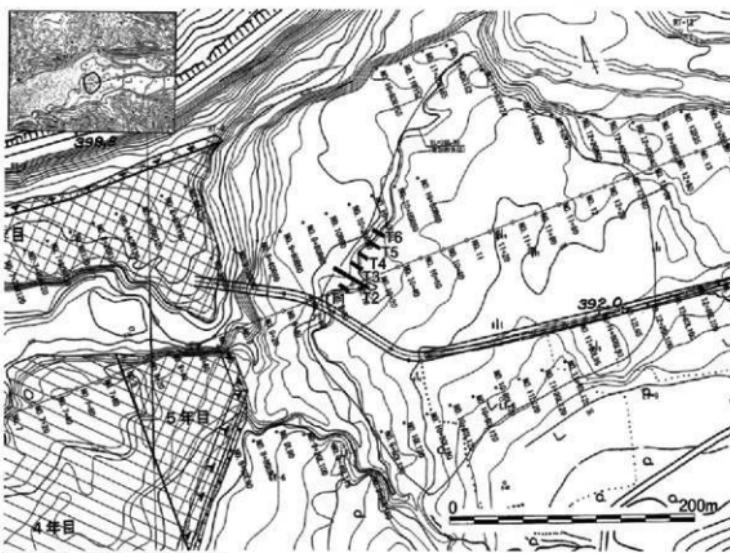


調査風景



調査区近景 MM ~

図版 31 水産遺跡

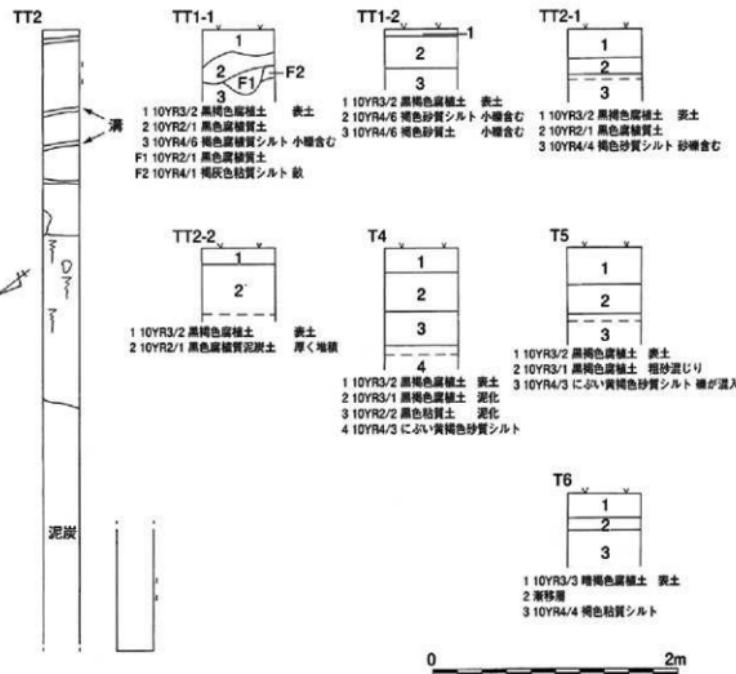
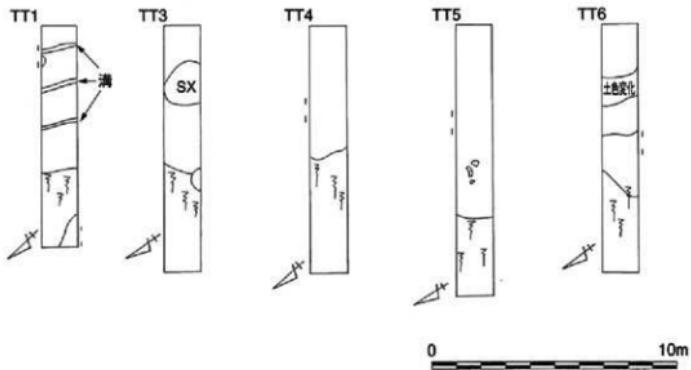


第43図 水窪遺跡調査概要図



水窪遺跡全景

図版32 水窪遺跡



第44図 水窪遺跡調査平面図・断面図



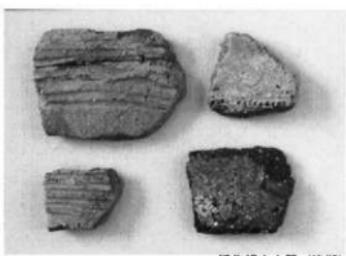
調査状況 TT 1 N ~



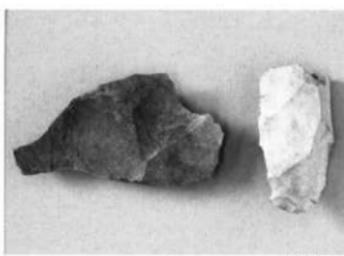
調査状況 TT 1 NE ~



調査状況 TT 3 E ~



採集縞文土器 (後期)



採集石器

III 記録保存調査・立会調査の概要

(24) 下大曾根遺跡(平成19年度新規登録)

所在 地 鮎川村大字石名坂字下大曾根
調査 員 阿部明彦 石井浩幸
調査 期 日 平成19年7月30日～8月3日(延べ5日)
起因 事 業 経営体育成基盤整備事業(鮎川左岸地区)
遺跡 環 境 鮎川左岸の河岸段丘、標高59mに立地する。地目は水田・畑地である。
試掘 区 事業予定地内に調査区を設定。7m×34m 1.8m×50m
試掘 方 法 対象区域について、重機による調査区内の表土除去後、壁面と底面の精査を行って遺構と遺物を検出した。

調査 面 積 998 m²
検出 遺 構 挖立柱建物跡、土壙、溝跡、柱穴跡多数
出 土 遺 物 赤焼土器坏・甕、黒色土器坏、須恵器台付坏・甕・壺、陶磁器
時 代 平安時代、近世
所 見 園場整備が計画されたことから、県教委では平成13年に計画区域内の遺跡分布調査(A調査)を実施した。その結果、事業区域内に5箇所の遺跡ないし可能性地が存在することが明らかになった。下大曾根遺跡は可能性地4として登録された。

平成19年4月、可能性地4が当年の事業範囲にかかることとなり、6月に試掘調査を実施した。その結果約15,000m²に及ぶ平安時代の遺跡が存在することが明らかになった。試掘調査の結果を受けて、県教育委員会と最上総合支庁農村整備課との間で協議が行われ、遺跡東側は工法変更による保存に、西側は発掘調査による記録保存の対応を図ることとなった。今回の調査は、農道及び用水路建設に係る部分の調査で今年度の事業実施が不可避であったことから、県教育委員会が事前に発掘調査することとなったものである。

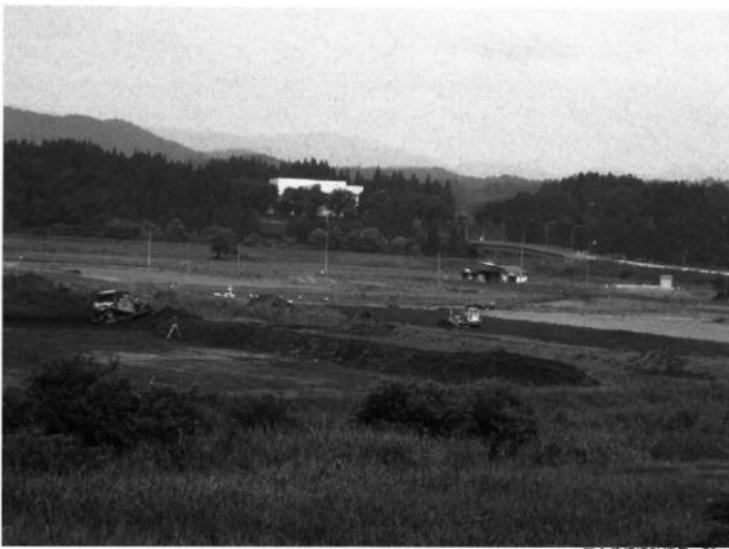
調査は農道が遺跡に係る部分と東側からの工事用道路工事部分を対象にして実施した。

層 序

農道部分の堆積層序を観察するに、旧表土は確認されなかった。3層の灰褐色シルト直下から遺構を確認検出することができ、3層上半までは削平されている状況をみせている。8層は赤色化した砂質シルトとなっている。遺跡北側では表土と3層の直下で遺構を検出している。現地表面から約20cmの深度となる。遺跡東側は以前の水田造成のため、包含層や遺構の大部分が削平されているとみられる。

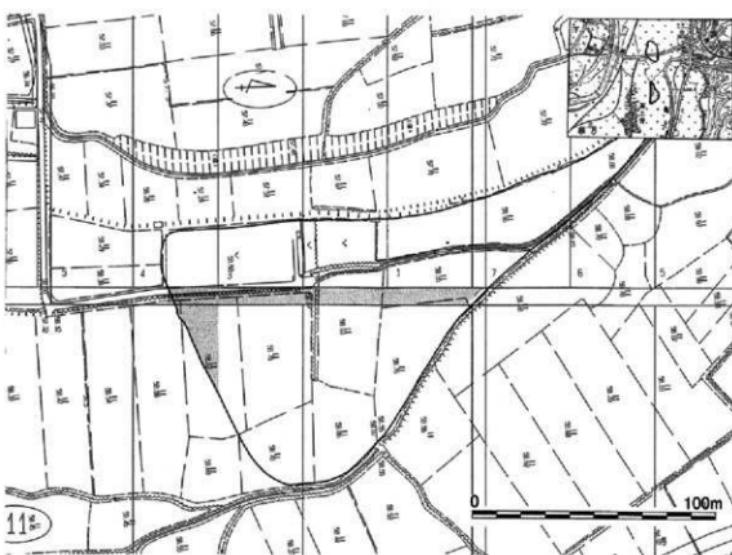
遺 構

調査では平安時代の掘立柱建物跡、土壙、柱穴群、近世以降の溝跡などが検出された。全体として遺跡の北側に集中する傾向が窺えた。



図版34 下大曾根遺跡

下大曾根遺跡遠景 ES ~



第45図 下大曾根遺跡調査板要図

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は1棟を確認した。1間×3間の南北方向の建物跡で桁行2.4m、梁行2.1mを測る。径40cm程の掘り方に径20cm前後の柱痕が認められた。覆土中から土師器甕片や坏等が出土している。規模が小さく、間尺が大きいことから倉庫跡等が考えられる。柱穴群

約50基からなるビット群がまとめて検出された。大小深さも様々である。方形に分布配置していることから、なんらかの建物跡の可能性が考えられる。

遺物

遺物は平安時代の土器が大半を占め、土師器や須恵器が遺構や自然な落ち込みから出土した。総数は少ない。

須恵器は坏、台付坏、甕、壺などの破片資料。土師器は甕の体部破片。黒色土器は坏の体部片や底部である。

陶磁器は、近世以降の碗・皿の破片資料が認められた。

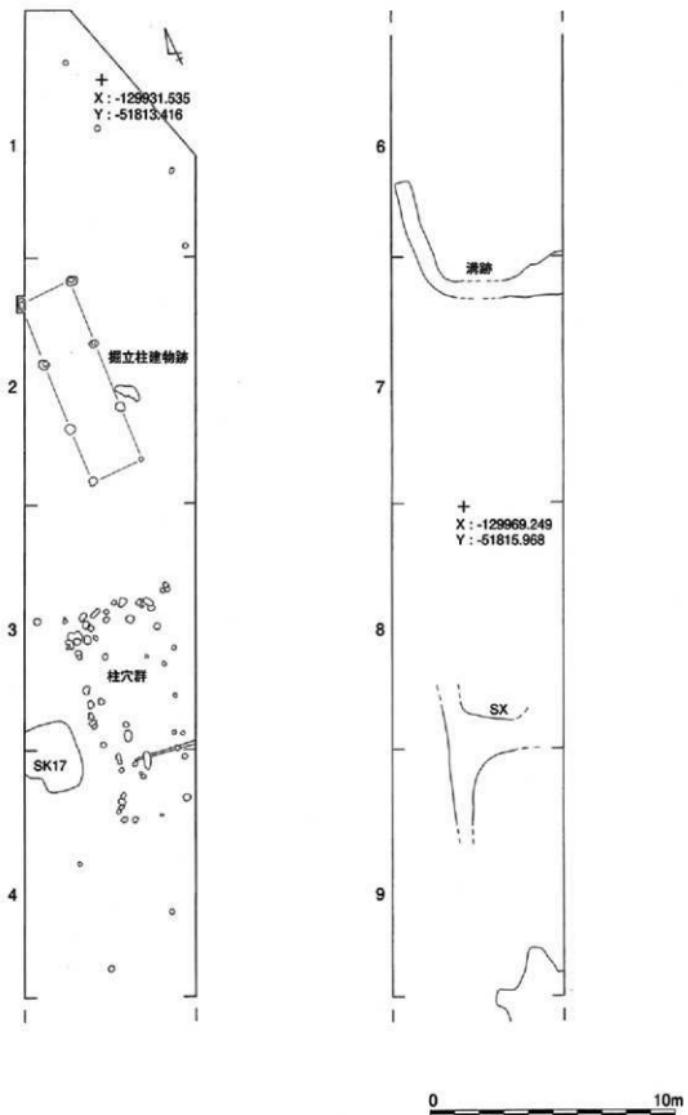
まとめ

遺跡は鮭川と内川に挟まれた自然堤防上に営まれた平安時代の集落跡である。周辺には藤田2遺跡など古代から中世にかけての遺跡が発見されていることから、鮭川中流域の河岸低地は古くから開拓開発が進められ、人々が生活を営んでいたことが明らかになった。また、古代の遺跡がきわめて少ない最上地方においては貴重な発見といえる。

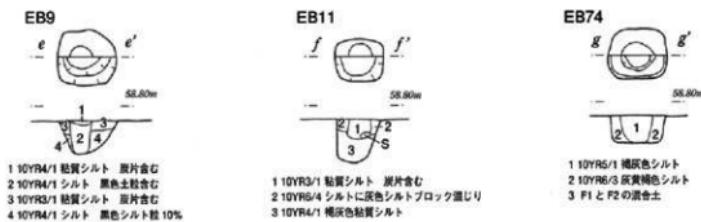
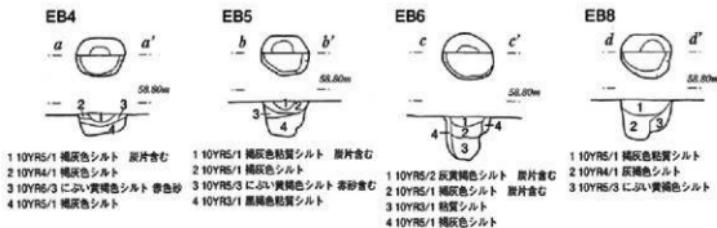
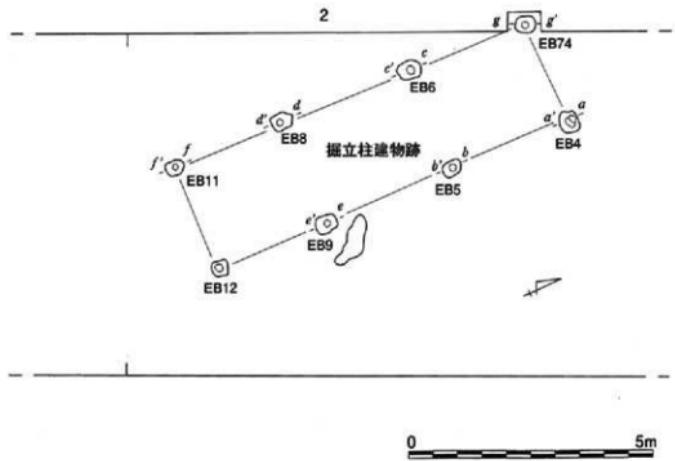


下大曾根遺跡検出掘立柱建物跡 S～

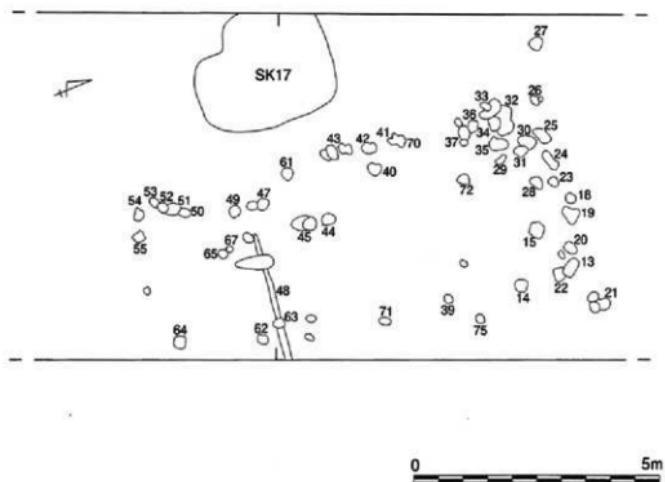
図版35 下大曾根遺跡



第46図 下大曾根遺跡調査平面図 (I)



第47図 下大曾根遺跡調査平面図・断面図（1）

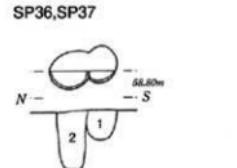
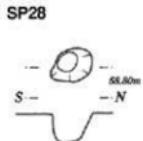
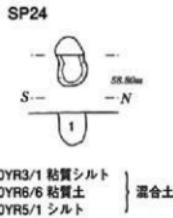
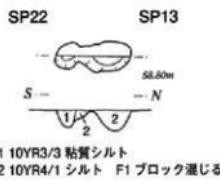
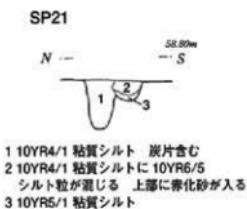
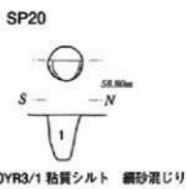
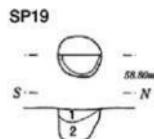
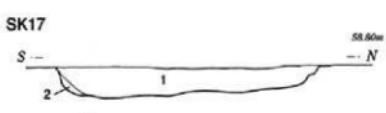
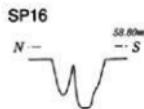
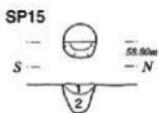


第48図 下大曾根遺跡調査平面図(2)



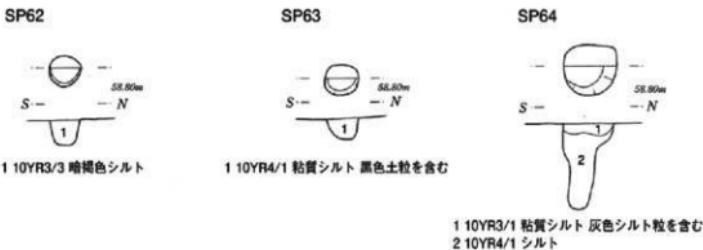
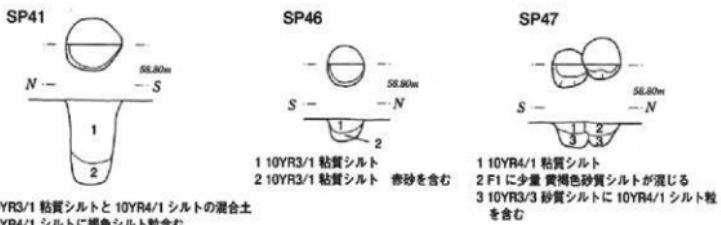
下大曾根遺跡柱穴群検出状況 S ~

図版36 下大曾根遺跡

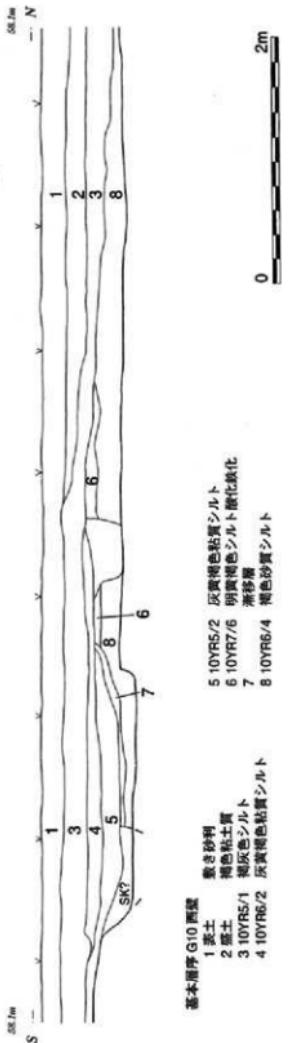


0 2m

第49図 下大曾根遺跡調査平面図・断面図(2)



第50図 下大曾根遺跡調査平面図・断面図(3)

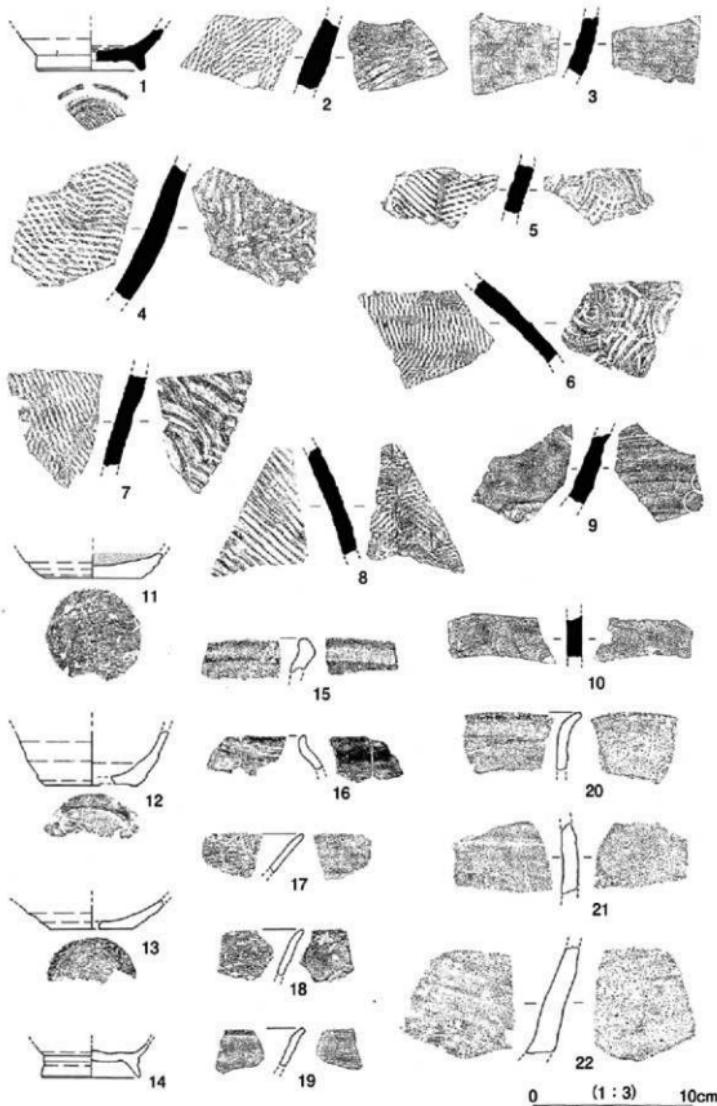


第51図 下大曾根遺跡調査断面図(3)



下大曾根遺跡調査トレーンチ西壁断面 E~

第37図 下大曾根遺跡



第52図 下大曾根遺跡出土遺物実測図



下大曾根遺跡調査状況 S ~



柱穴群検出状況近景 ES ~



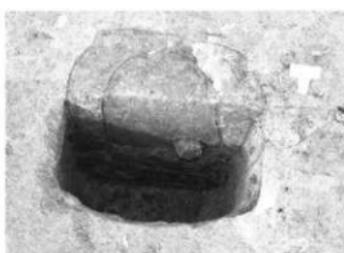
柱穴群検出状況遠景 NW ~



建物跡柱穴 EB36・37 断面



建物跡柱穴 EB7 断面



建物跡柱穴 EB11 断面



建物跡柱穴 EB 8

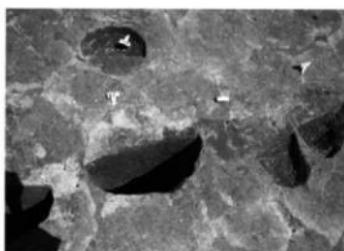


建物跡柱穴 EB 5

図版 3 8 下大曾根遺跡



柱穴群確認状況 N ~



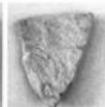
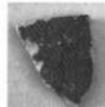
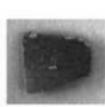
柱穴群半截状況 ES ~



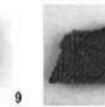
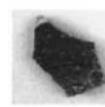
柱穴群検出状況 E ~



柱穴群検出状況 SW ~



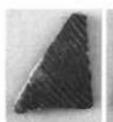
7



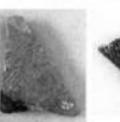
9



2



8



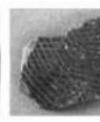
6



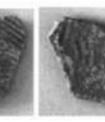
4



14



13



12



11



1



20



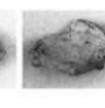
5



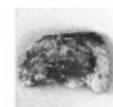
12



14



13



11

図版 3 9 下大曾根遺跡

(25) 莖田2遺跡（平成18年度新規登録）

所在地 鮎川村石名坂字蓀田

調査員 阿部明彦 石井浩幸 丸吉繁一

調査期日 平成19年5月23日 7月24日

起因事業 経営体育成基盤整備事業 鮎川左岸地区

遺跡環境 鮎川左岸の低位自然堤防に立地する。

試掘区 事業予定地内に調査区11ヶ所を設定。

5月23日 T1-1 (1.5m×80m) T1-2 (1.5m×37m) T1-3 (1.5m×62m)

T1-4 (1.5m×15m)

7月24日 T2-1 (1.8m×36m) T2-2 (1.8m×37m) T2-3 (1.8m×25m)

T2-4 (1.8m×20m) T2-5 (1.8m×60m) T2-6 (1.8m×25m)

T2-7 (1.8m×40m)

試掘方法 重機によりトレンチを入れた後、トレンチ壁及び底面の精査を行った。

試掘面積 291 m² +437 m²

検出遺構 (5月) 堅穴状遺構2基、溝跡5条、土壌14基、堀跡2条、柱穴群

(7月) 溝跡6条、土壌12基、河川跡1基、柱穴群

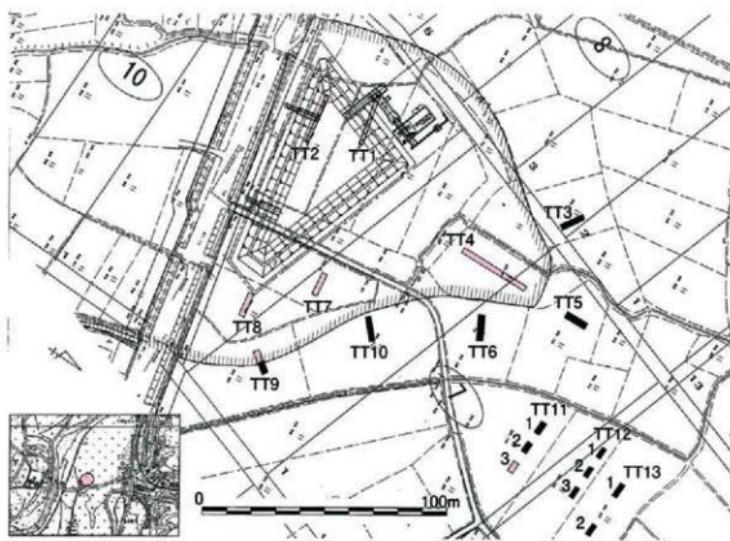
出土遺物 赤焼土器、須恵器、株洲系陶器（甕）

陶器、磁器、鉄鍋（底部）

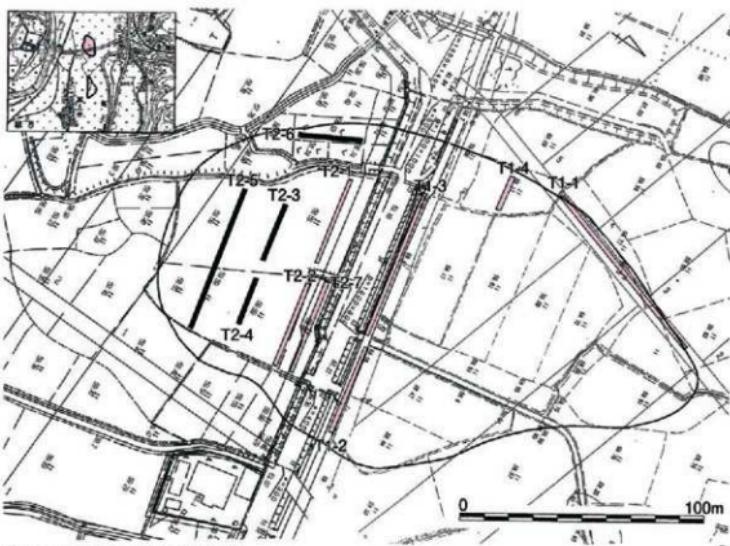
時代 平安時代・中世

所見 5月に用水路工事箇所について立会調査を実施した。平安時代の遺構遺物と中世の遺構遺物が検出された。以前の圃場整備のため、遺物包含層は削平される部分もあるが遺構は良好に保存されている。平安時代の遺構は、現地表面のやや高まっている部分を中心に南北に広がっていると考えられる。T1-3を中心に柱穴や土壌を確認、赤焼土器や須恵器の破片が出土した。中世の遺構は「館跡」と思われる堀跡の痕跡と伝承が残されており、調査でも時期不明の柱穴や溝跡が検出されている。想定できる堀跡のラインから館跡規模は、南北約80m、東西約80mのほぼ方形の館跡と推定される。遺物としては株洲系陶器や青磁の破片が出土している。株洲系陶器の年代から14～15世紀の館跡と考えられる。

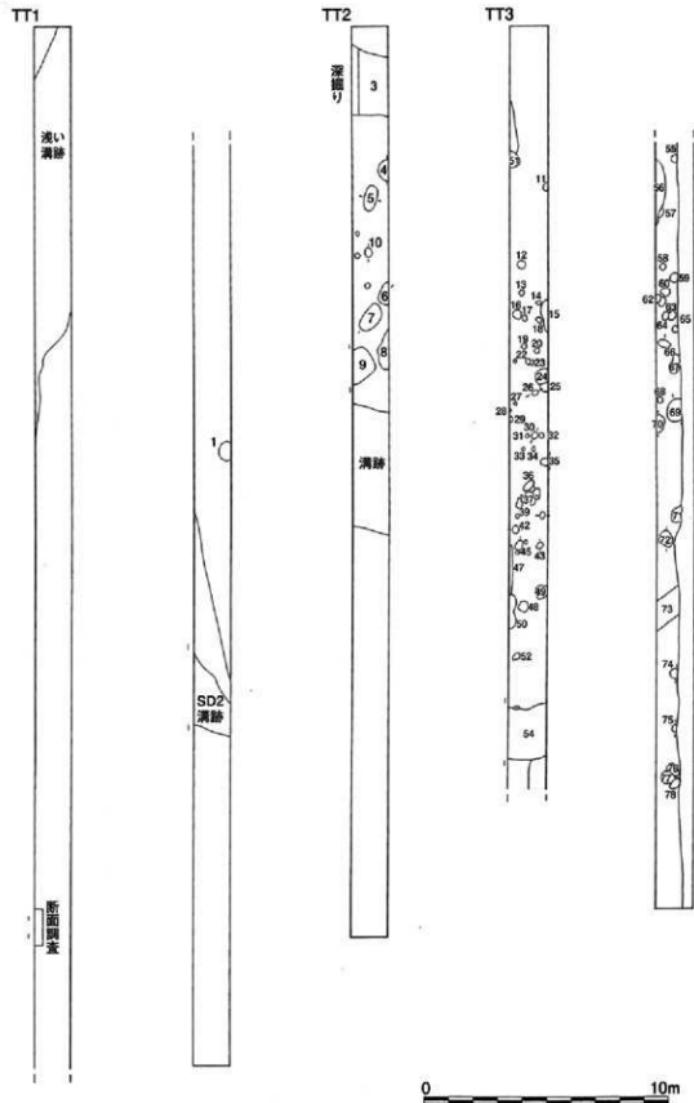
7月、道路を挟んだ南側部分について立会調査を実施した。平安時代の遺構・遺物と中世の館跡に関する遺構・遺物が検出された。以前の水田整備のため、包含層は削平された部分も見られたが、遺構は概ね良好に保存されていた。中世の遺構は、現地形がやや高まる部分を中心に南北に広がっている。遺構では、T2-2を中心に柱穴や土坑・溝跡があり、南側のトレンチT2-4、トレンチT2-5では遺構・遺物共に少なかったことから、南側に限られた範囲に集中していると考えられた。平安時代の遺構は全体に少なかったが、道路側の中央部分で確認している。平安時代の遺物では赤焼土器壺や内黒壺、甕の破片などが出土し、中世の遺物では株洲系陶器の甕や擂鉢等が認められた。



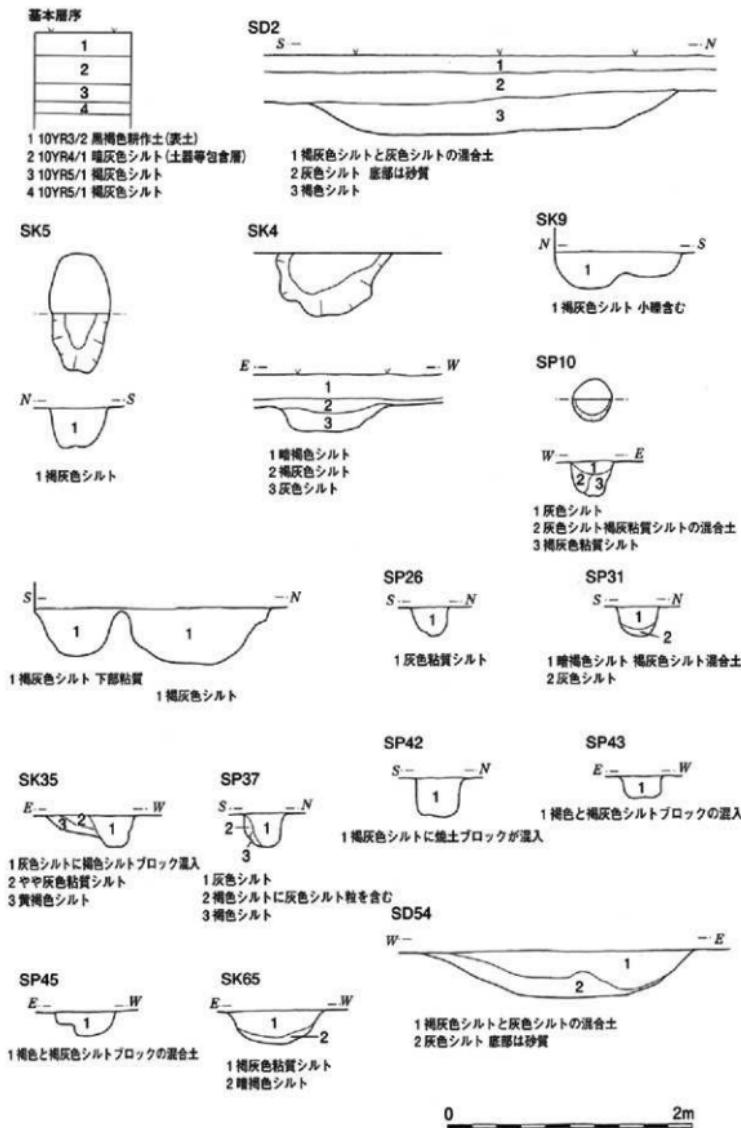
(平成18年度 調査概要)



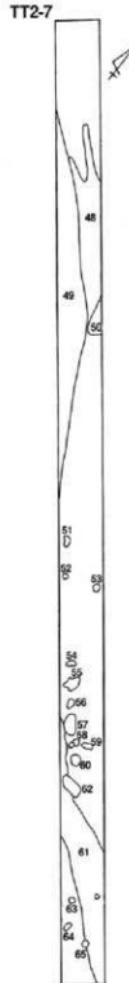
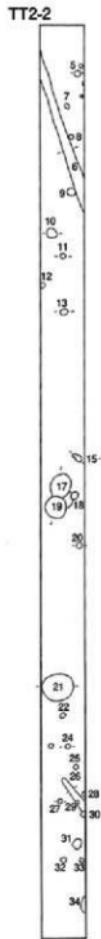
第53図 藤田2遺跡調査概要図



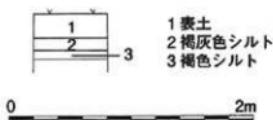
第54図 蓬田2遺跡調査平面図



第55図 蕎田2遺跡調査平面図・断面図(1)



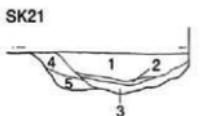
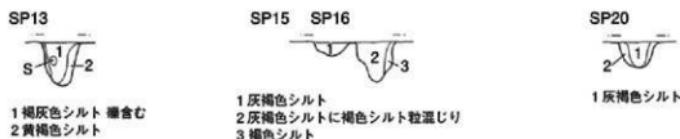
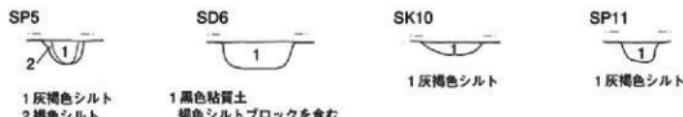
基本層序



0 2m

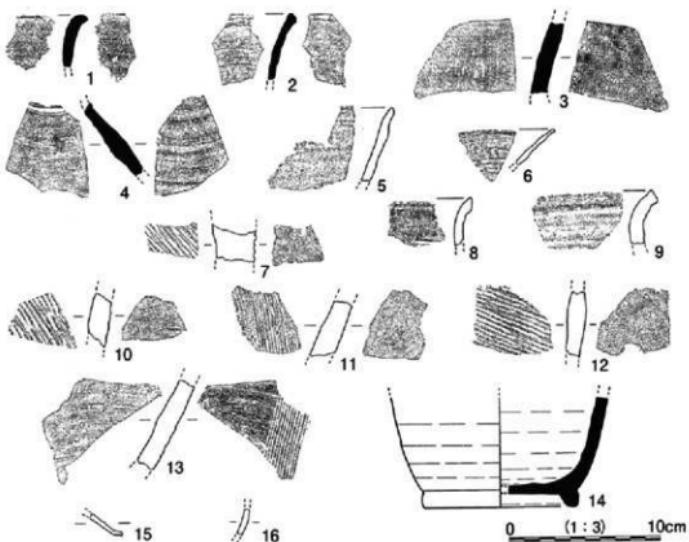
0 10m

第56図 藤田2遺跡調査平面図・断面図(2)

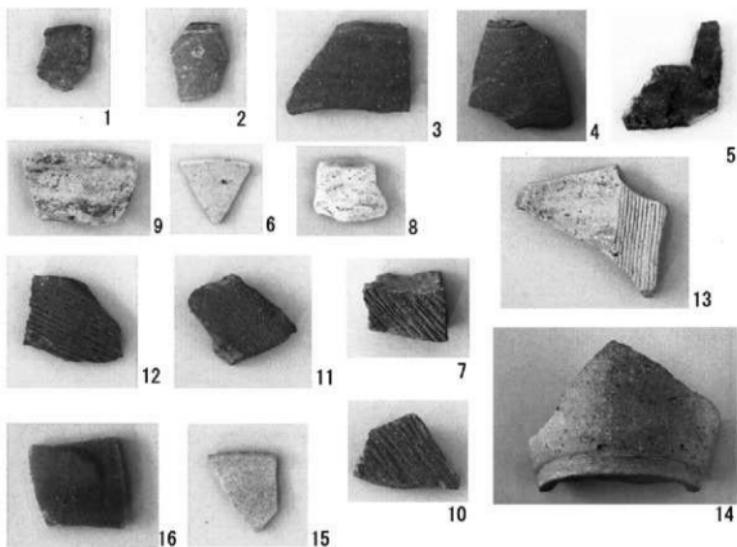


0 2m

第57図 蓬田2遺跡調査平面図・断面図(3)



第58図 蕁田2遺跡出土遺物実測図



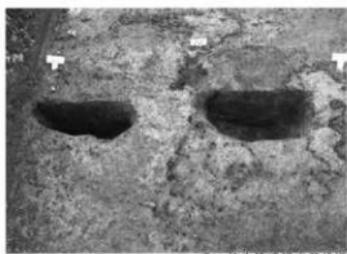
図版40 蕁田2遺跡



藤田2遺跡近景（西侧垣跡部分）NE～



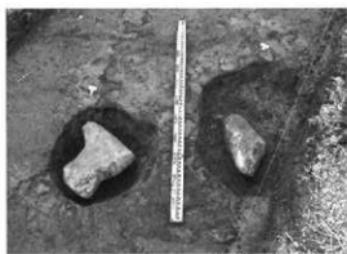
T3柱穴等遺構検出状況



T3柱穴等遺構半断状況



T3柱穴等調査状況



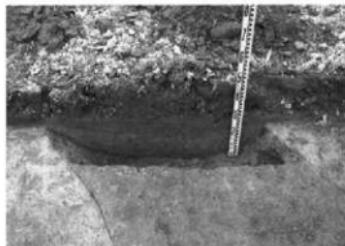
T3根石を伴う柱穴群



藤田2遺跡調査状況 W~



藤田2遺跡 T2 潟跡検出状況 W~



藤田2遺跡 SD73 潟跡断面 S~



藤田2遺跡 SK69・70 土壙 S~



藤田2遺跡 SK17・19 土壙半截状況 NE~

図版42 藤田2遺跡

(26) 山形元屋敷遺跡（平成 12 年度新規登録）

所 在 地 山形市谷柏

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調 査 期 日 平成 19 年 12 月 19 日

起 因 事 業 花川市道橋工事

遺 蹤 環 境 山形市街地の西方、標高 110m の平野部に立地する。花川の右岸にあたり、地目は市道・水田・果樹園などとなっている。

試 挖 区 事業予定地に調査区 2ヶ所を設定。

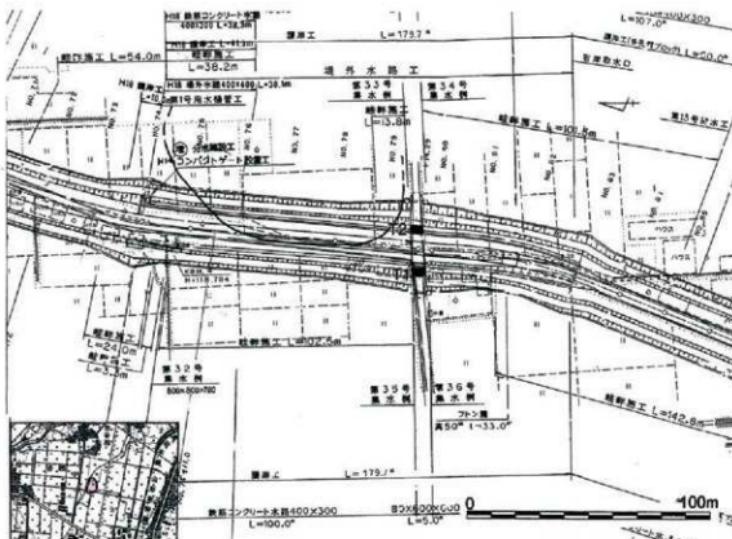
試 挖 方 法 計画区域について、重機による調査トレンチを入れた後、トレンチ壁面及び底面の精査を行なながら記録を行った。

試 挖 面 積 16 m²

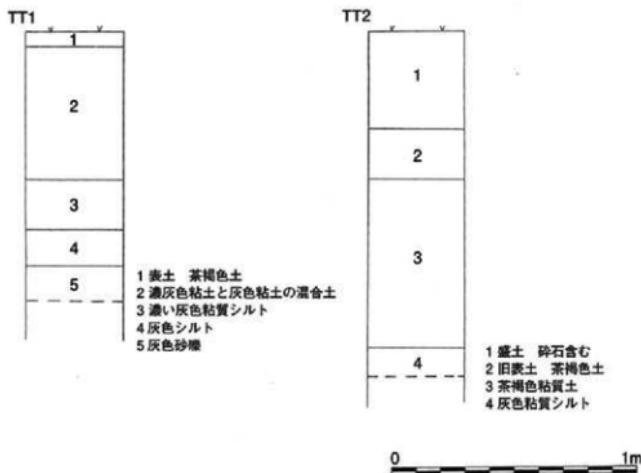
検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 表土に近世以降の磁器。堆積層内より土師器小片。

所 見 橋脚下部工事予定地に設定した 2 本のトレンチからは遺構は検出されなかった。いずれのトレンチも盛土下に旧表土、粘質土層、そして 5 層以下に砂礫層が堆積していた。3 層出土の土師器片は流れ込みの可能性が高い。



第 5-9 図 山形元屋敷遺跡調査概要図



第60図 山形元屋敷遺跡調査断面図



図版43 山形元屋敷遺跡

(27) 下反田2遺跡（平成13年度登録）

所 在 地 山形市大字下反田

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸

調 査 期 日 平成19年6月21日

起 因 事 業 須川下流部護岸復旧工事

遺 跡 環 境 下反田地区東側、反田橋上流の須川左岸段丘に立地する。標高は102m。

試 掘 区 復旧工事の予定箇所に調査区を設定した。

試 掘 方 法 工事区域について、重機により調査トレンチを入れた後、トレンチ壁面及び底面の精査を行いながら、遺跡の確認を行い、検出した遺構遺物は記録保存をする。

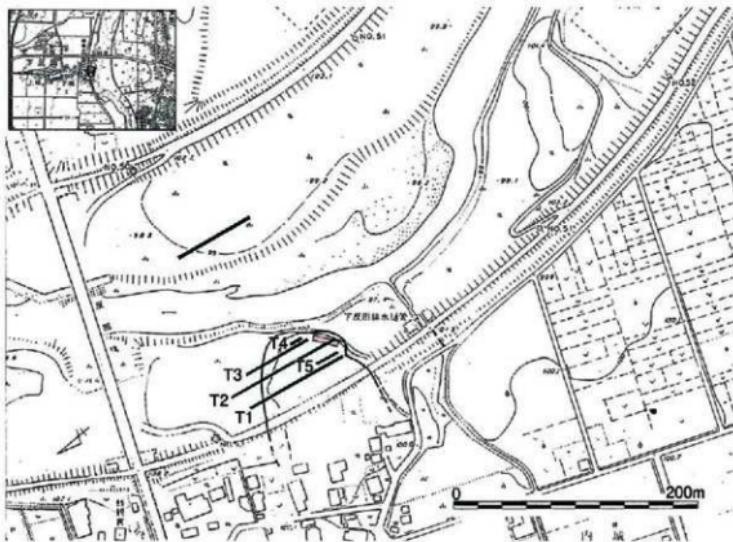
試 掘 面 積 80 m²

検 出 遺 構 竪穴住居1棟

出 土 遺 物 土師器（高坏・碗・甕）

時 代 古墳時代

所 見 表土下20cmの浅いところで古墳時代の住居跡を確認した。内部からは土師器の高坏や碗などが出土している。住居プランの確認は、ほぼ床面のレベルであった。なお、調査区の一部は、平成13年度に行った試掘トレンチと重なっている。

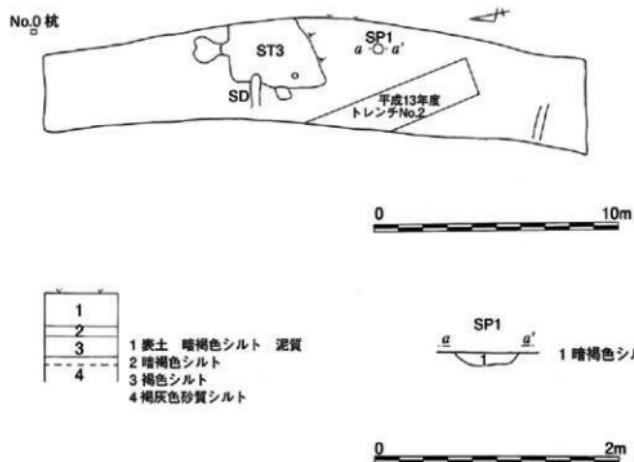


第61図 下反田2遺跡調査概要図



下反田2遺跡調査区全景 5m ~

図版44 下反田2遺跡



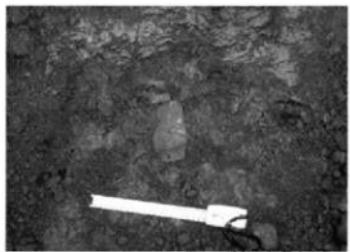
第62図 下反田2遺跡調査平面図・断面図



下反田2遺跡調査トレンチ全景 N~



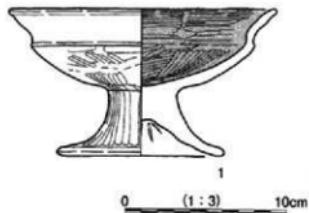
下反田2遺跡遺構検出状況 N~



下反田 2 遺跡出土器物出土状況



下反田 2 遺跡出土器物断面



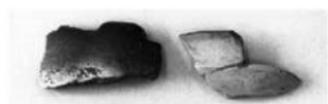
第 63 図 下反田遺跡出土遺物実測図



下反田 2 遺跡出土器物出土状況



1



2



3



1



4

図版 46 下反田 2 遺跡

(28) 下叶水遺跡（遺跡番号 4126）

所 在 地 小国町大字叶水字下叶水

調 査 員 阿部明彦 石井浩幸 丸吉繁一

調 査 期 日 平成 19 年 6 月 12 日 13 日

起 因 事 業 横川ダム建設事業

遺 跡 環 境 標高 270m 前後。横川右岸の低位段丘縁辺に立地

調 査 区 事業予定地に調査区を設定。

試 挖 方 法 対象区域について、重機によりトレンチを入れた。

試 挖 面 積 120 m²

検 出 遺 構 壇穴住居跡 2 基 土塙 14 基 柱穴 5ヶ所 近世以降の桶跡等 3 基

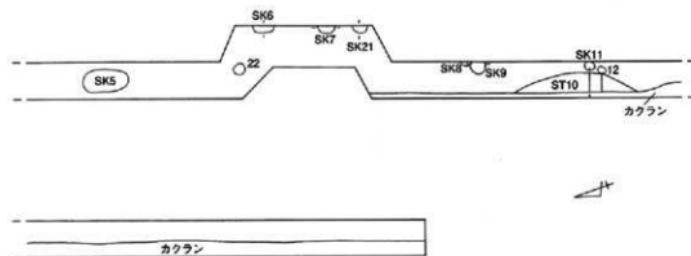
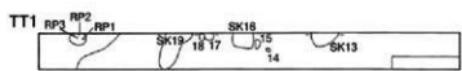
出 土 遺 物 繩文土器・石器（整理箱 2 箱）

時 代 繩文時代（後期・晚期）

所 見 遺構の大半は繩文時代晚期のものである。部分的ながら検出できた繩文の住居跡（ST10）は、出土遺物から大洞C2から大洞A式の時期とみられた。ST20は、炉跡と配石遺構があり、配石の間に土器が 3 固体埋設されていた。土器文様の入り組み磨り消し文等から後期後半の時期と見られる。



第 64 図 下叶水遺跡調査概要図

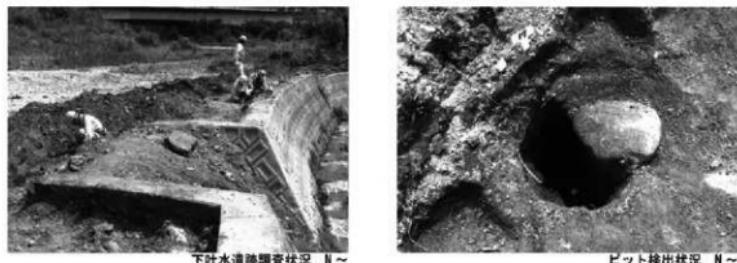


0 10m

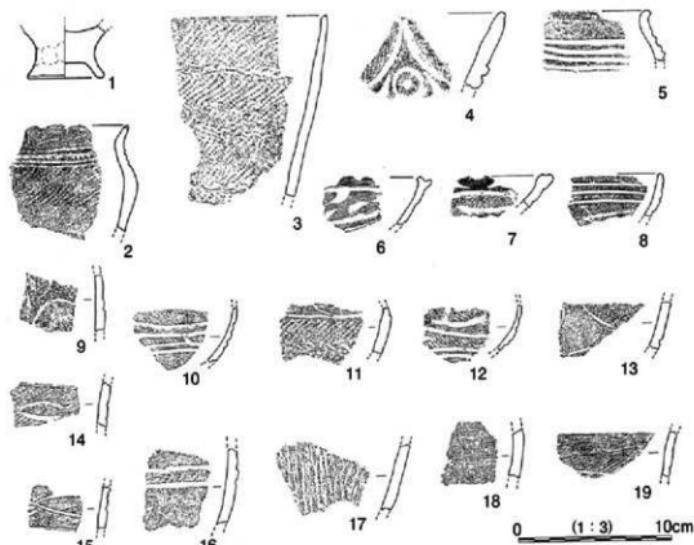
第65図 下叶水道跡調査平面図



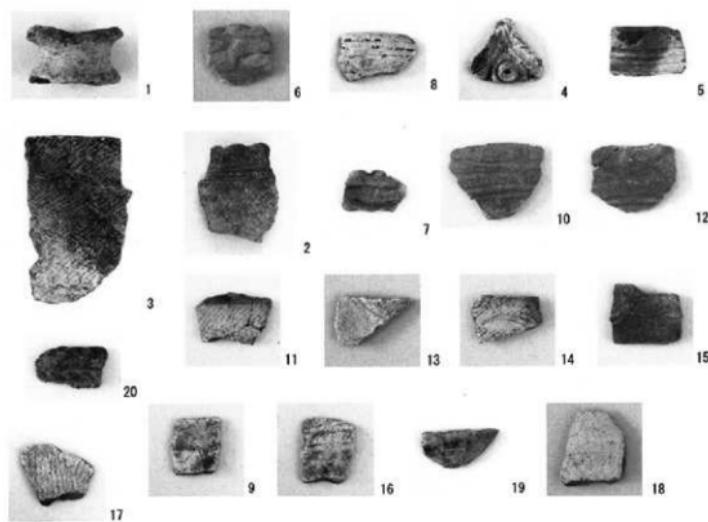
第66図 下叶水遺跡調査平面図・断面図



図版47 下叶水遺跡



第67圖 下叶水遺跡出土遺物實測圖



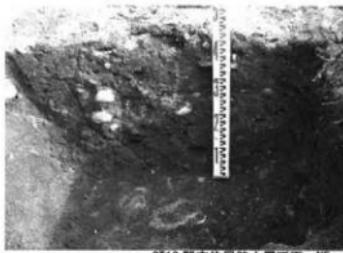
圖版4-8 下叶水遺跡



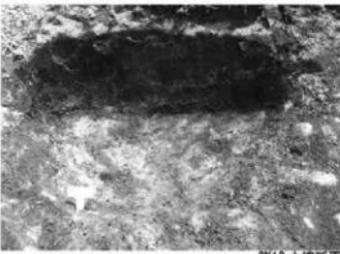
調査区全景 N ~



ST10 穹穴住居跡全景 NE ~



ST10 穹穴住居跡土層断面 NE ~



SK12 土壌断面



黒石と遺物の出土状況

図版49 下叶水遺跡

(29) 高瀬山遺跡

所在 地 寒河江市高瀬山乙

起因事業 最上川ふるさと総合公園整備事業

調査期日 調査打合せ：4月11日

立会調査	①4月16日・17日	②4月20日～23日
	③5月8日～10日	④5月29日～6月1日
	⑤7月3日～7日	⑥8月20日 21日
	⑦9月19日～25日	⑧11月28日
	⑨2月4日	

遺跡環境 遺跡は寒河江市街地の南西方向、東流する最上川に架かる高瀬大橋左岸から北西約150mの段丘面上に位置する。標高は113mを測る。地目は畑地である。

高瀬山遺跡一帯の地形は東側に河間低地や旧河道を残す後背湿地が広がり、西側にも旧河道を残す低位の段丘が広がっている。また1997年の東北横断自動車道建設では高瀬山を東西に掘削した際に断層露頭が現れ、阿小島功(1999)らの調査から沖積世に活動している活断層の存在が報告された。今回の調査区はこの活断層の位置する中位段丘にある。高瀬山遺跡は90haという広大な範囲があり、周辺には約40ヶ所近い遺跡が分布している。

試掘方法 工事計画区域について、重機による調査トレーニチを入れた後、部分的に手掘りでトレーニチ壁面及び底面の精査を行いながら、遺構の確認を行い、検出した遺構・遺物は記録保存とした。

時代 繩文時代～奈良・平安時代

調査の経緯 平成18年度に今後の公園整備計画と遺跡保護についての打合せを持ち、平成19年度に工事に先行して工事箇所に絞って立会調査を実施することとなった。対象箇所は、埋設管や給排水設備等に伴う線や点の部分が大半で、工事の計画に合わせて数回に渡る調査が予定された。

結果 4月の樹木(さくらんぼ)の移植や送水管設置箇所を始めとして、11月の公園内トイレ設置部分、平成20年2月に最終の園路工事に係わる立会調査まで計9次に及ぶ調査が必要であった。なお、各調査の内容は検出遺構・遺物共に纏った量となったことから、本報告書中の収録が不能となつたため、来年度の分布調査報告(36)の中で報告する予定である。

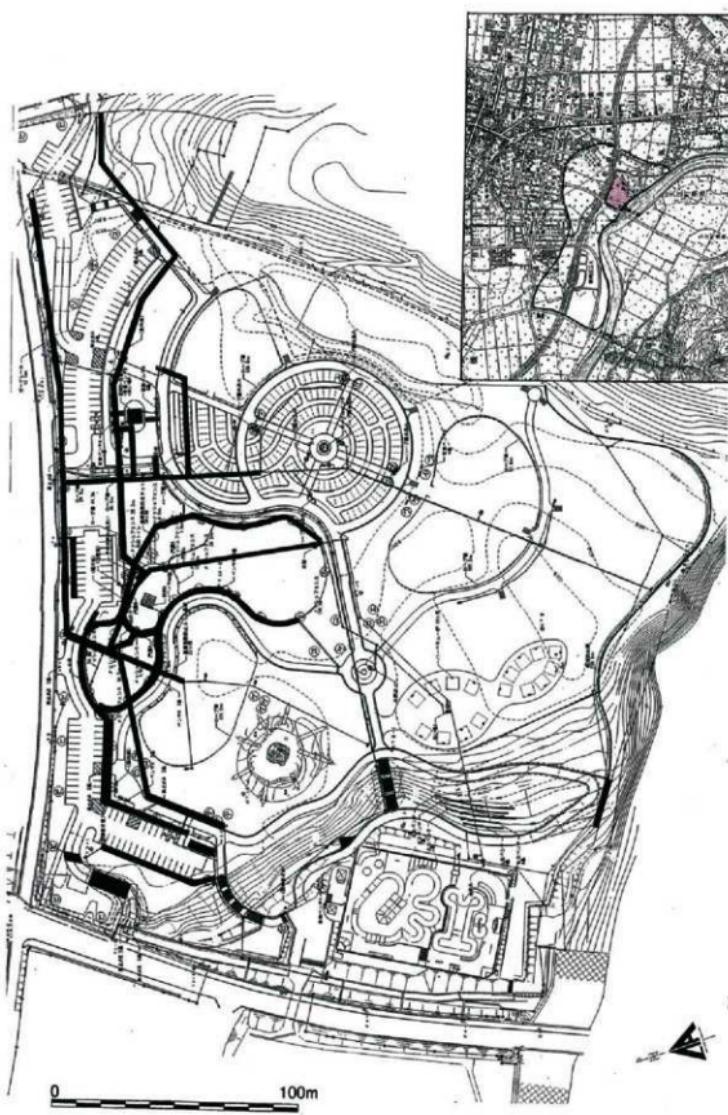


調査状況 ①～



送水管予定地のトレーニチ ②～

図版50 高瀬山遺跡



第68図 高瀬山遺跡調査概要図

表-3 掲載遺跡位置図使用図幅一覧（2万5千分の1）

No.	遺跡名	図幅名	No.	遺跡名	図幅名
1	後沢	新庄	31	亀ヶ崎城	酒田南部
2	昭和地区	羽前金山	32	豊龍館	宮宿
3	杉ノ木山	天童	33	みはらしの丘N o 19	山形南部
4	蓙田2 下大曾根	羽根沢	34	三沢 b	米沢東部
5	梨郷南館	羽前小松	35	山形城三の丸 旅籠町	山形北部
6	鶯畑新田	羽黒山	36	山形城三の丸 春日町	山形北部
7	小平4 真ヶ沢	羽後觀音寺	37	米沢南陽道路 I C	米沢北部
8	山岸	寒河江	38	西原	尾花沢
9	本合海上野1	古口	39	家の廻り	延沢
10	自姓寺	古口	40	小岩川地区	温海
11	本合海上野2	古口	41	下叶水	小国東部
12	小關可能性地1 2	寒河江	42	間沢館	海味
13	藏増宮田	寒河江	43	渡北館	米沢北部
14	五十沢公園	延沢	44	水窪	米沢東部
15	山元遺跡	天童	45	早房A	富並
16	窪田 可能性地1	米沢北	46	植ノ山2遺跡	上山
17	井上館	羽前小松	47	植ノ山3遺跡	上山
18	潜清水b	米沢北	48	新町遺跡	長井
19	上新田b	糠野目	49	南台遺跡	長井
20	中川原	糠野目	50	山形元屋敷遺跡	山形南部
21	飛鳥 可能性地2	余目	51	下反田2遺跡	山形北部
22	飛鳥神内遺跡	余目	52	高瀬山遺跡	寒河江
23	白山 可能性地	鶴岡	53	藏増宮田遺跡	寒河江
24	鮎貝城	荒砥			
25	天童古城	天童			
26	間木の内	銀山			
27	橋畠橋	天童			
28	堅苦沢館	三瀬			
29	由良館	三瀬			
30	船止	羽後觀音寺			

IV まとめ

平成 19 年度の遺跡詳細分布調査は、平成 20 年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにし、開発との調整を図ることを目的として実施したものである。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会調査も行った。

1 調査遺跡数

調査遺跡数 86 遺跡（表面踏査・試掘調査・発掘調査・立会調査等を実施した遺跡）、その他に調査遺跡数に含めないが、開発との調整で現地確認調査を実施したもの（調査の結果、遺跡には影響が及ばなかったもの）や表面踏査により各種開発事業予定地で抽出した遺跡可能性地（今後の試掘調査等で遺跡となるかを判断するもの）などについても調査対象とした。

2 新規発見遺跡、範囲の訂正、遺跡登録抹消

今年度の新規発見遺跡数 6 遺跡

範囲の訂正、名称の変更等の措置が講じられた遺跡数 5 遺跡

以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

（1）県教育委員会が発見し登録した遺跡

(遺跡名)	(所在地)	(種別)	(時期)
1 下大曾根遺跡	鮎川村大字庭月字下大曾根	集落跡	平安時代
2 丑ヶ沢遺跡	酒田市大字市条字小平	集落跡	縄文時代 平安時代
3 後沢遺跡	金山町大字漆野字春木	散布地	縄文時代
4 鶯畑新田遺跡	鶴岡市大字添川字鶯畑新田	包蔵地	弥生時代 平安時代
5 蔵増宮田遺跡	天童市大字藏増字宮田	散布地	古墳時代
6 本合海上町 2 遺跡	新庄市本合海字上野	散布地	縄文時代

（2）範囲等の修正を必要とする遺跡、登録を抹消した遺跡

(遺跡名)	(変更内容)	(変更を必要とする文献名)
1 梨郷南館	範囲の修正	平成 15 年 3 月『山形県遺跡地図 CD-ROM』
2 蓬田 2 遺跡	範囲の修正	
3 蓬田遺跡	抹消	
4 島遺跡	範囲の修正（山形市大字島：範囲確認調査の実施による修正）	
5 千手院	範囲の修正一部削除（山形市大字山手：山形県遺跡地図番号 186）	

報告書抄録

ふりがな	ぶんぶちょうきはうくしょ					
書名	分布調査報告書(35)					
副書名						
巻次						
シリーズ名	山形県埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第210集					
著者名	阿部明彦 石井清幸 小嶋康広 丸吉繁一					
編集機関	山形県教育委員会					
所在地	〒990-8570 山形県山形市松波二丁目8番1号 TEL 023-630-2880					
発行年月日	西暦2009年3月26日					
	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
しもおおそね 下大曾根	やまとがたけん 山形県 さけかわむら 鶴川村 あざしもおおそね 宇下大曾根	06366 平成19年 登録	38度 49分 39秒	140度 14分 11秒	20070730 ～ 20070803	996 経営体育成 基盤整備事業
むちだに 藤田2	やまとがたけん 山形県 最上郡 さけかわむら 鶴川村 あざむぐらだ 字藤田	06366 平成18年 登録	38度 49分 52秒	140度 14分 7秒	20070523 ～ 20070724	728 経営体育成 基盤整備事業
しもそりだに 下反田2	やまとがたけん 山形県 山形市 おおおさしまそりだ 大字下反田	06201 平成13年 登録	38度 16分 19秒	140度 16分 28秒	20070621 ～	80 須川下流部 護岸復旧工事
しもかみみず 下叶水	やまとがたけん 山形県 小国町 おおおさかみみず 大字叶水 字下叶水	06401 4126	38度 0分 6秒	139度 48分 16秒	20070612 ～ 20070613	120 横川ダム 建設事業
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
下大曾根	集落跡	平安時代 江戸時代	掘立柱建物跡 土塁 溝跡 柱穴群	赤燒土器 黒色土器 須恵器 陶磁器	柱穴焼土器が少ない平安時代の掘立柱跡、隣接した火出山(十石山)と遺跡の併存から、年代が重複でき、この遺跡の発掘今後遺物を発見上で貴重な資料となる。	(出土箇数1)
藤田2	集落跡 城柵跡	平安時代 鎌倉時代 室町時代	堅穴状遺構 溝跡 土塁 堤跡 柱穴群	赤燒土器 黒色土器 須恵器 青磁 陶器	下大曾根遺跡に隣接する平安時代～中期に及ぶ城柵跡、中世初期以降に構築されたと考えられる一房約10mの城柵の方舟型が推定される。遺跡は伝統したと考えられる町呼等の区画から、上部が50~100mほど推測される。	(出土箇数1)
下反田2	集落跡	古墳時代	堅穴住居跡 溝跡 土塁	土師器壺 土師器高壺 土師器高甕	山形市西端の源川左岸に位置する古墳時代後期を主ととする集落跡、遺跡工事によって削除されてしまった可能性がある。堅穴住居跡は土塁などが検出され、当時の生活が河川と密接な係わりの中で行われていたことが窺えられた。	(出土箇数1)
下叶水	集落跡	溝文時代 江戸時代	堅穴住居跡 土塁 柱穴 埋埴	溝文土器 石器	精川上流域に位置する水道跡は、山形奥地に含まれる萬代時代後期から後奈良時代にかけての奈良盆地である。今回調査を実施した地点は、複数の河川から外れた河川側の位置において、部分的なが堅穴住居跡や土塁などの遺構部分が広がりが確認できた。	(出土箇数2)

山形県埋蔵文化財調査報告書第210集

分布調査報告書（35）

平成19年度以降農林土木事業他関係遺跡
国土交通省事業関係遺跡
農林水産省関係遺跡
東北中央自動車道関係遺跡

平成21年3月23日 印刷

平成21年3月25日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 株式会社ケムシー
